

上田市文化財調査報告書第57集

藤之木遺跡

浦里住宅団地（仮称）造成工事に伴う藤之木遺跡発掘調査概報

1996.3

上　　田　　市

上田市教育委員会

長野県住宅供給公社

上田市文化財調査報告書第57集

藤之木遺跡

補里住宅団地（仮称）造成工事に伴う藤之木遺跡発掘調査概報

1996.3

上　　田　　市

上田市教育委員会

長野県住宅供給公社

序

上田市の最西部に位置する浦野地区には、古代には都と東国・奥州を結ぶ令制東山道が、近世には上田と松本を結ぶ保福寺道が通っていました。近代になると、国道143号線が近代的な道路幅と直線性をもって開通し、松本平と上田を結ぶ交通の要衝となっていました。なかでも、保福寺道においては「浦野宿」が形成され、その家並みは現在にも伝わり、往時をしのばせています。また、今では残り少なくなった木造校舎の浦里小学校は、近代の「教育県長野」の機運の昂まりを、その校舎の随所に体現しています。

このたび、長野県住宅供給公社によって当地に住宅団地が造成されることになり、その区域内に存在する藤之木遺跡を発掘調査し、その結果についての概要をここにご報告する次第です。

上田市は、平成8年度からはじまる第三次長期基本構想を「創造・活力・ときめきのまち 上田 -学術研究都市をめざして-」と掲げました。私たちは、この実現のためにも、先人の文化を学び、後世に伝えなければなりません。『20世紀末の上田市の祖先は、大切な文化財を、何も私たちに残さなかった…』と未来の子供達にいわれないためにも、また、真に学術的に水準の高い都市を作るためにも、基礎的資料の収集である発掘調査を高水準でおこない、せめて記録だけでも後世に伝えることは、地道な活動ではありますが、重視しなければなりません。また、現在編さん作業を行っている上田市誌は、「市民の誰もが読める」本を目指していますが、これは、こうした基礎的な資料の収集・研究の上に構築される、ピラミッドの頂点のように、もっとも崇高な目標点です。

ここにご報告する調査結果は、諸般の事情で概要のみのものとなってしまいましたが、今後の市誌等を通じてご報告差し上げて参りたいと存じます。

最後となりましたが、今回の調査に際し、ご理解・ご協力をいただいた長野県住宅供給公社、浦野・越戸・藤之木の各自治会の皆さま、そして何より、盛夏の炎天下に、過酷な作業に従事していただいた皆さまに感謝申し上げ、序といたします。

平成8年3月

上田市教育委員会教育長 内藤 尚

例　　言

- 1 本書は、長野県上田市大字浦野字湯道における、浦里住宅団地造成に伴う、藤之木遺跡発掘調査概要報告書である。
- 2 調査は、長野県住宅供給公社の委託に基づき、上田市（上田市教育委員会事務局社会教育課）が実施した。
- 3 現地調査は、平成7年4月17日から8月10日まで行い、整理作業は、現地調査中から平成8年3月31日まで実施した。
- 4 遺構の実測は、中沢徳士・大井敬子・池内宣裕・井沢光子・山本万里・丸田由紀子・小山倍子・池田市郎が行った。
- 5 諸般の事情により、遺物の実測は実施していない。
- 6 遺物の洗浄は、現地作業員が雨天時等に行い、注記と接合は整理作業員が行った。
- 7 本文の執筆は中沢が行った。
- 8 遺構・遺物写真は、中沢・池内が撮影し、全体航空写真は、図化用航空写真の撮影とともに、㈱新日本航業に委託して実施した。
- 9 版組及び遺構の観察表の作成は、実測者の観察をもとに整理作業員が行った。
- 10 現地調査に係る基準点・水準測量及びメッシュ杭打（3×3m）は、みすず測量設計㈱に委託して実施した。
- 11 本調査に係る資料は、上田市立信濃國分寺資料館に保管している。
- 12 本調査にあたり、次の方々にご指導・ご協力をいただいた。記して感謝する次第である。
浦野・越戸・藤之木自治会の皆さん、五十嵐幹雄・塙入秀敏さん室
- 13 本調査に係る調査の体制は次のとおりである。

事務局の体制	調査作業の体制
教育長：内藤尚	調査補助 池内宣裕・西沢勝・大井敬子
教育次長：荒井鉄雄	調査作業
社会教育課長：松沢征太郎	磯部應二・竹内勇・成沢伯・野田三雄
文化係長：岡田洋一	土屋友春・小山幹雄・小山倍子・井沢光子
主査（担当）：中沢徳士	井沢ゆき・関美和・里美モトメ・吉原みさを
主任：尾見智志	室沢美代子・山本万里・滝沢章子・平林とみ子
”：塙崎幸夫	井沢尚美・酒井祥・池田市郎・甲田五夫
”：久保田敦子	関忠彦・西沢勲・山崎武比古・桜井守夫
主事：清水彰	清水圭子・丸田由紀子・池田才次郎・久保田哲
嘱託：西入元三郎	関とみ江・宮崎のぶい・鈴木義房・鈴木まさみ

凡 例

遺構

- 1 遺構は、次の()内に示す略号で表し、続く番号は任意である。
竪穴住居址 (S B -) 土壙 (S K -) 溝址 (S D -) ピット (P -) 住居址内
ピット (P) 単体出土土器 (P o -)
- 2 遺構の図版は、原則として国家座標に基づく北を頁の上とし、その他の場合は方位を示した。
- 3 遺構実測図は、原則として原図1/20で、1/3縮小とした。また、住居址の竪、遺物出土状況等、必要に応じて原図1/10、1/3縮小とした。
- 4 遺構が、時代の新しい遺構、あるいは擾乱等によって破壊を受け、プランが明確でない場合は、その遺構の推定プランを破線で示した。
- 5 住居址の主軸方位は、国家座標の真北と竪を通る住居址の中軸線との成す角度で示した。
- 6 標高の単位は、すべて「m」である。
- 7 遺構図中の網点 [] は焼土を示し、[] は炭化物を示す。
- 8 遺構写真図版の縮小は、任意である。
- 9 遺構観察表の標記方法は次のとおりである。

遺構	遺構番号	形態方位	平面形態 凡例による 平面の長軸×短軸(単位:m)	壁床高 床面積	竪の最高 床の最高(単位:m) 床の平面積(単位:m)	竪	位置方位 規模	竪の位置 主軸方位 最大長×最大幅
図版	圖版番号	規模						
柱穴	個数	柱穴の(長径×短径×深さ)単位:m						
備考								

遺 物

- 1 本調査では、遺物の実測は省略した。

目 次

序	第1節 地理的環境 4
例言	第2節 歴史的環境 4
凡例	第3節 遺跡の基本層序 8
目次	第三章 調査の結果 9
第一章 序説	第1節 検出遺構図 9
第1節 調査に至る経過 1	
第2節 調査の方法 2	
第3節 調査の経過 2	
第二章 遺跡の環境	写真図版	
	報告書抄録	
 4	



第1図 藤之木遺跡発掘調査地点

第一章 序 説

第1節 調査に至る経過

平成6年10月、長野県住宅供給公社（以下、「公社」という。）から、上田市教育委員会事務局社会教育課（以下、「事務局」という。）に、上田市大字補野字湯道地区に、37,000坪に及ぶ住宅団地の造成計画があり、平成7年度4月から施工、平成8年7月分譲開始の予定があるが、埋蔵文化財についてはいかがか、という協議があった。

事務局で、その範囲に係る埋蔵文化財の分布状況を分布図及び分布調査報告書（1977上田市教育委員会発行「上田市の原始・古代文化」）によって確認したところ、当該区域の北半部に周知の埋蔵文化財包蔵地である藤之木遺跡が存在していることが示されていた。事務局では、遺跡の範囲確認のための試掘調査を12月21～23日に実施した。その結果、施工範囲の北西部及び南中央部に弥生時代後期～平安時代の住居址・溝址・ピット等が確認され、その保護措置が必要となった。（1995上田市教育委員会発行「市内遺跡IV」）事務局では、上田市の担当課を通じてこのことを伝え、平成7年1月6日、遺跡の保護協議を、公社、上田市担当課（川西支所）、事務局及び長野県教育委員会事務局文化課（以下、「文化課」という。）の担当者により、上田市川西支所会議室において実施した。

協議では、開発の概要について公社から、試掘調査の結果について事務局から説明した後、具体的な協議にはいった。文化課からは、今回の事業は埋土部分についても発掘調査による記録保存が必要な事業であること、公社からは、発掘調査をするだけの期間的・時間的な余裕がないこと、事務局からは、調査に割ける人員が不足していること、という意見が交わされた。最後に、文化課から事務局に対し、さらに詳細に遺跡の範囲を確定するため、追加トレーニング調査を実施するとともに、調査費の積算と調査体制の再検討を、公社に対し、工期及び事業費の再検討をするよう指導があり、2月初旬に改めて協議を実施することとした。

事務局では2月3日に追加調査を実施し、その結果をもって3月17日、再度協議を実施した。その結果、調査期間・調査費用については十分なものではなかったが、事務局の体制的な力量と、公社の予算的な限界により、次のとおり協議が成立した。

1 発 勘 調 査 地：上田市大字補野字湯道	5 調査の作業日数：発掘作業60日、整理作業120日、合計180日
2 遺 跡 名：藤之木遺跡	6 調査に要する費用：32,000,000円
3 遺 跡 の 状 況：（地図）田びび地（複数状況）一部	7 調査報告書作成部数：300部
4 調査の目的及び概要：道型住宅団地造成に先立ち、施工範囲内に存在する藤之木遺跡6,000坪以上を発掘調査し、遺跡の記録保存を図る。 調査における調査作業は平成7年7月17日までに終了する。 調査報告書は平成8年3月25日までに提出する。	8 発 勘 調 査 の 主 体 者：上田市長竹下徳男（上田市教育委員会）
	9 そ の 他：調査の結果、重要な遺構などが発見されたときは、その保存について改めて協議する。

第2節 調査の方法

遺跡名は、長野県教育委員会作成の遺跡台帳に記載されている「藤之木遺跡」とした。また、記録の便宜を図るため、遺跡略号としてFuji-No-KiのF NKを与えた。各種の記録や遺物の注記等は、この記号を用いている。

調査範囲の設定については、今回の造成工事が、「永久構造物の建設」に該当するため、原則として施工区内の遺跡については全面調査対象とした。ただし、昭和40年代のは場整備事業により、壊滅的な破壊を受けている範囲については、対象外とした。この結果、調査区域は2ヶ所設定され、東からA、Bの区域名を付した。そして、A地区の略号をF NK-A、B地区的略号をF NK-Bとした。調査面積は、A地区が約2,000m²、B地区が約4,500m²である。

遺構調査に際しては、表土剥ぎはすべてバックホーを用い、その後の作業はすべて人力によった。測量には、国家座標による3×3mのメッシュを設定し、簡易やり方測量を実施した。メッシュの交点には記号を付し、グリッドを設定、基準点を0とし、そこから方向を表すために東・西・南・北をE・W・S・Nと、距離を表すため、3mを1単位とした記号を付した。例えば、基準点から北に15m、東に24mのポイントは、N 5 E 8となる。グリッド記号は、北東のメッシュポイントによって表し、包含層出土遺物は、このグリッド記号によって取り上げた。また、調査終了後は、航空写真測量用の写真撮影を実施している。

なお、基準点の座標値はA地区北のX=41,211.00、Y=-30,303.00であり、上田地区は国家座標第Ⅲ量系に属している。

第3節 調査の経過

現地調査は、平成7年4月17日にバックホーによる表土剥ぎから着手した。人手による作業は4月26日からとし、この間、作業員の募集を上田市川西支所を窓口に行い、作業棟の設置、基準点やメッシュ杭打ちの準備等を行った。

4月26日から作業員を約40名投入し、A地区の遺構検出～掘り上げ～写真撮影～実測を行い、順次B地区へ移動していき、現地調査終了は当初7月17日までの予定であったが、予想以上に良好な遺構が多数検出されたり、長引く梅雨の影響で、最終的には8月10日まで頑延された。以下、調査の進捗を調査日誌（抄）によってみる。

調査日誌（抄）

- 4/17 A区の重機による表土剥に着手する。
4/26 この日から作業員投入。作業の方法、雇用条件等について説明の後、A区の遺構検出に入る。
4/27 A区の表土剥が終了する。
4/28 B区表土剥着手。A区の遺構検出作業と並行してB区の遺構検出作業を行う。
5/10 A区遺構掘り上げ着手。並行してB区の遺構検出作業を行う。

- 5/29 雨のため、作業棟で土器洗いを行う。
- 6/ 2 重機による表土剥がすべて終了する。
- 6/ 5 B区SD-01の掘り上げに着手。
- 6/ 7 前日来の雨のため、午前中はA・B区ともに排水作業を行ったものの、A区がぬかるみで調査が不可能なため、午後は全員でB区SD-01の掘り上げを行う。
- 6/ 9 雨のため、作業棟内で土器洗いを行う。
- 6/14 大雨のため、午後の作業を中止する。
- 6/28 航空写真撮影に備え、A区の清掃及びA区周辺の草刈りを行う。
- 6/29 A区測量用航空写真撮影を行う。A区の掘り上げ終了。
- 6/30 B区SB-49床面から銀環が、SB-54から草食動物（馬か？）のものと思われる骨が出土する。
- 7/ 4 雨のため、作業棟内で土器洗いを行う一方、B区の排水作業及び周辺の草刈りを行う。
- 7/11 朝方雨のため、10時まで作業棟内で土器洗いを行い、以後、排水作業と掘り上げを行う。
- 7/12 雨のため、現場作業は全面中止し、B区の排水作業を行いつつ、作業棟内で出土遺物の整理を行う。
- 7/21 雨のため、現場作業は全面中止し、B区の排水作業を行いつつ、作業棟内で出土遺物の整理を行う。
- 7/31 B区Po-05を半載したところ、弥生時代後期の合わせ壺と判明する。
- 8/ 7 B区の掘り上げがほぼ終了し、航空写真撮影に備え、B区の造構清掃を行う。
- 8/ 8 B区測量用航空写真撮影を行い、現地調査がほぼ終了したため、発掘機材の片付けを行う。
- 8/10 実測作業・掘り上げ作業がすべて終了し、現地調査をすべて終了する。

これ以降、上田市天神二丁目に所在する埋蔵文化財整理室で遺物整理作業と報告書作成作業を断続的に行い、平成8年3月、本報告書を刊行し、調査はすべて終了した。

なお、この間、公社と上田市で締結した委託契約の内容のうち、現地調査終了期限の変更契約を平成7年7月10日に行い、入札差金及び不用額の発生に伴う委託金額の変更契約を平成8年2月16日に行っている。

第二章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

藤之木遺跡は、上田市の西端、通称川西地区に所在する。川西地区は大別すると、浦野川を主流とする浦里地区と、室賀川を主流とする室賀地区及び浦野川と室賀川が合流する小泉地区に分けられ、本遺跡は浦里地区のほぼ中央に位置する。

浦里地区には、青木村山中に源を発し、千曲川に向かって北東流する浦野川が南側に流れ、北側に子被巖岳(1,223m)に源を発する阿烏川が流れる徽高地上に位置する。遺跡は、基本的にはこの浦野川が形成した扇状地面にあり、阿烏川によって形成される北側からの扇状地によって、浦野川が南に圧迫され、平野部が一段と広くなっている箇所である。

遺跡の標高はおおむね500m前後を計り、遺跡の北500mには三ツ頭山(923m)。飯糰山(932m)が、南には夫神岳(1,250m)と、それから続く山塊と川西丘陵が連なり、浦野川扇状地は西の青木村に行くに従い幅を狭め、東は千曲川に向かって、いよいよその幅を広めている。

浦野川は現在、遺跡から約300m南、比高差で約7m下を流れている。しかし、A地区の調査では、浦野川の旧河床を掘り抜いて建てた古墳時代後期の堅穴住居址や、旧河床を掘り抜いて建てて、氾濫による砂礫で埋没した平安時代後期の堅穴住居址が検出されており、浦野川の水位は現在よりかなり高く、また、川の左岸は北に寄っていたことが伺える。

気候は典型的な内陸性のもので、特に年間降水量は1,000mm以下と極めて少なく、天然の湧水には恵まれないため、この地域の遺跡の多くは河川の段丘上に位置し、水を河川に依拠していることが伺える。

第2節 歴史的環境

周辺の遺跡から、この地域の歴史的な概要を見ると、縄文時代早期がその初現となっている。すなわち、浦里地区に隣接する青木村の、湯ノ平遺跡において猪円・山型押型文土器及び諸磯A・B式土器、地獄沢遺跡で諸磯C式及び下島式土器が採取されている。上田市では、小泉地区的和合遺跡で上原式、室賀地区的谷鬼遺跡で芽山式土器の採取がある。

中期以降、遺跡数は増加し、青木村で38、浦里地区で10、室賀地区で10、小泉地区で13遺跡が知られている。

中期後葉から後期にかけては、室賀地区で1990年に室賀川左岸の日影遺跡が調査され、敷石住居址4軒が（1992年上田市教育委員会『日影・田中遺跡』）、小泉地区で1989年の小泉地区浦野川左岸の大通下遺跡の調査で、敷石住居址4軒。石棺墓が検出されている。

後期では、当遺跡から200m北東の阿烏川右岸段丘上の下前沖遺跡が、1980年に発掘調査され、加曾利B式、大洞C₂式及び土製耳飾81点の出土を見ている。（1981年上田市教育委員会『下前沖遺跡』）

弥生時代の遺跡については、前中期の遺跡は報告されておらず、そのほとんどが後期後

葉箱清水期の遺跡である。なかでも、1986～87年に調査された小泉地区の浦野川右岸の琵琶塚遺跡からは、23軒の当期の住居址が、前述の大道下遺跡からも8軒の住居址が、さらに室賀地区室賀川左岸の岳の鼻遺跡では古墳時代への過渡的な住居址が多数検出し、室賀川と浦野川の合流地点を中心に、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけて、一大文化圏が形成されたことが伺われる。

古墳時代の遺跡については、古墳の数に比べて少數である。小泉地区の和合将軍塚古墳は礫椁をもつ堅穴式石室と推測され、かつて鉄剣2口が出土したと伝えており、6世紀前葉の古墳に比定される。その他、周辺で湮滅したものも含めた18基の古墳のすべては後期後葉から終末期に築造されている。藤之木遺跡に直近の古墳としては、遺跡南の飯綱山塊中腹に古墳時代後期の浦野塚古墳がある。

集落遺跡としては、前出の琵琶塚遺跡・大道下遺跡・岳の鼻遺跡が確認されている。琵琶塚遺跡、大道下遺跡、岳の鼻遺跡では30～50軒の住居址が各遺跡で確認され、前述古墳の築造を支える基盤の存在が想定され、浦野川流域を経済基盤とした勢力の台頭を感じさせる。

奈良・平安時代の当地域の開発はいよいよ盛んになったと思われ、遺跡数が急増する。8世紀、上田には信濃國府・信濃國分寺が置かれ、令制東山道も川西地区谷平野の中央を、直線的に開かれたと考えられている。1990年の小泉地区高田遺跡の調査では、8世紀前半から11世紀にかけての、東山道最盛期の遺跡が姿を現し、想定東山道に直結する集落であったことが考えられる。また、この高田遺跡の存続した時期、近接する琵琶塚遺跡・大道下遺跡から該期の痕跡がなくなっていることから、当地域の水田開発と、それに伴う集落の移動も推定されている。しかし、条里的遺構は現段階では確認されていない。

文献上では、万葉集十四の東歌に「彼の兒らと 宿すやなりなむ はたすすき 浦野の山に月片寄るも」とあり、この浦野は当地域周辺に比定されている。また、日本三代実録四年三月五日の「信濃國正六位上馬背神」の馬背神は、やはり浦野の「馬背神社」に比定されている。この地域が「和名類聚抄」にある跡部郷に含まれるか、福田郷に含まれるかは判明していないが、考古学的に文献上でも、当地域に関しては該期の資料が豊富で、今ならば超一級国道ともいうべき東山道に沿う当地域は、中央と東山道諸国との文物や情報が行き交う、開けた地域であったことが知られる。

その後、中世には、隣接する青木村当郷地区に所在する大法寺三重塔（国宝）や、遺跡の南方の市坂峠を越えた別所の安楽寺・常楽寺に代表される仏教文化が隆盛し、「信州の学海」とうたわれた。戦国時代には浦野氏の居館岡城を武田氏が押さえ、北信濃進出の拠点とし、周辺の峰々には山城が構えられた。近世には上田と松本を結ぶ保福寺道が設けられ、浦野は宿として栄える一方、養蚕・蚕種業を主とする農村を形成し、その面影は現在も比較的良好に残っている。

近年は、勝町の丸子町と松本市を結ぶ三才山トンネル開通により、一時は通行量の減った国道143号線が、中央道長野線麻績インターチェンジのオープンにより、アクセス道として再び交通量が増え、沿線の開発が盛んになってきている。



第2図 周辺遺跡分布図

番号	遺跡名	時代	遺跡の所在地	備考	番号	遺跡名	時代	遺跡の所在地	備考
247	加生遺跡	繩・弥	十人字加生		341	岳の鼻遺跡	弥～平	下室賀字岳の鼻	91～92調査
252	東長畠遺跡	繩～平	手塚字東長畠		342	岳之本遺跡	平	下室賀字岳之本	
285	上平遺跡	平	中野字上平		363	寺前遺跡	繩～平	下室賀字寺前	
286	柳堂遺跡	平	八木沢字柳堂		364	押切遺跡	平	下室賀字押切	
287	中丸田遺跡	繩	八木沢字中丸田		365	原遺跡	繩・平	岡字原	
288	表田中遺跡	平	八木沢字表田中		366	滝遺跡	〃	岡字滝	
289	上丸田遺跡	繩	八木沢字上丸田		367	古城遺跡	平	岡字古城	
290	砂畠遺跡	弥・平	八木沢字砂畠		368	久保遺跡	〃	岡字久保	
291	馬場遺跡	〃	八木沢字馬場		369	岡城跡	近	岡字城	市指定史跡
292	塙田遺跡	平	八木沢字塙田		370	城遺跡	平	岡字城	
293	塙田遺跡	弥・平	山田字塙田		373	入馬越遺跡	繩・平	浦野字入馬越	
294	原田遺跡	弥～平	山田字原田	84調査	374	中馬越遺跡	繩	浦野字中馬越	
295	宮の前遺跡	弥～平	別所字宮の前	92～93調査	375	西之宮遺跡	平	浦野字西之宮	
296	中曾根遺跡	平	別所字中曾根		376	東之宮遺跡	弥・平	浦野字東之宮	
297	大塙古墳	古	別所字大塙	満城	377	前沖内堀遺跡	繩	浦野字前沖内堀	
298	池田口遺跡	平	八木沢字池田口		378	下前沖遺跡	繩～平	浦野字下前沖	80調査
299	池田山古墳	?	八木沢字向池田	90調査	379	上前沖遺跡	平	浦野字上前沖	
300	北の沢古墳	古	山田字北の沢		380	藤之木遺跡	弥～平	浦野字藤之木	95調査
302	比苅樹遺跡	繩	別所字比苅樹		381	本村遺跡	平	浦野字本村	
307	北谷遺跡	平	別所字北谷		382	西沢遺跡	〃	浦野字西沢	
336	鎌冶山遺跡	弥	小泉字鎌冶山		393	坂尾腰遺跡	繩	中野字坂尾腰	
338	和合遺跡	繩～平	小泉字和合		394	塙之入遺跡	繩・平	中野字塙之入	
340	岳之里遺跡	平	下室賀字岳之里		436	山崎遺跡	平	岡字山崎	

* 1 遺跡の番号は、長野県教育委員会作成の遺跡分布図による。

* 2 時代の、「繩」は繩文時代、「弥」は弥生時代、「古」は古墳時代、「奈」は奈良時代、「平」は平安時代、「中」は中世、「近」は近世を指す。なお、「～」はこの間の時代を含むことを示す。

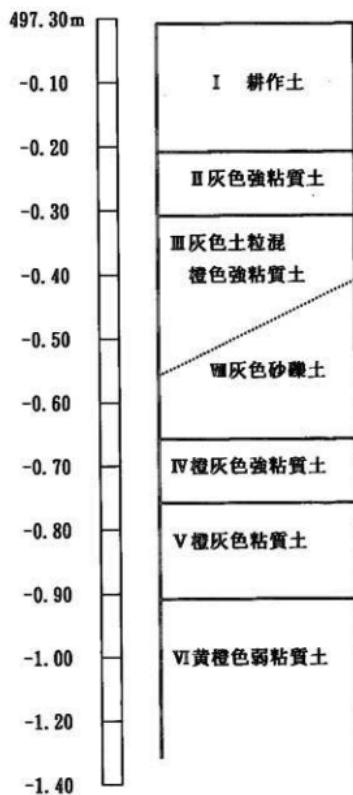
* 3 所在地の表記は、大字から示した。

* 4 備考の数字は1900年を指し、「90」は1990年を示す。

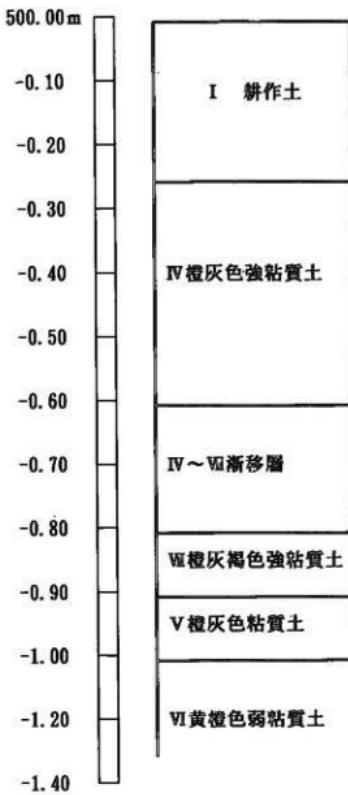
第1表 藤之木遺跡周辺遺跡一覧表

第3節 遺跡の基本層序

A地区の層序



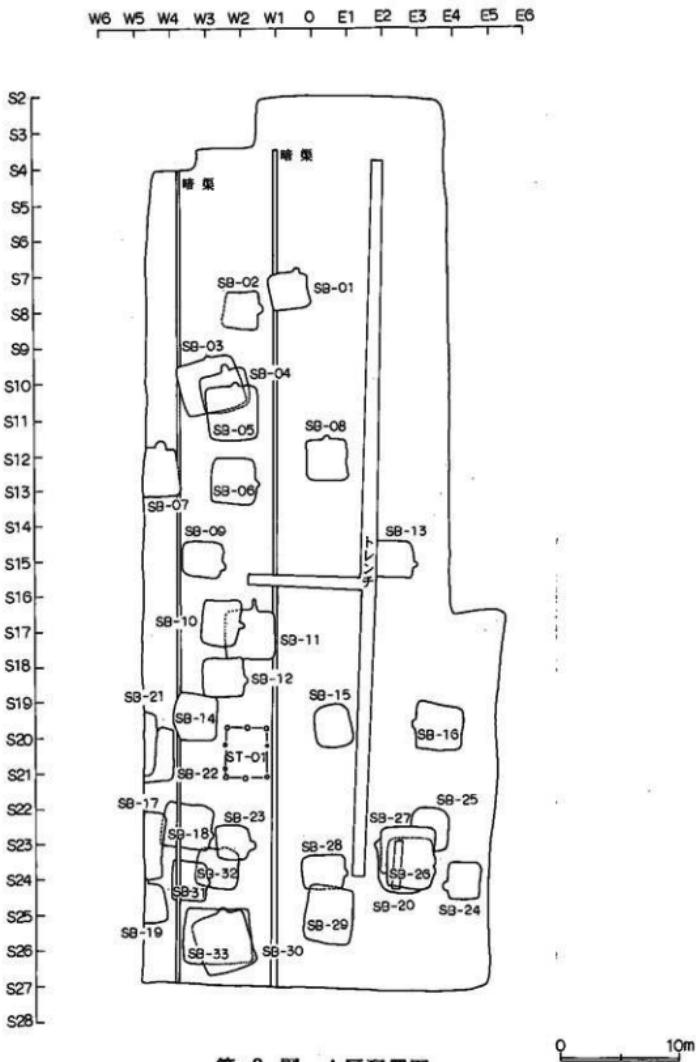
B地区の層序



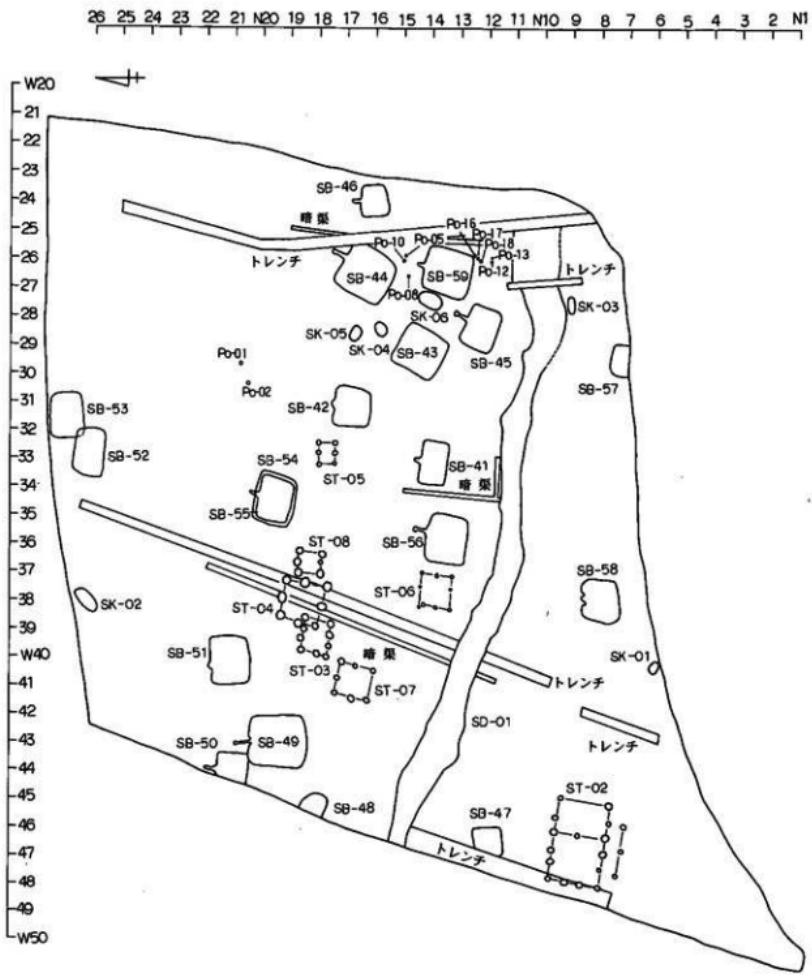
全体の地形が東南下がりで、浦野川の流れと、阿鳥川の扇状地によって形成された地形である。A地区においては、かつては場整備事業が実施されており、土の移動と擾乱が著しい。II・III層は、は場整備の際、盛られた土と思われる。III層は、調査区の北西部にいくに従い、IV層の砂礫層になる。このIV層はほ場整備の影響を受けずにいるもので、浦野川の氾濫の様子を示す。遺構検出面は、A地区ではV層上に現れる。V層は全体に暗い色調で、遺構はV層上に白っぽく浮かび上がる。これに対して、B地区は、土層の状態は良く、遺構はVI層上に検出される。これは、ほ場整備の影響もさることながら、遺跡の範囲確認調査の際の観察によれば、A地区の北を流れる水路を境に、南側は浦野川の氾濫の影響を受け、北側は微高地で氾濫の影響を受けていないことがわかる。さらにその北、国道143号線側へ寄ると、阿鳥川の影響で、湿地帯となっていくようである。

第三章 調査の結果

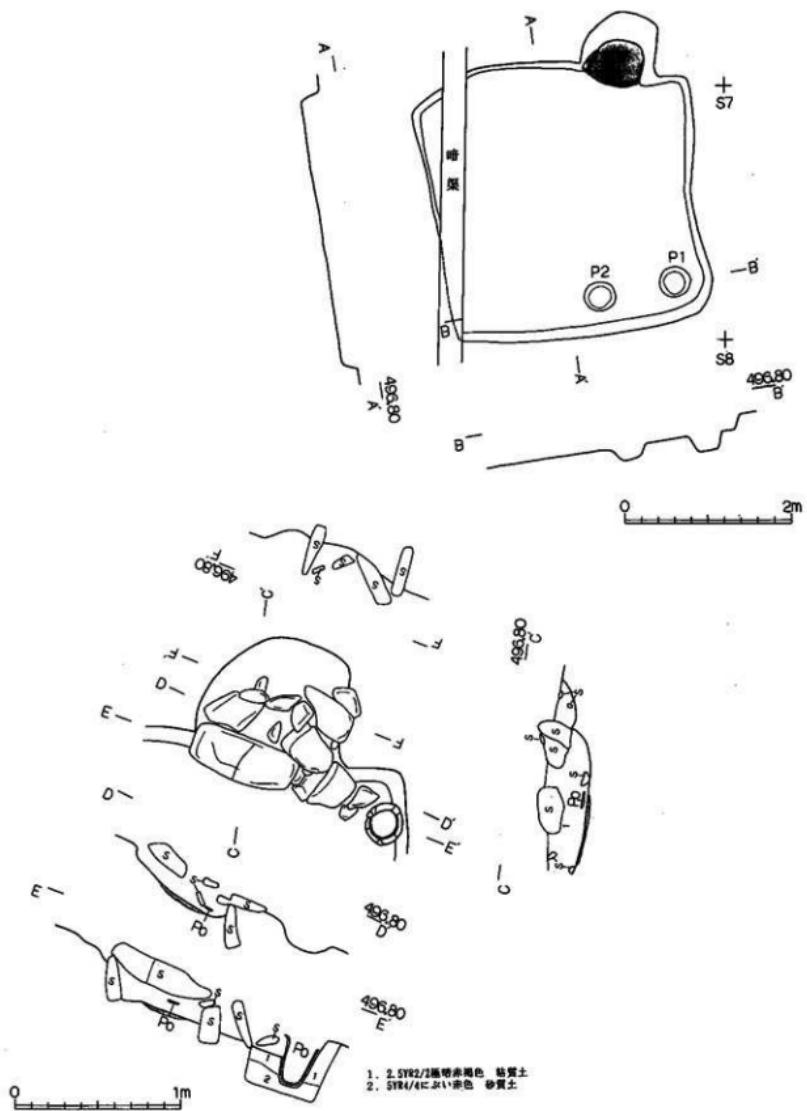
第1節 検出遺構図



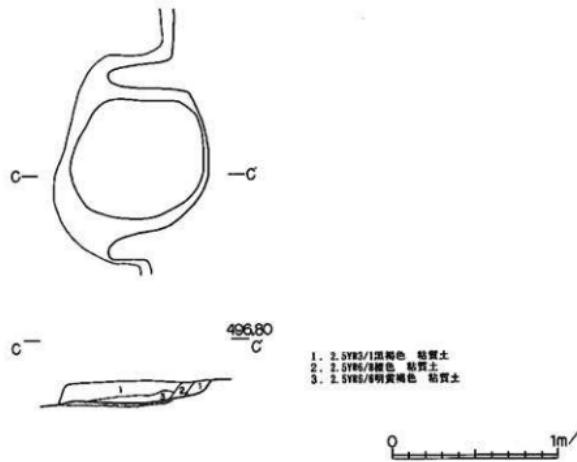
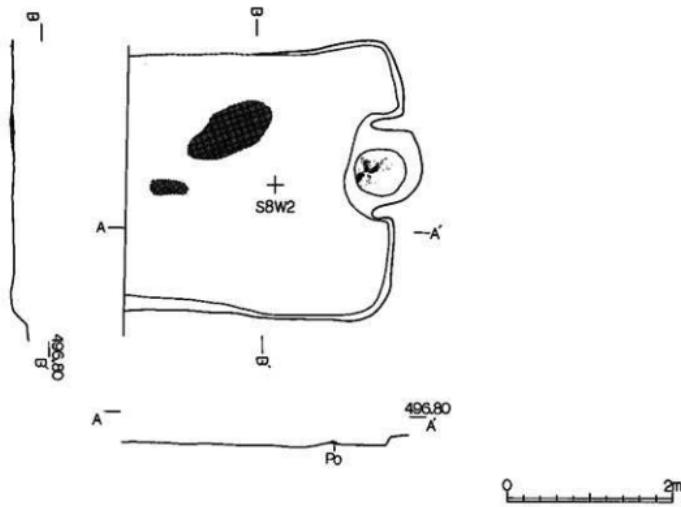
第3図 A区配置図



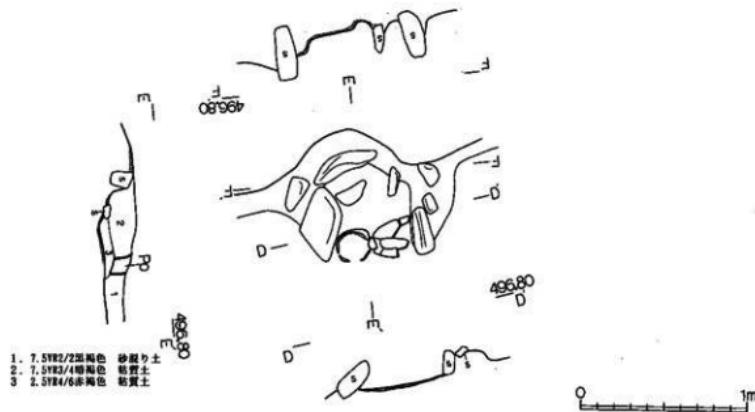
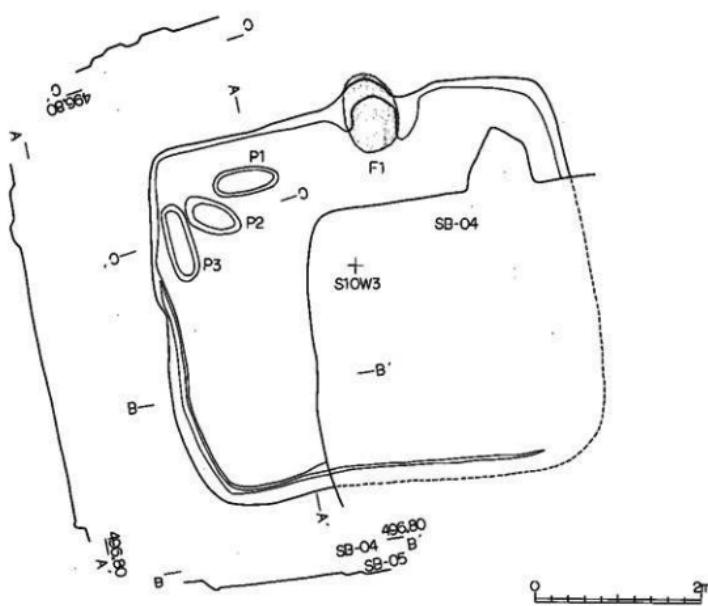
第4図 B区配置図



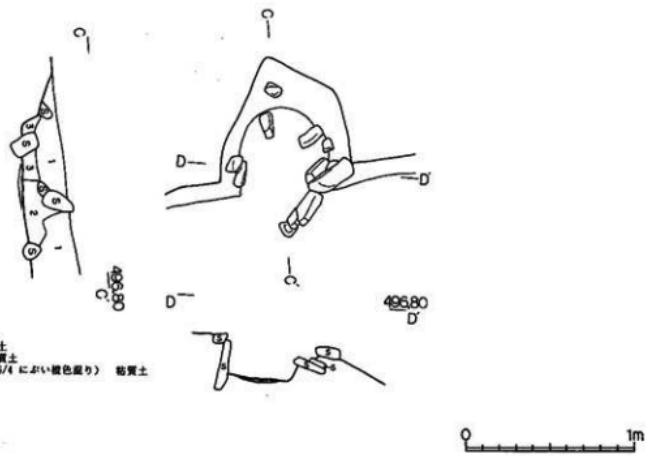
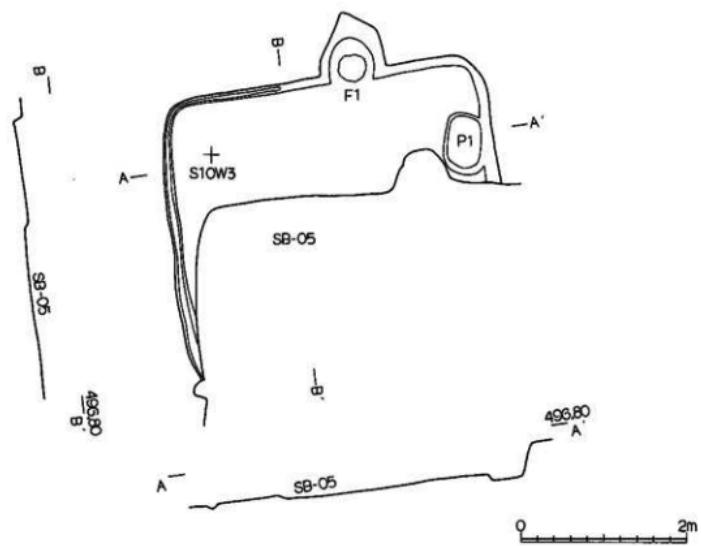
第5図 第1号住居址実測図



第 6 図 第 2 号住居址実測図

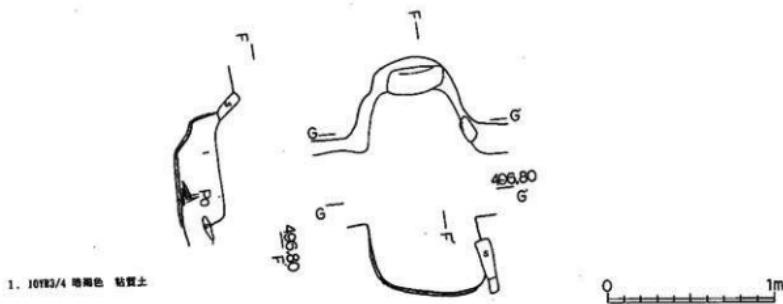
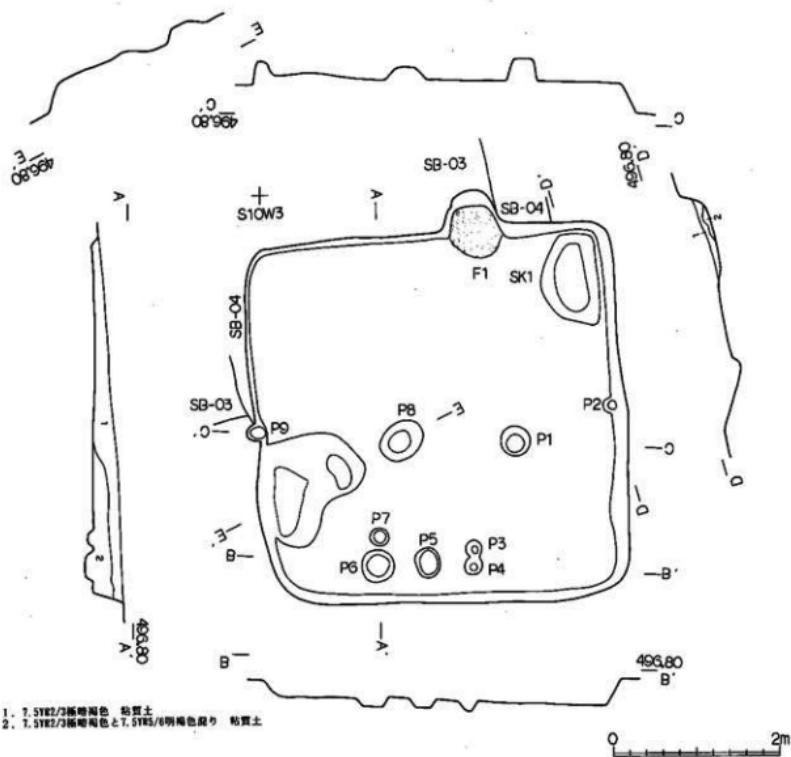


第7図 第3号住居址実測図

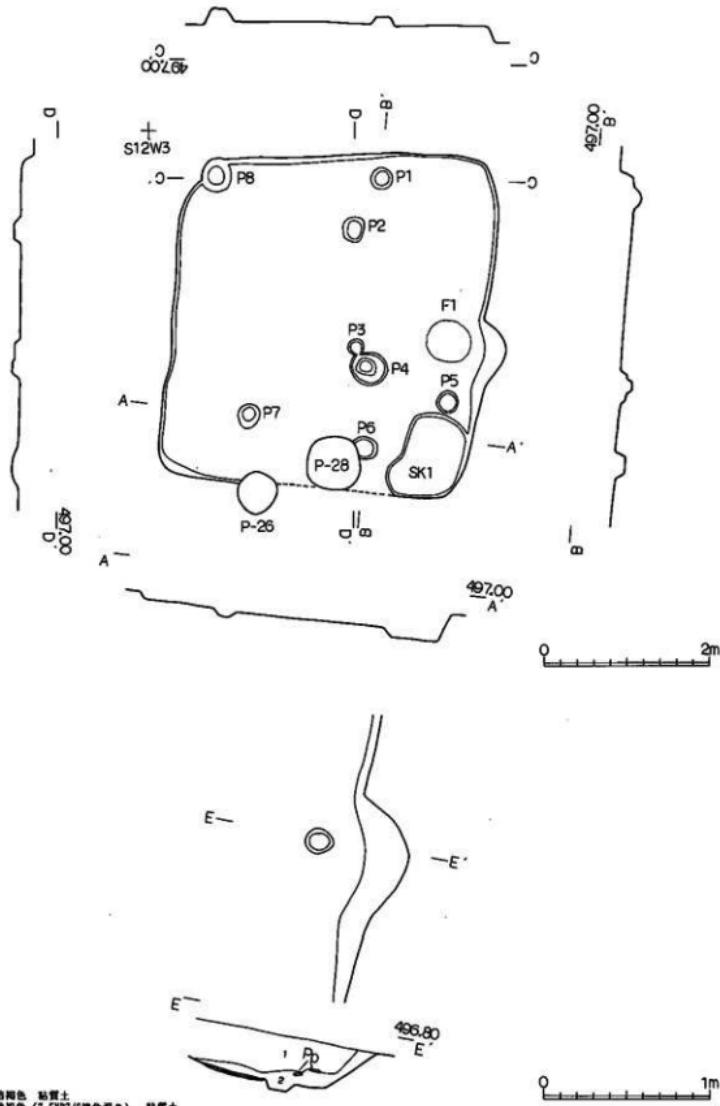


1. 7.5W4/4褐色 粘質土
2. 7.5W5/7灰褐色 粘質土
3. 7.5W4/4褐色 (10755/4 により被覆) 粘質土

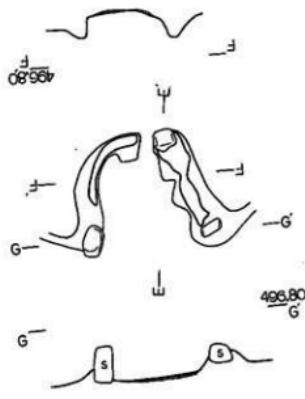
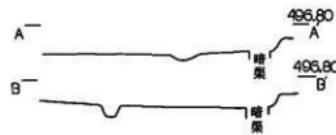
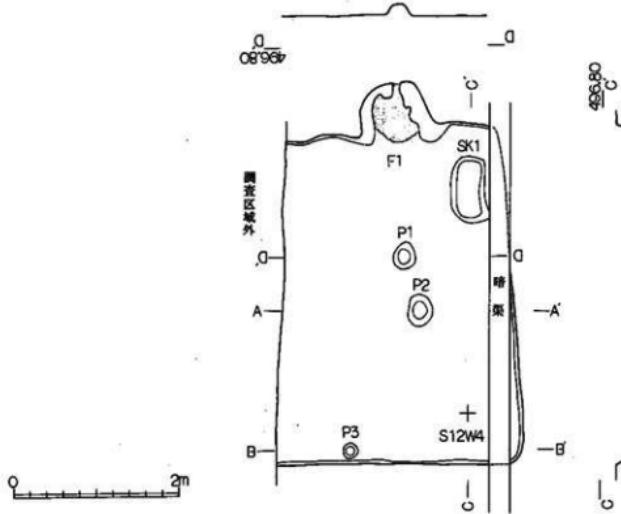
第8図 第4号住居址実測図



第9図 第5号住居址実測図

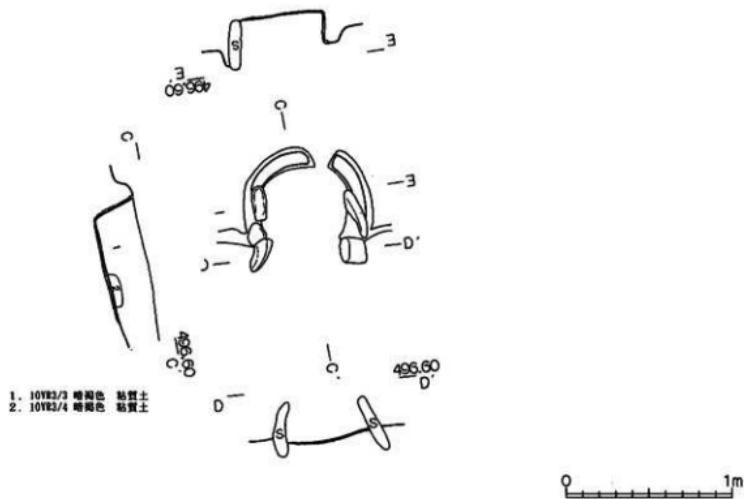
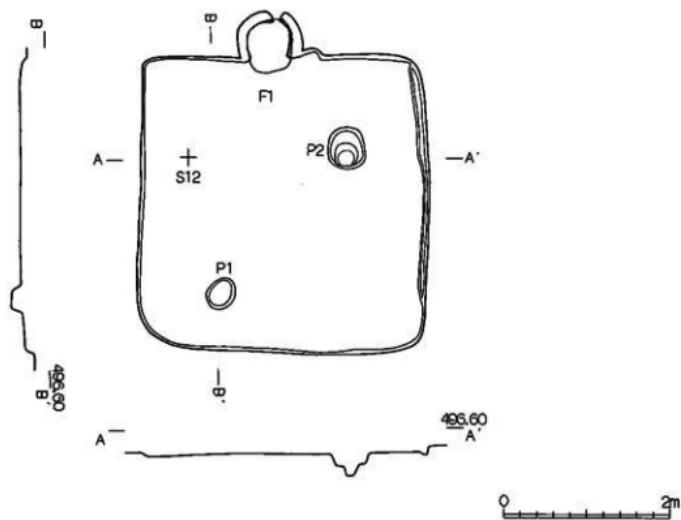


第10図 第6号住居址実測図

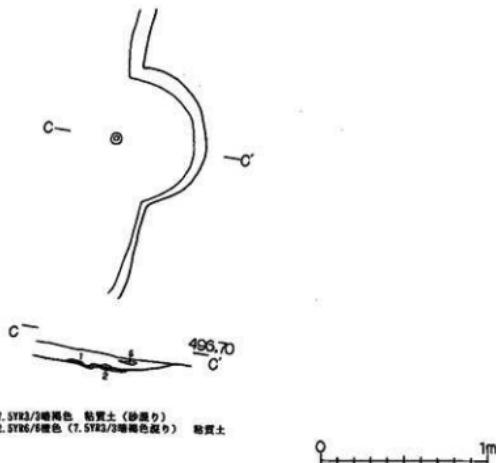
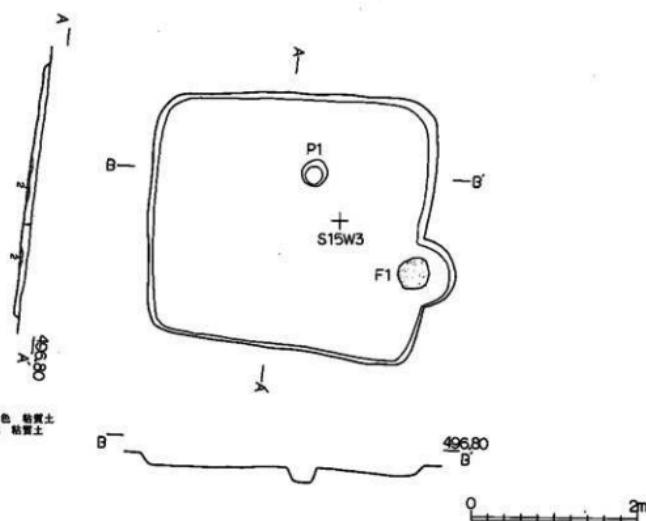


1. 7. SYR2/3暗褐色 粘質土
2. 7. SYR2/3暗暗赤褐色 粘質土
3. 7. SYR3/3暗褐色 (7. SYR6/3棕紅色混り) 粘質土

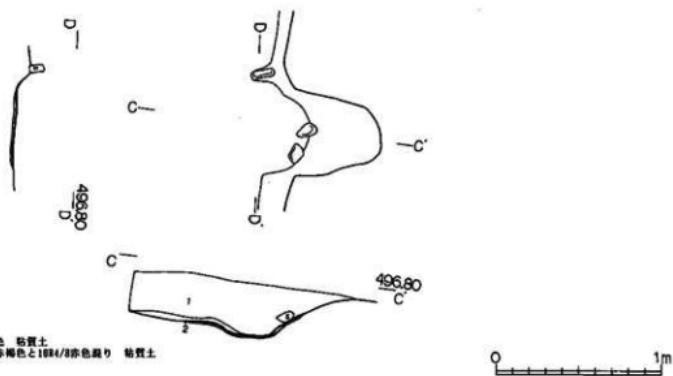
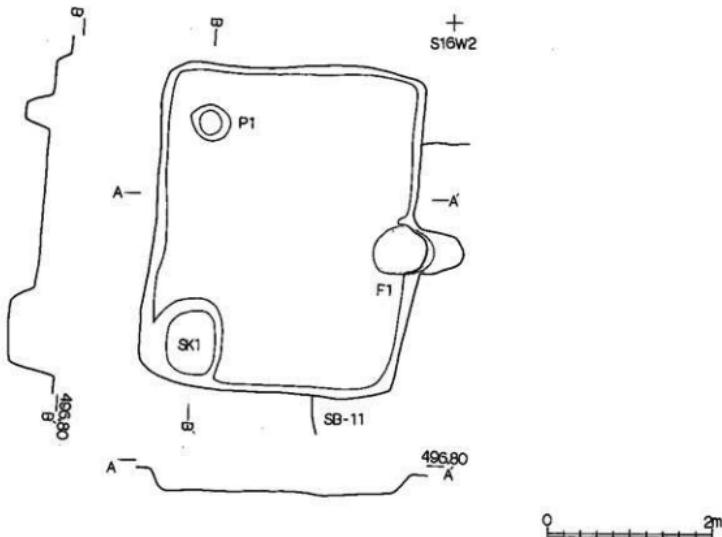
第11図 第7号住居址実測図



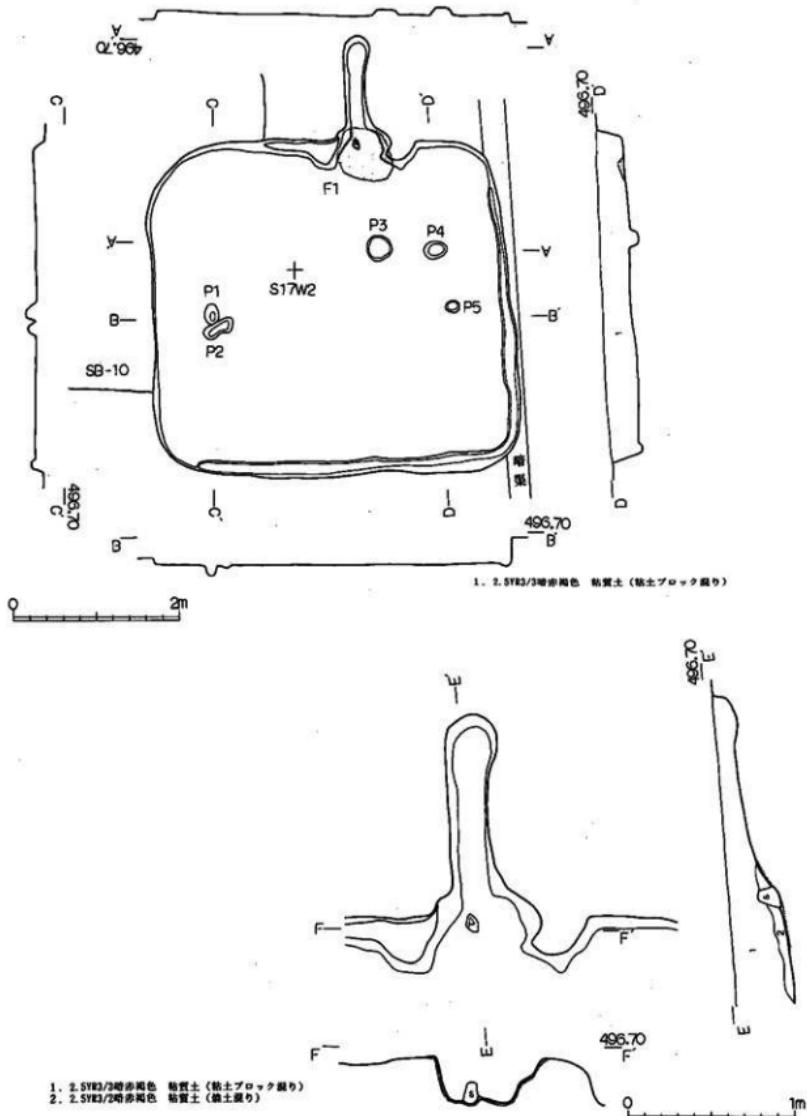
第12図 第8号住居址実測図



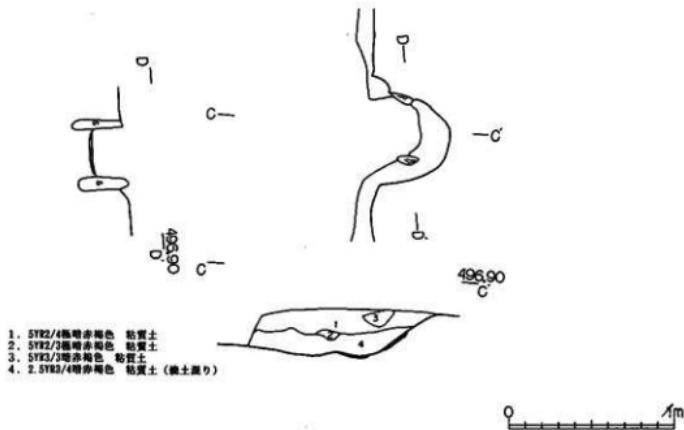
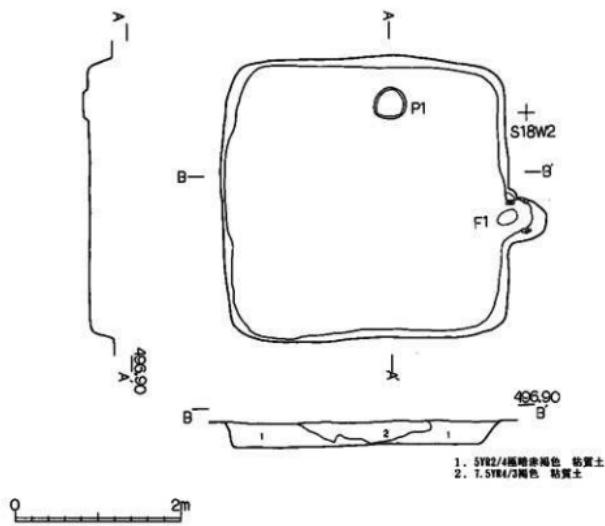
第13図 第9号住居址実測図



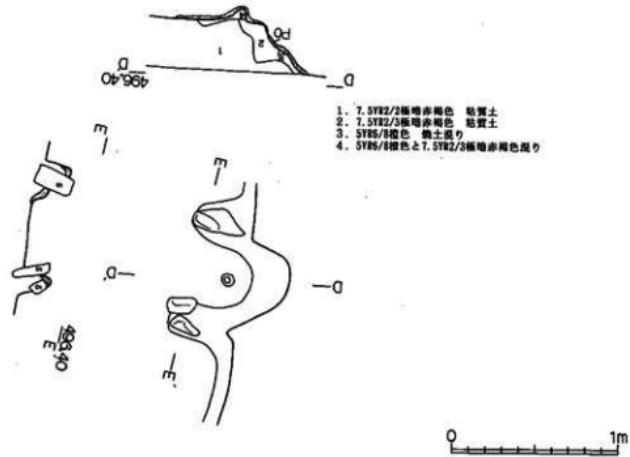
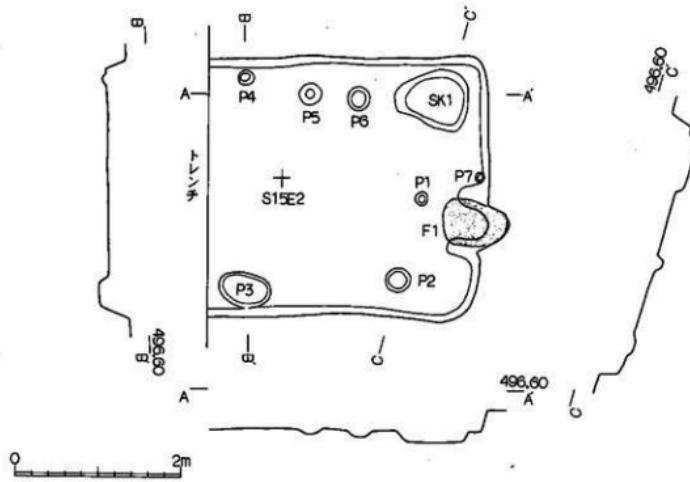
第14図 第10号住居址実測図



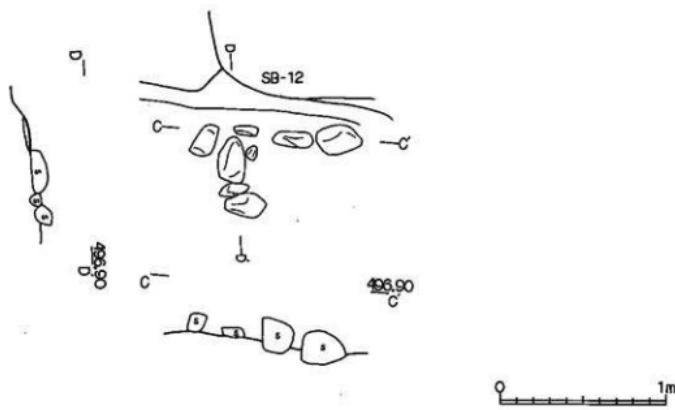
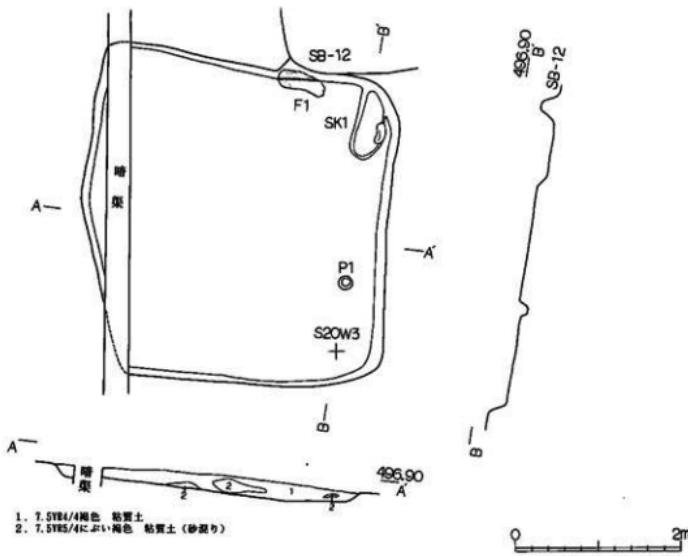
第15図 第11号住居址実測図



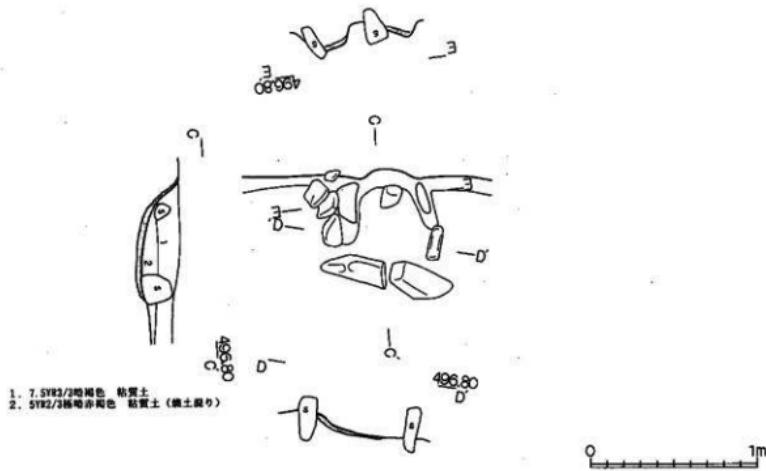
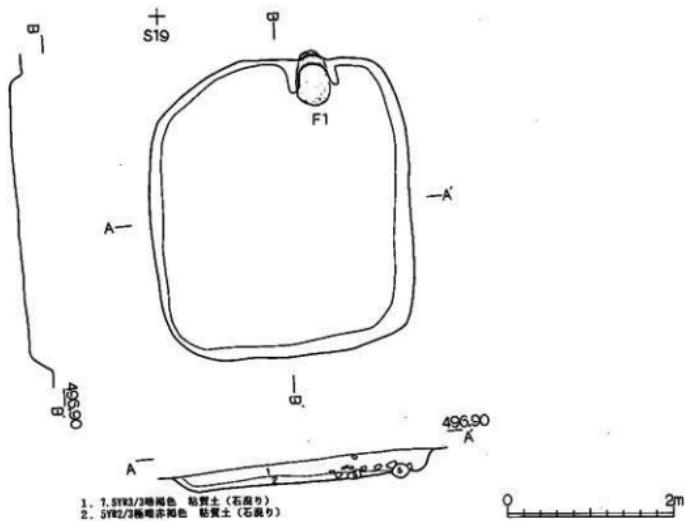
第16図 第12号住居址実測図



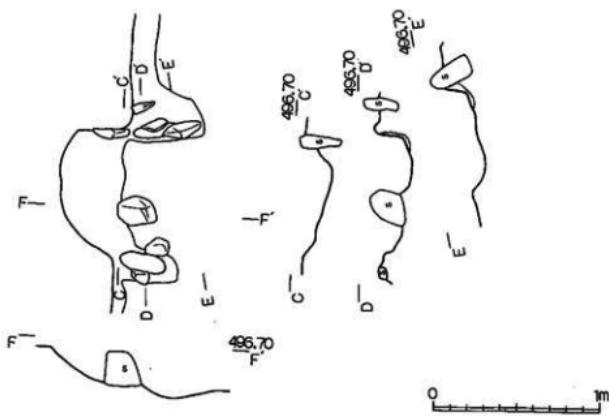
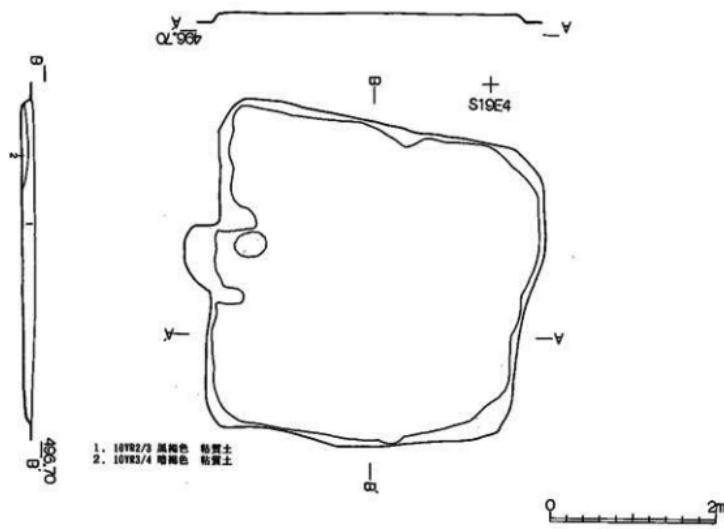
第17図 第13号住居址実測図



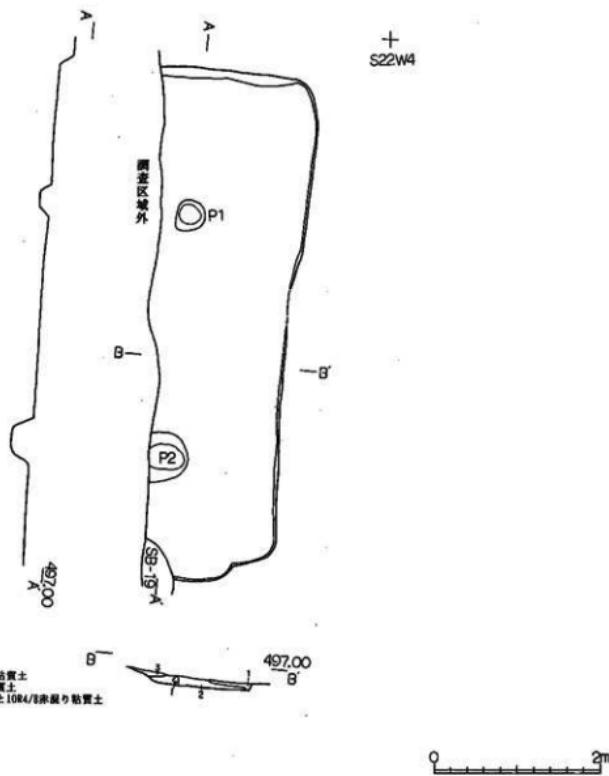
第18図 第14号住居址実測図



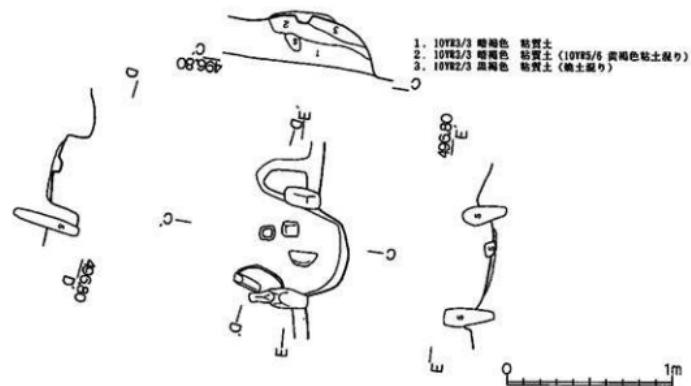
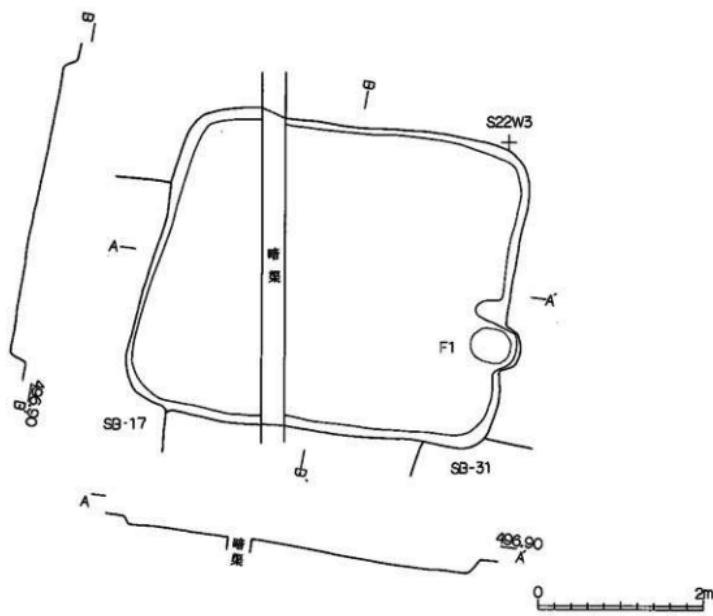
第19図 第15号住居址実測図



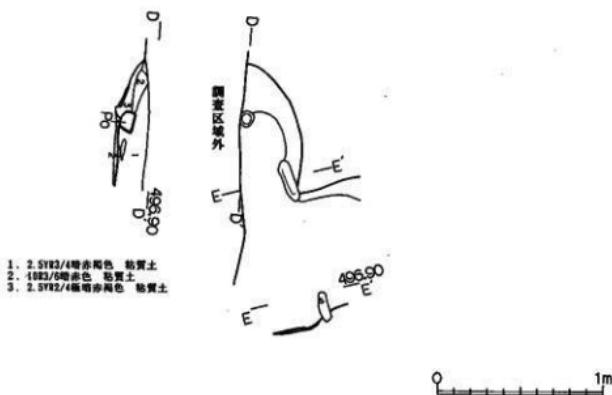
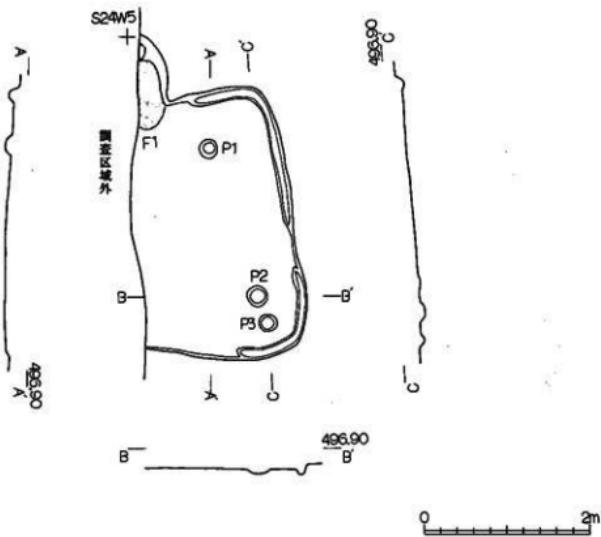
第20図 第16号住居址実測図



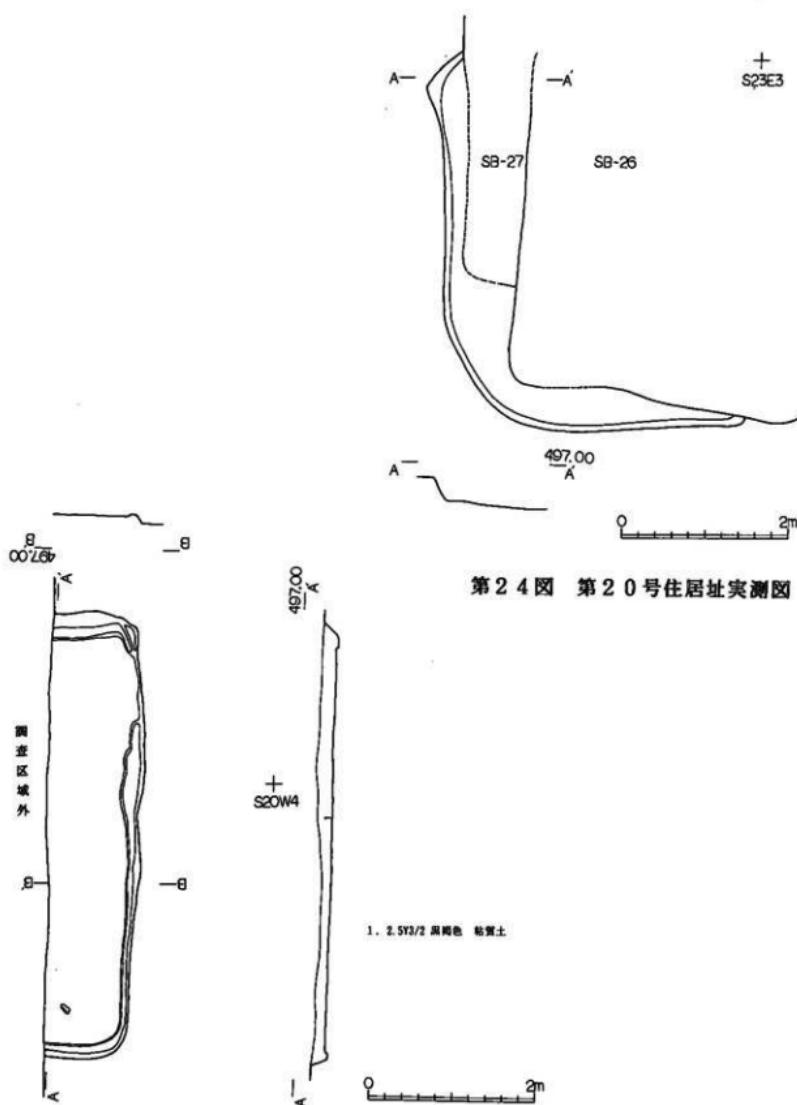
第21図 第17号住居址実測図



第22図 第18号住居址実測図

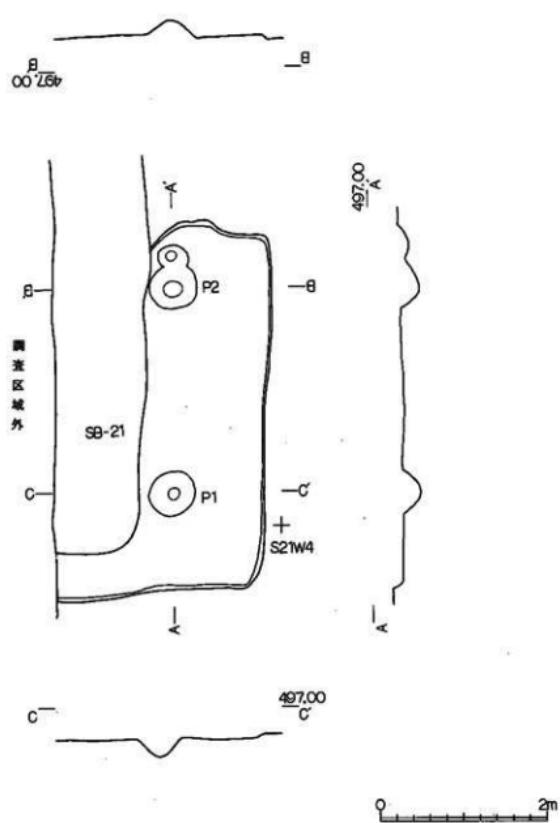


第23図 第19号住居址実測図

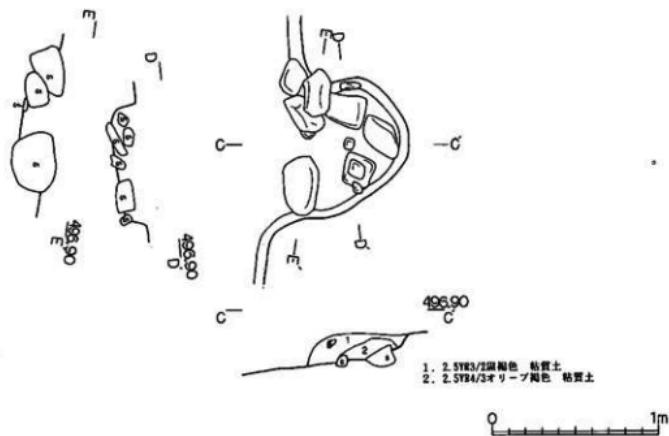
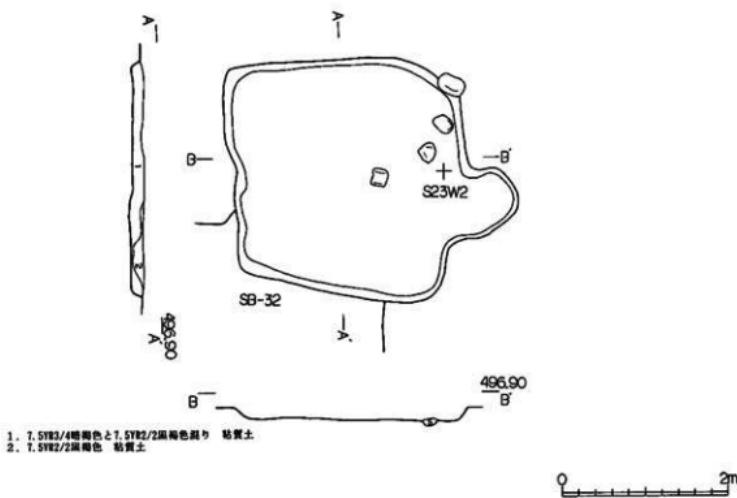


第24図 第20号住居址実測図

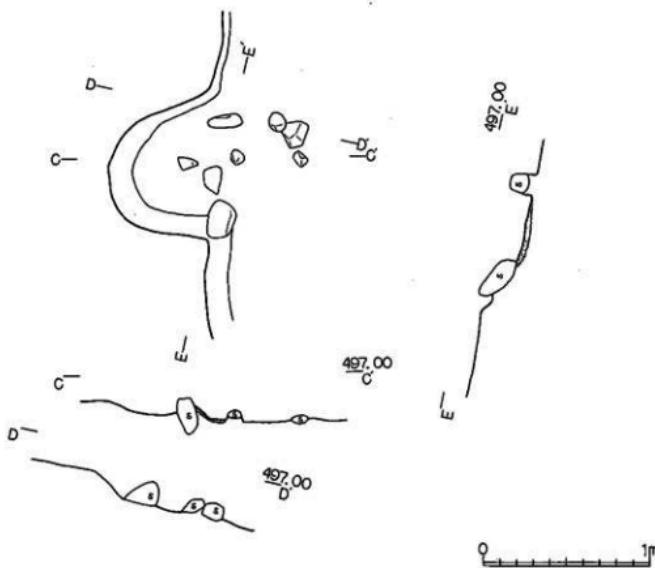
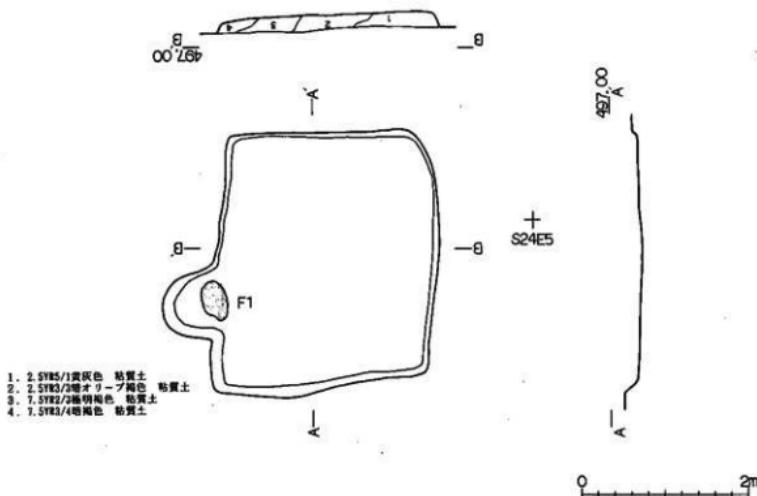
第25図 第21号住居址実測図



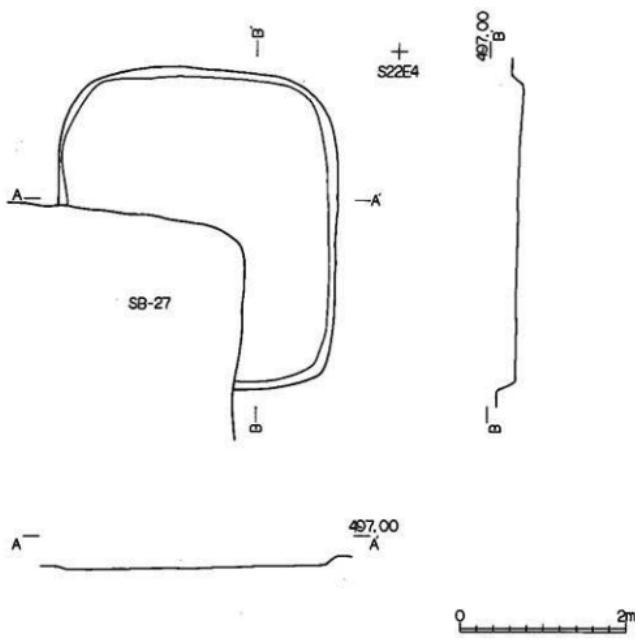
第26図 第22号住居址実測図



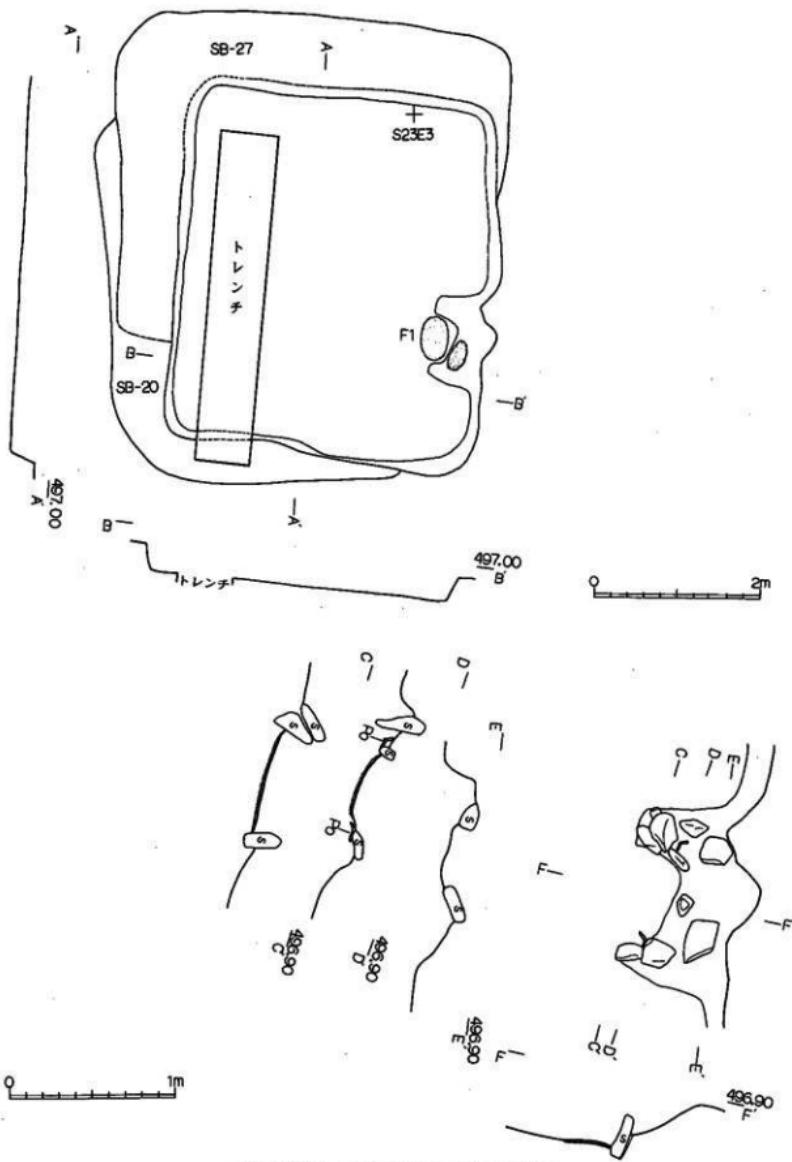
第27図 第23号住居址実測図



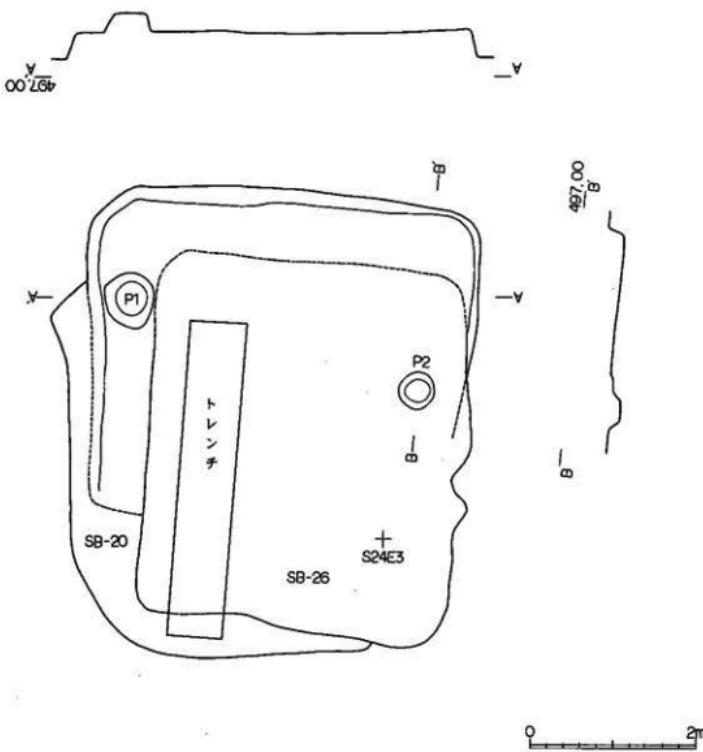
第28図 第24号住居址実測図



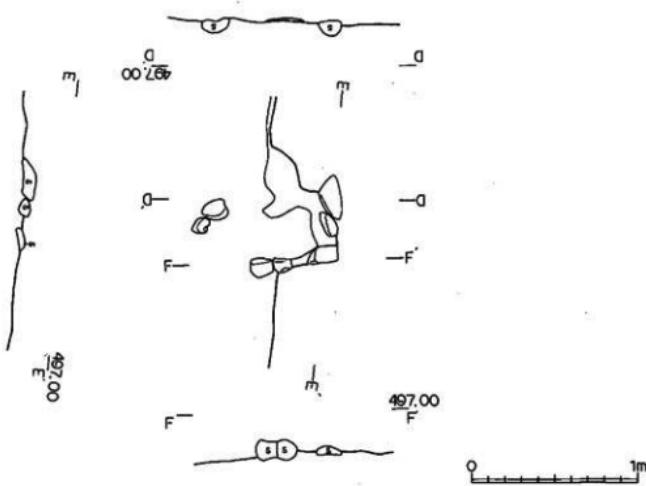
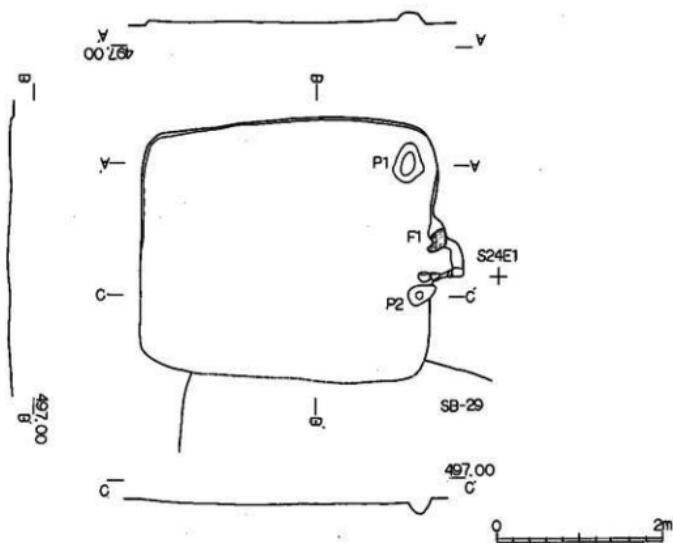
第29図 第25号住居址実測図



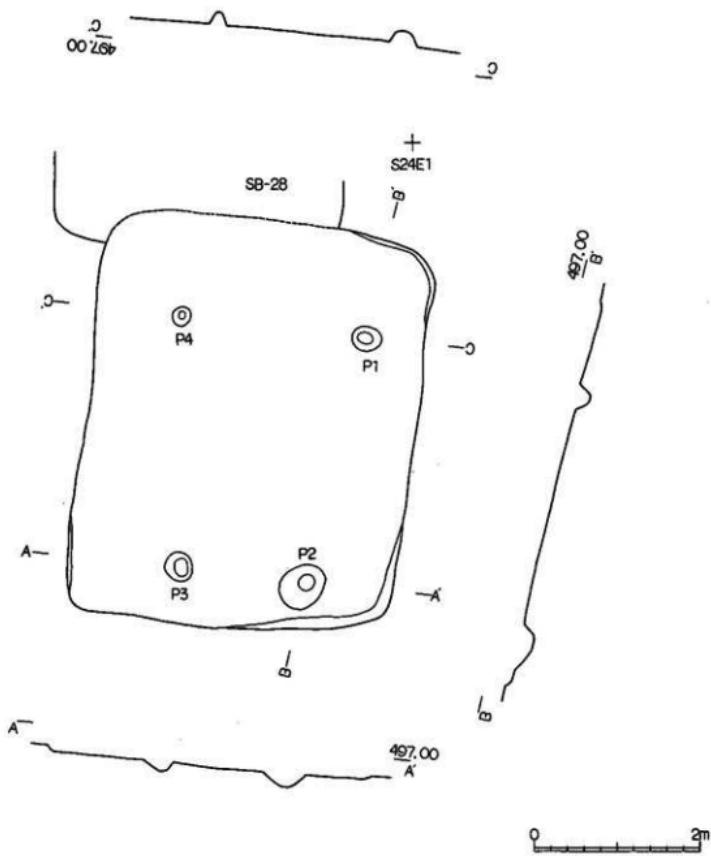
第30図 第26号住居址実測図



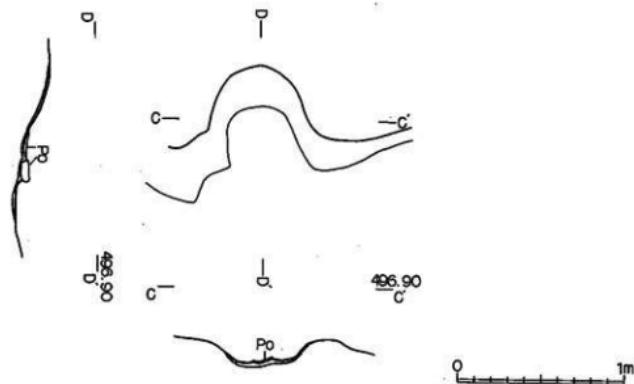
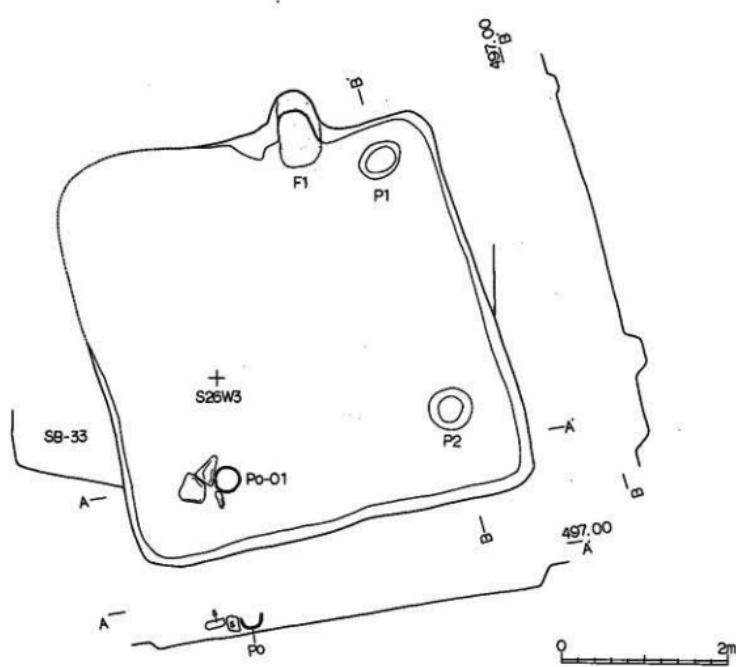
第31図 第27号住居址実測図



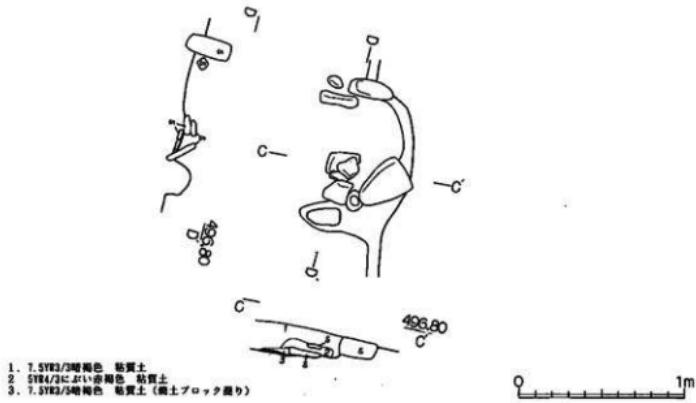
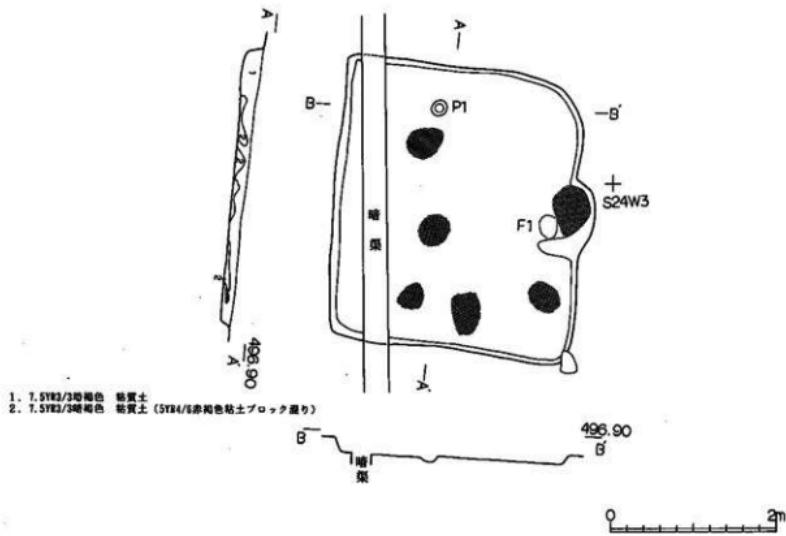
第32図 第28号住居址実測図



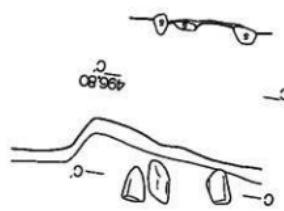
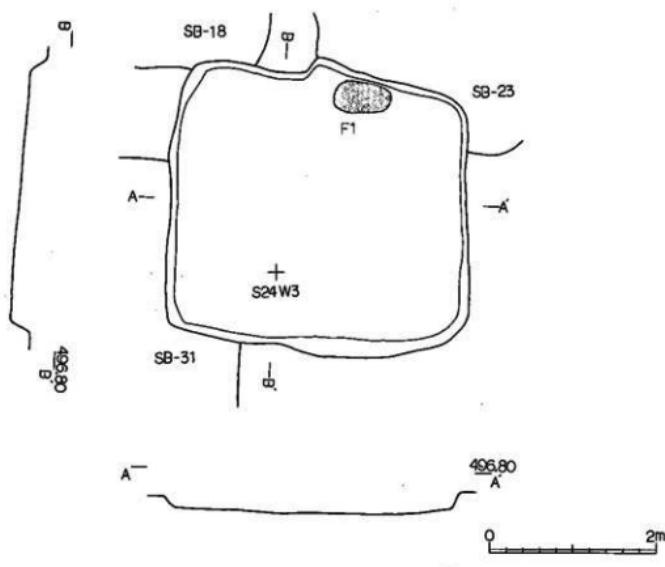
第33図 第29号住居址実測図



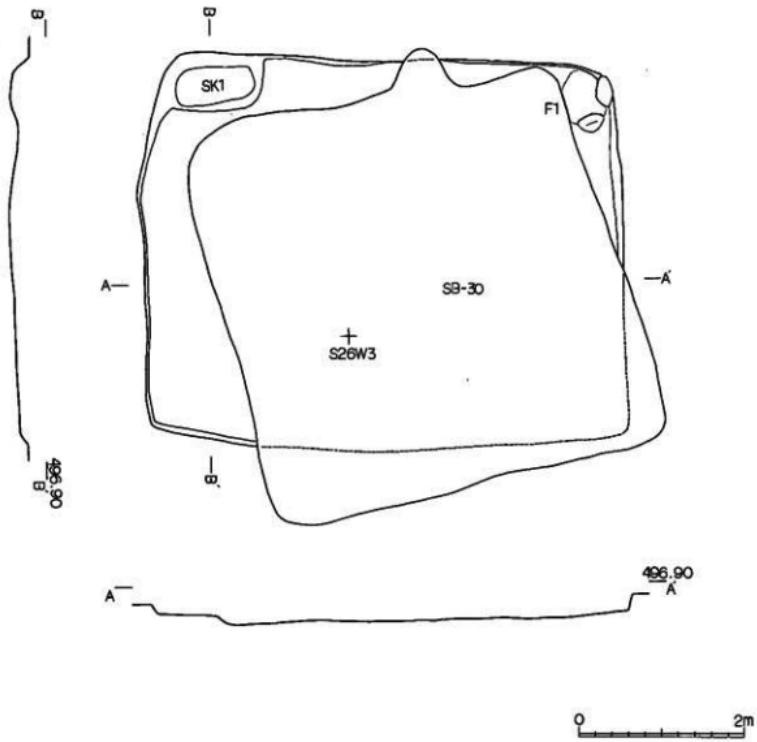
第34図 第30号住居址実測図



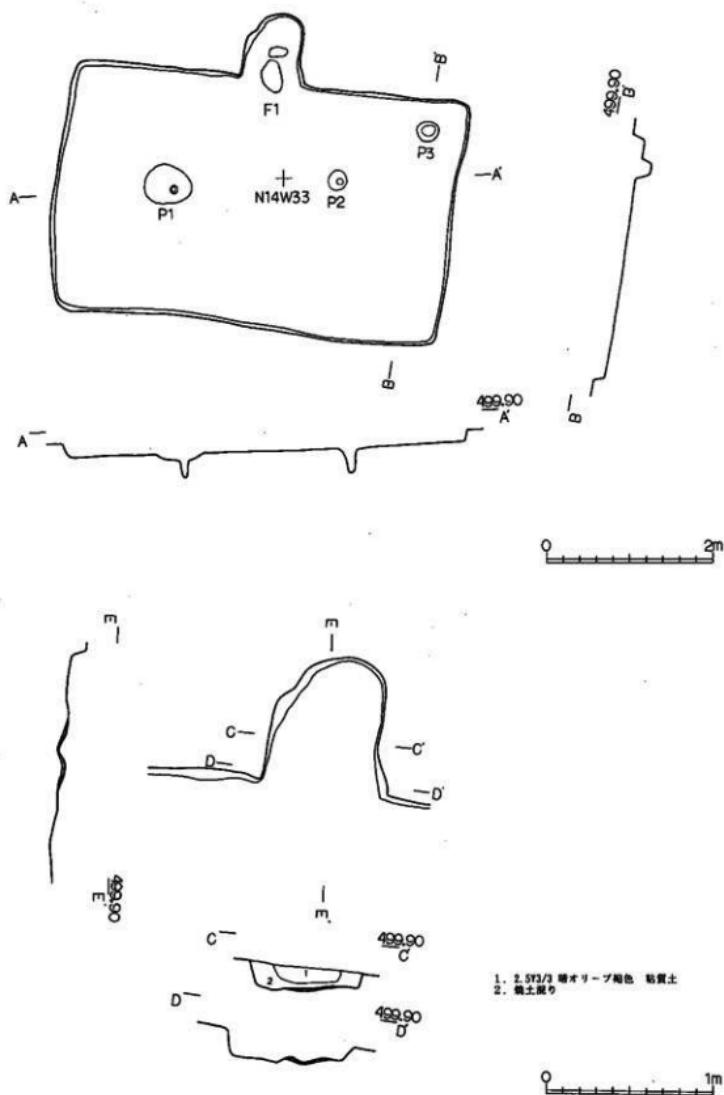
第35図 第31号住居址実測図



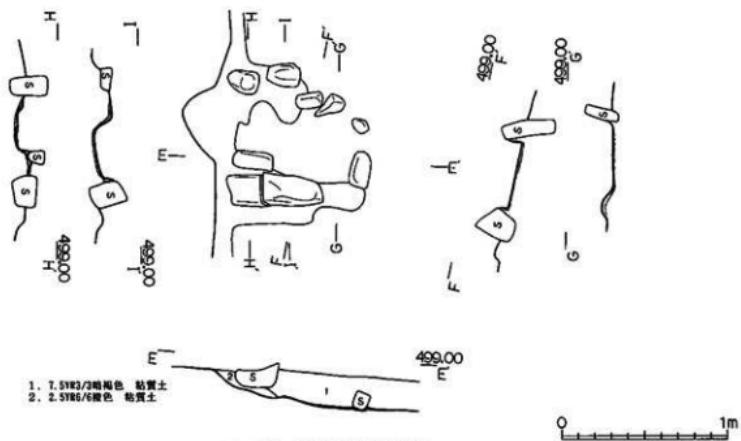
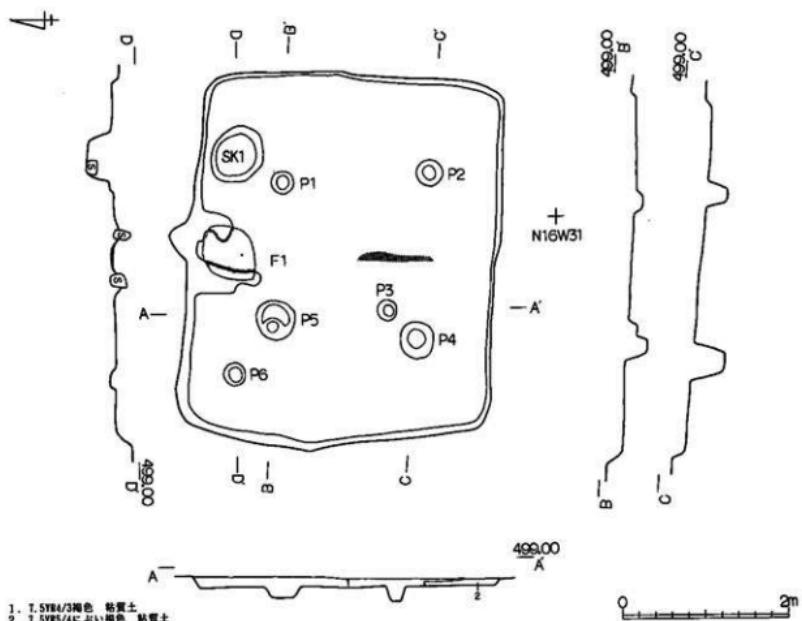
第36図 第32号住居址実測図



第37図 第33号住居址実測図

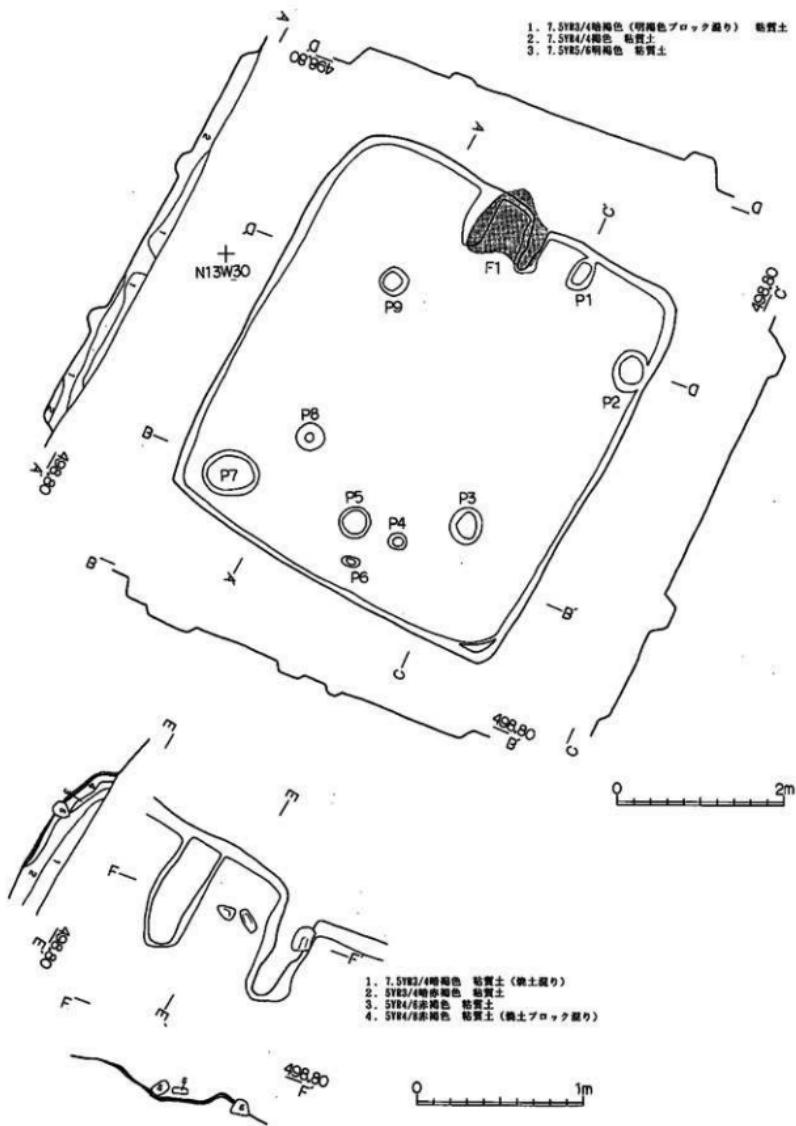


第38図 第41号住居址実測図

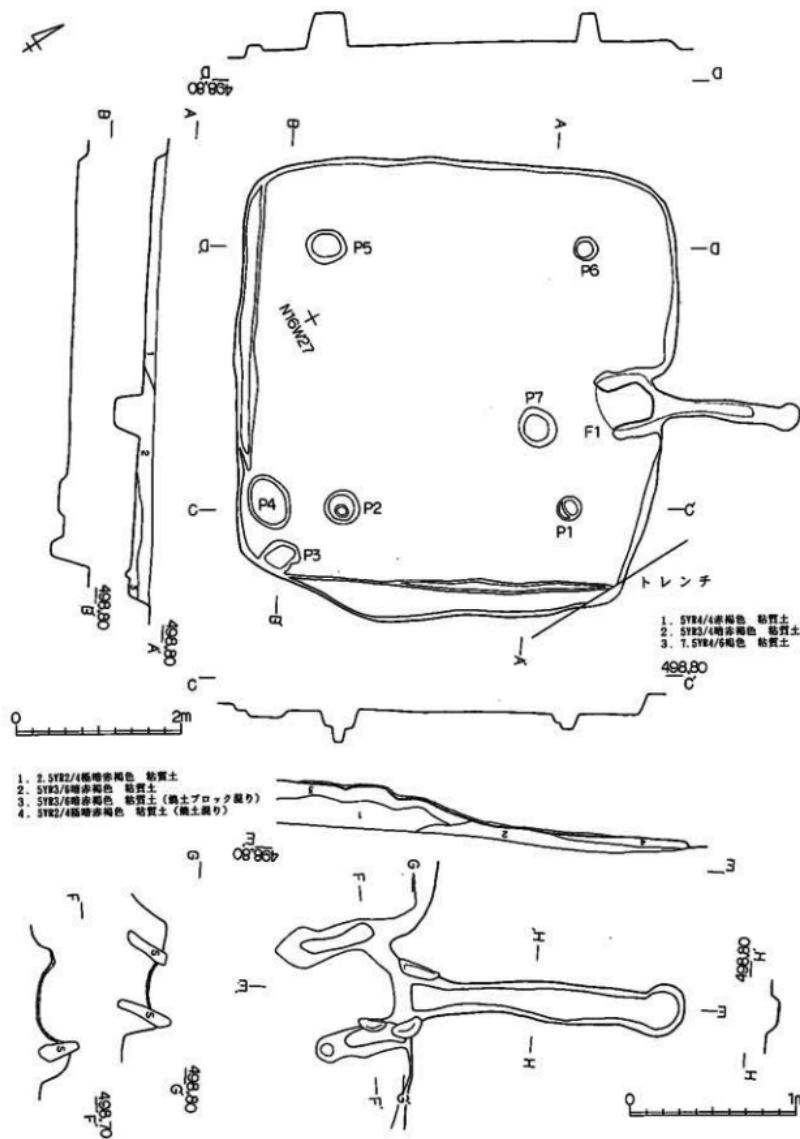


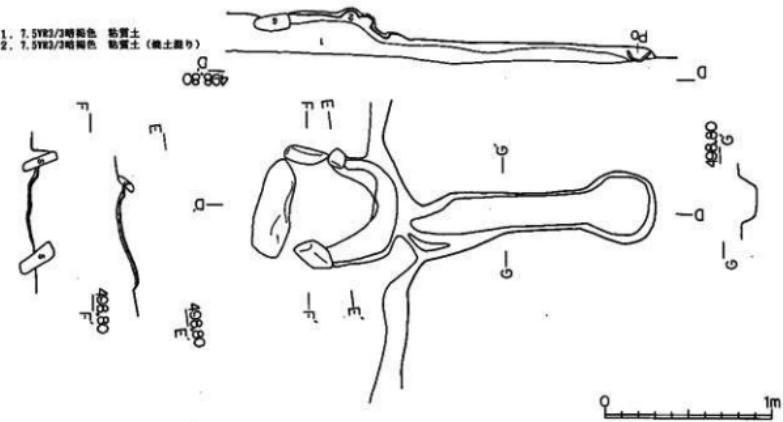
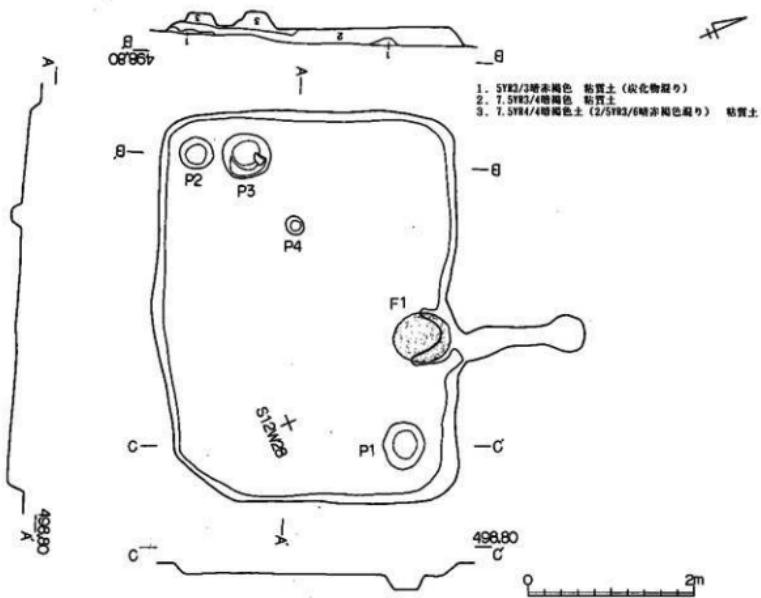
第39図 第4-2号住居址実測図

第39図 第4-2号住居址実測図

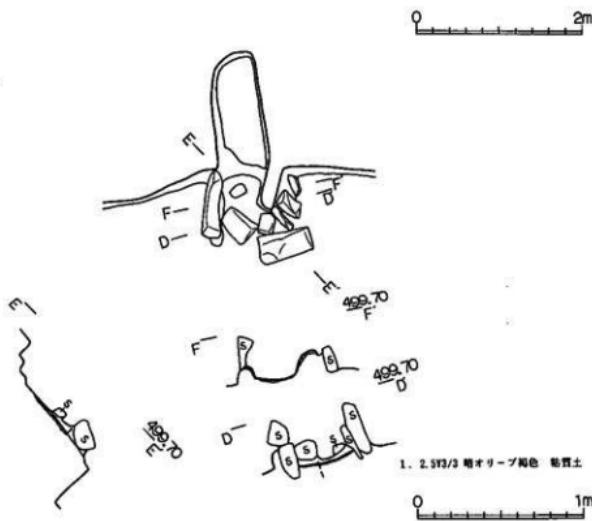
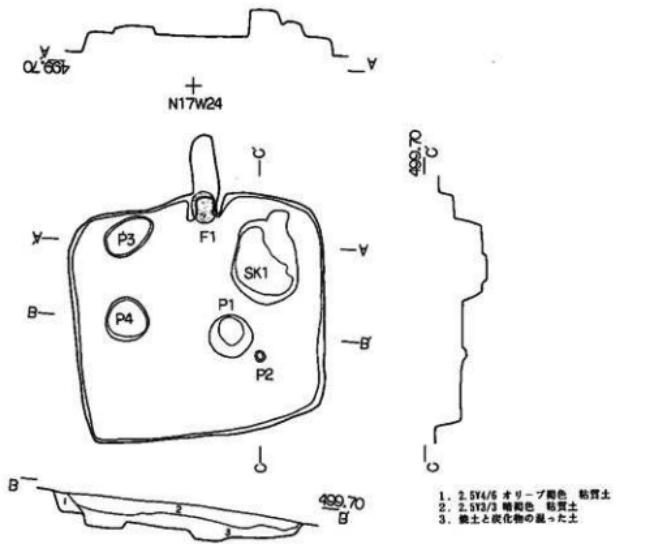


第40図 第43号住居址実測図

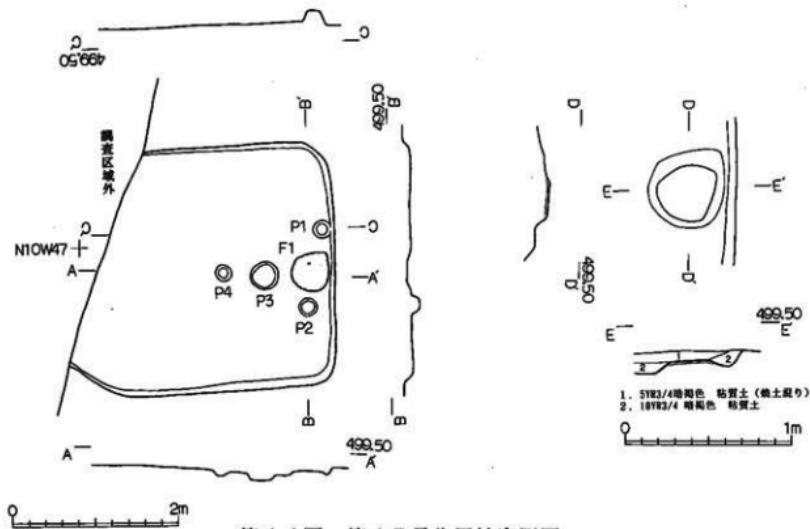




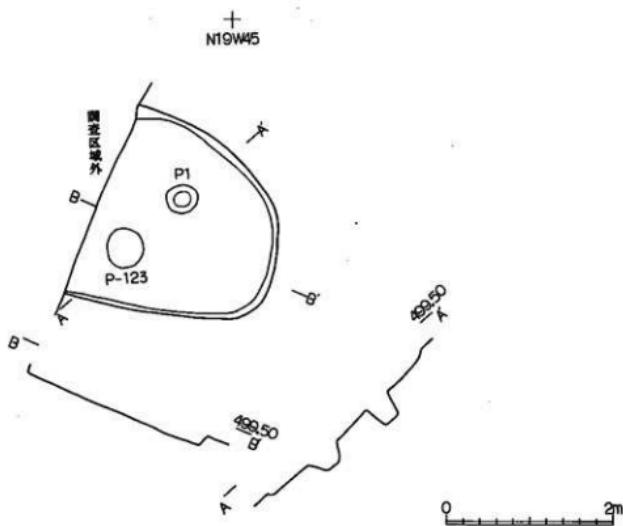
第42図 第45号住居址実測図



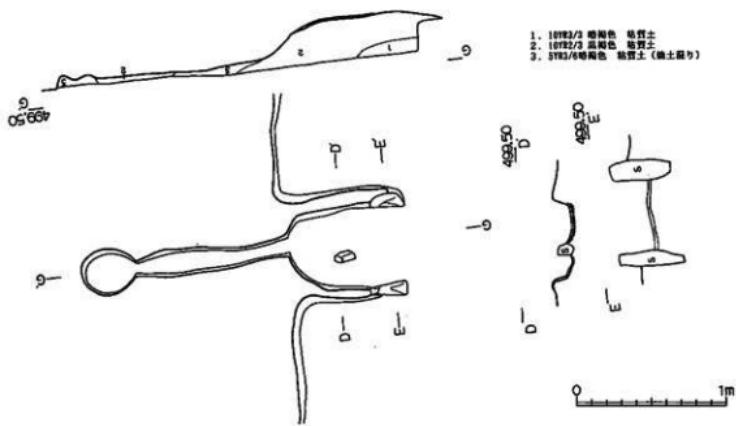
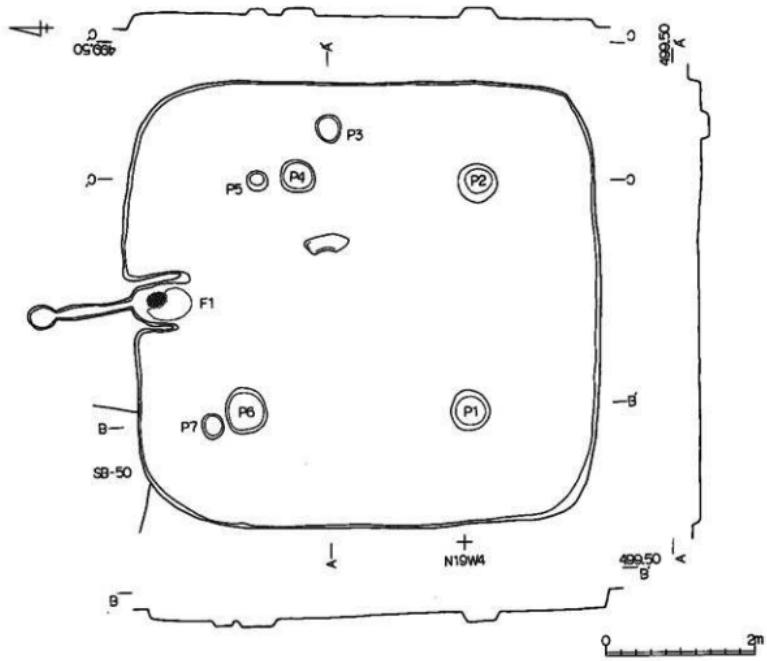
第43図 第46号住居址実測図



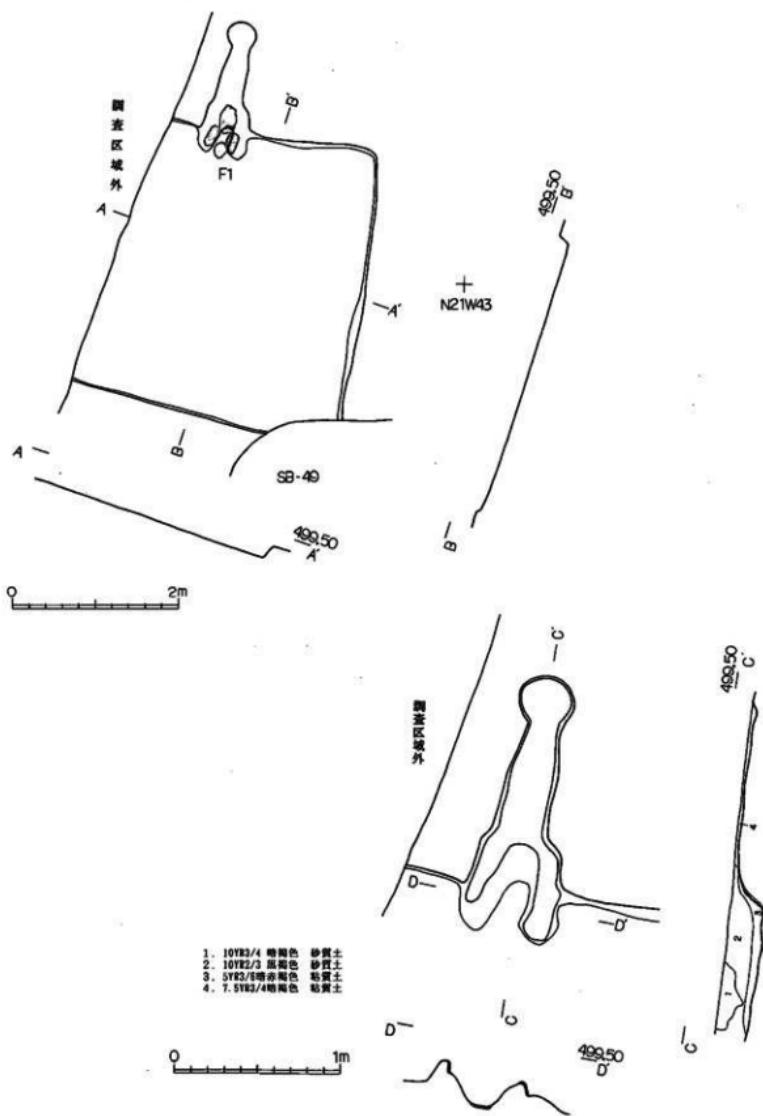
第44図 第47号住居址実測図



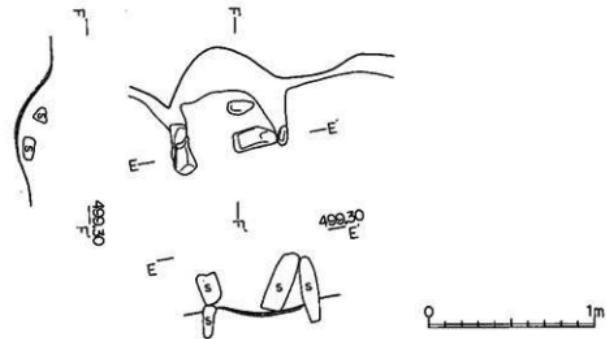
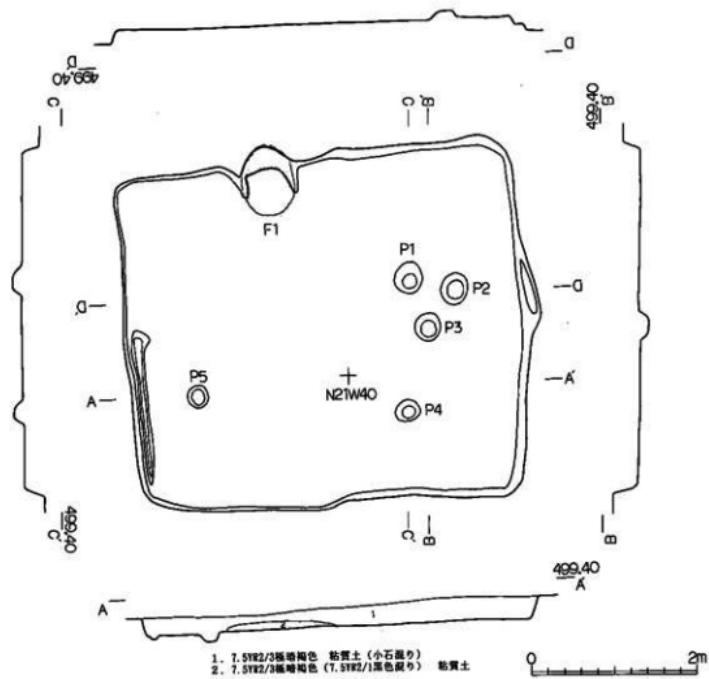
第45図 第48号住居址実測図



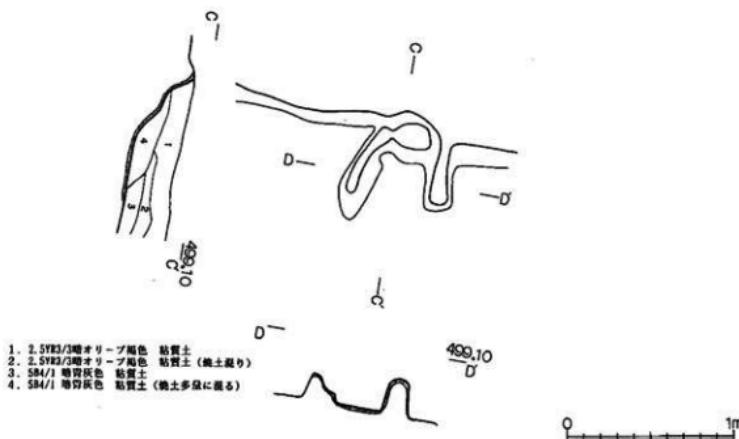
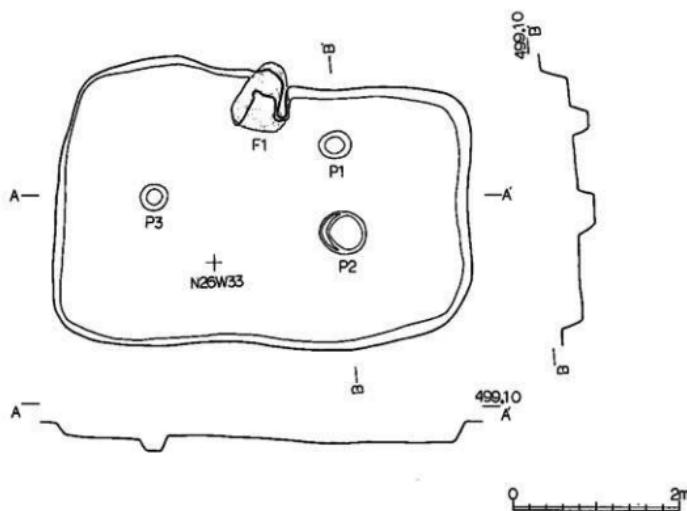
第46図 第49号住居址実測図



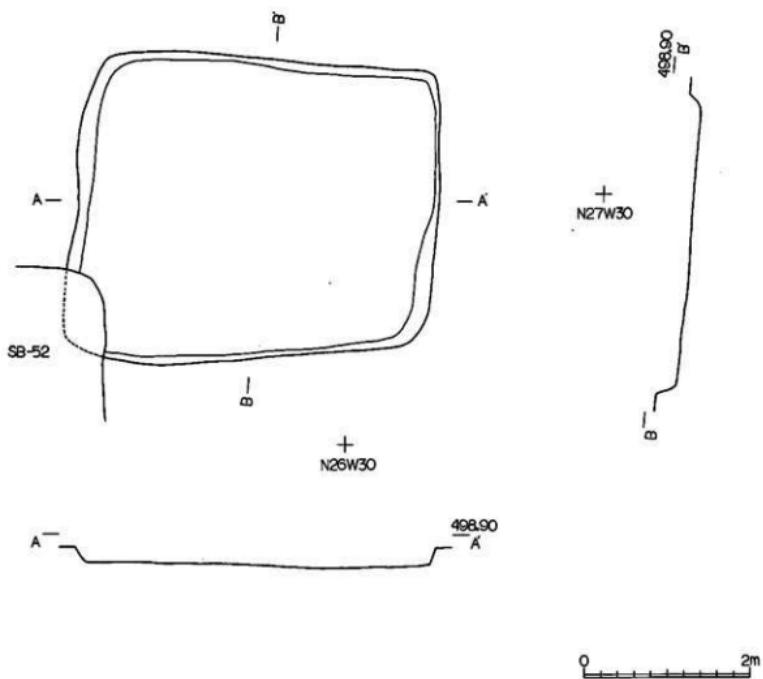
第47図 第50号住居址実測図



第48図 第51号住居址実測図

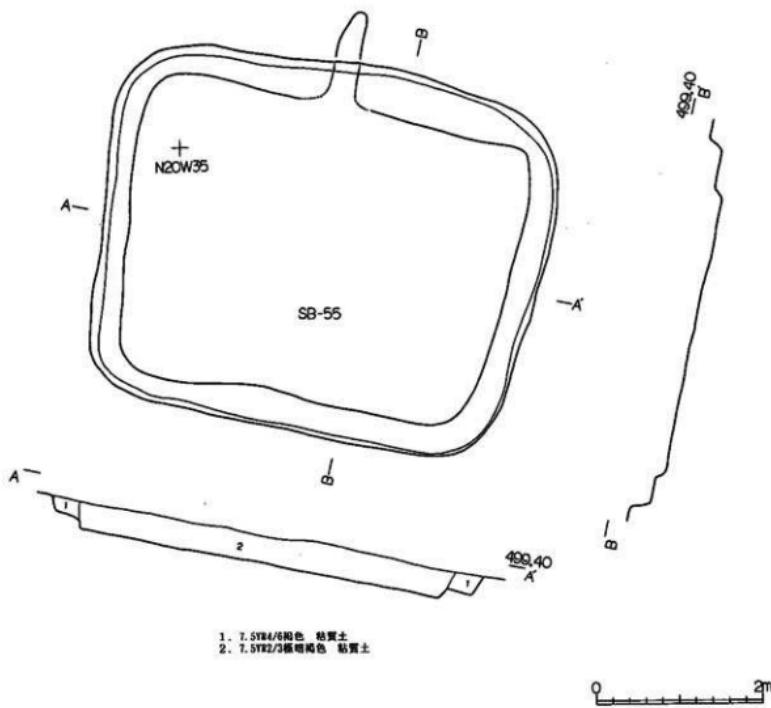


第49図 第52号住居址実測図

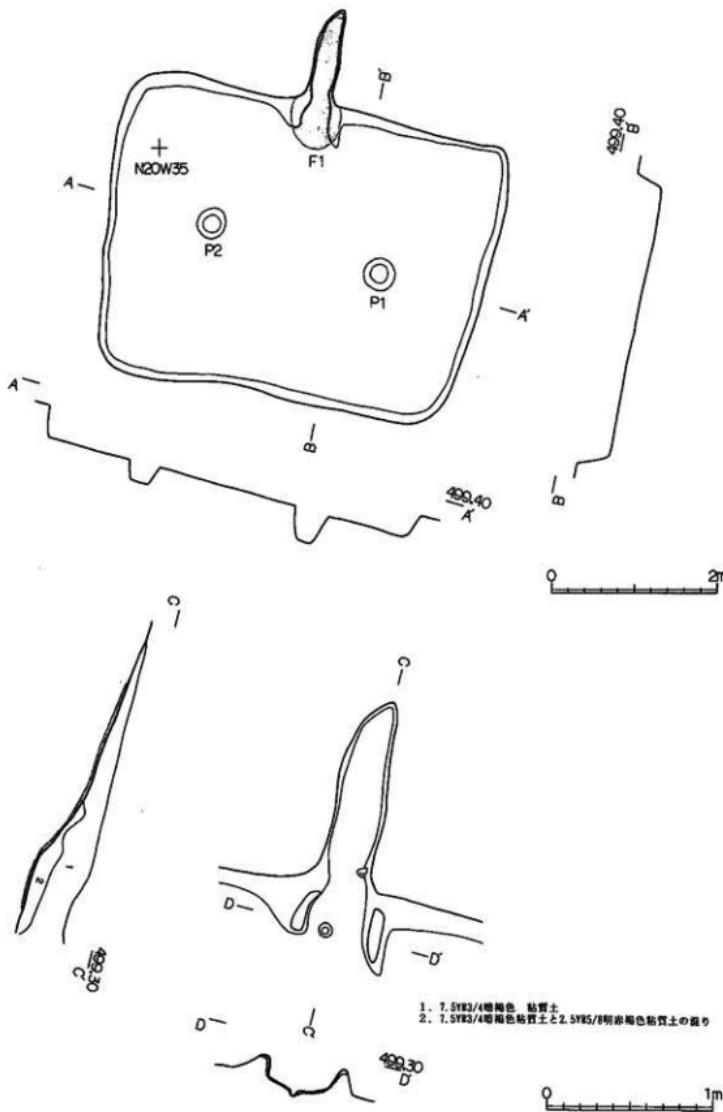


第50図 第53号住居址実測図

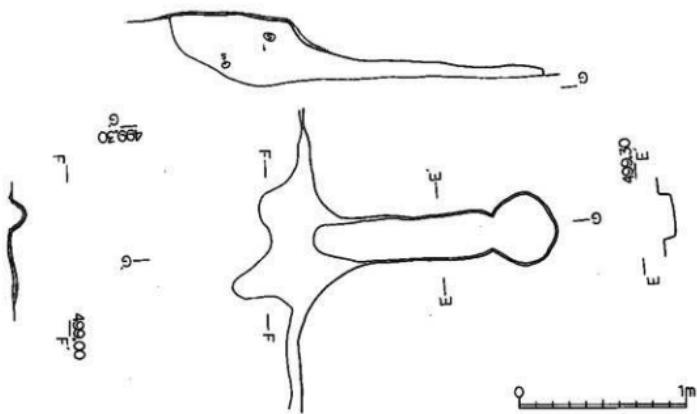
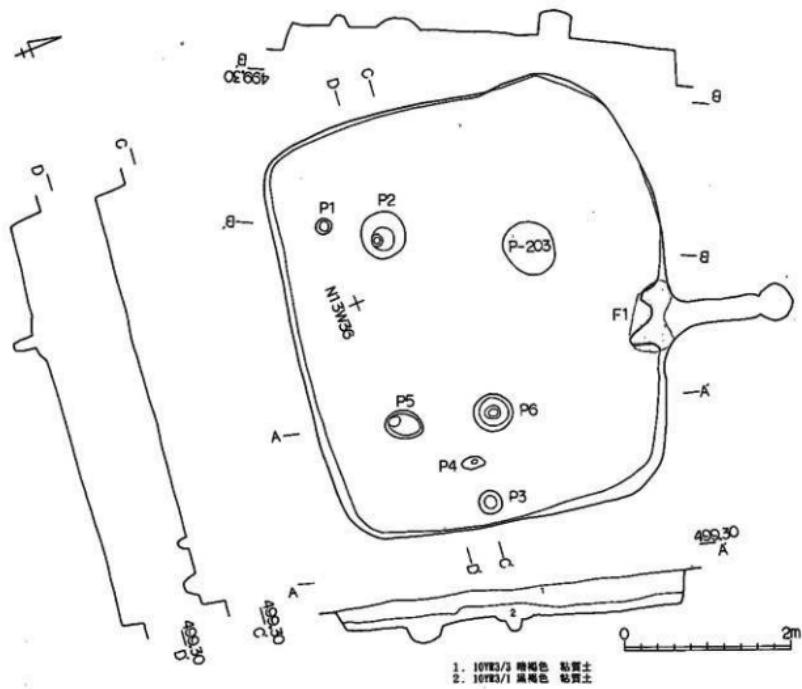
第50図 第53号住居址実測図



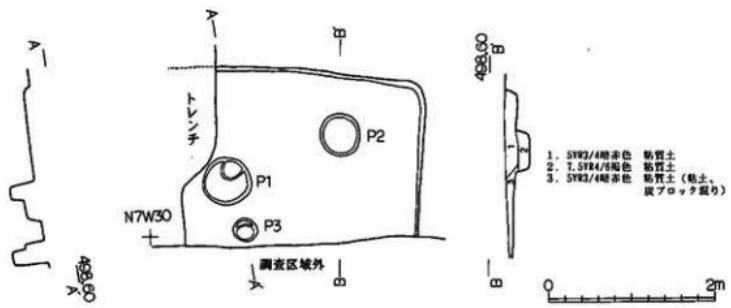
第51図 第54号住居址実測図



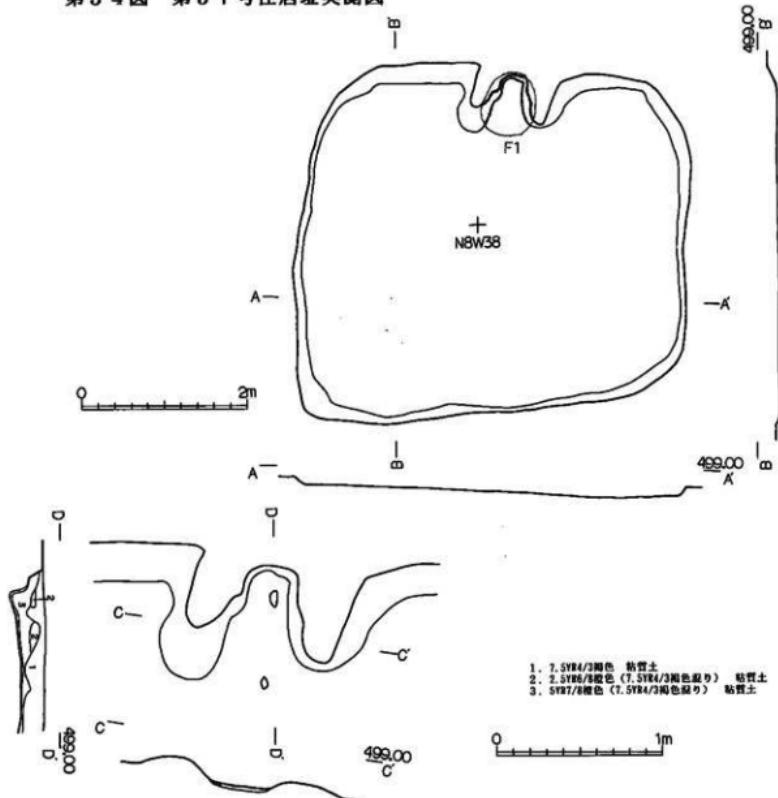
第52図 第55号住居址実測図



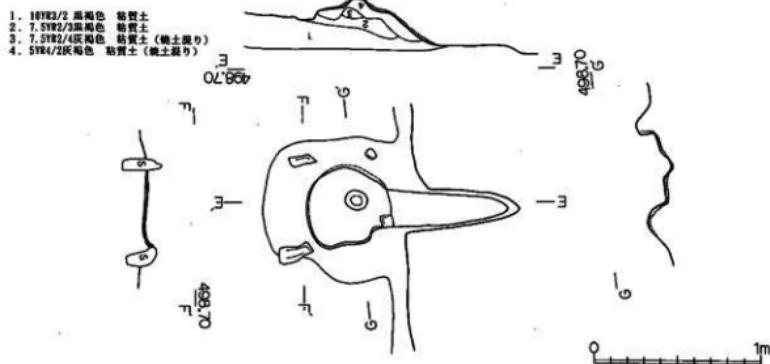
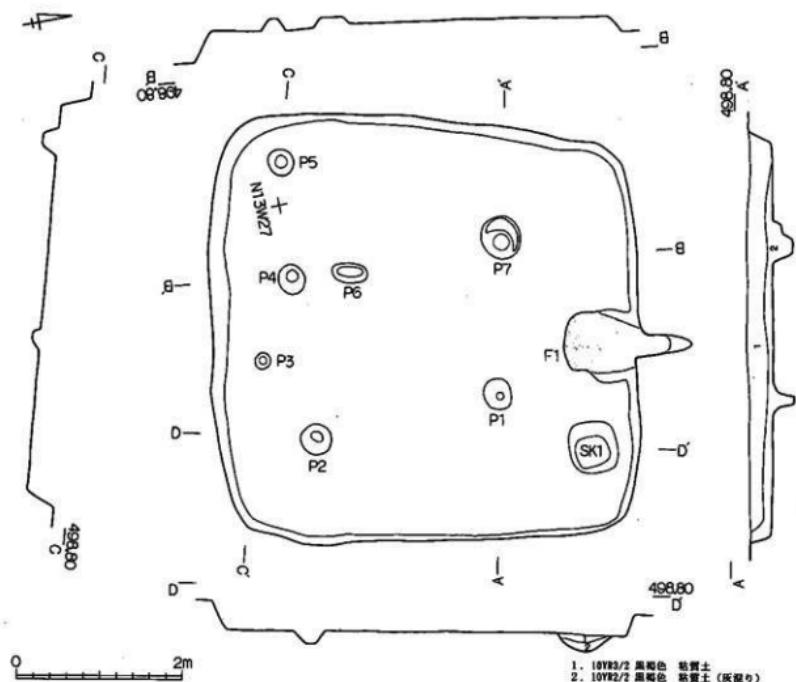
第53図 第56号住居址実測図



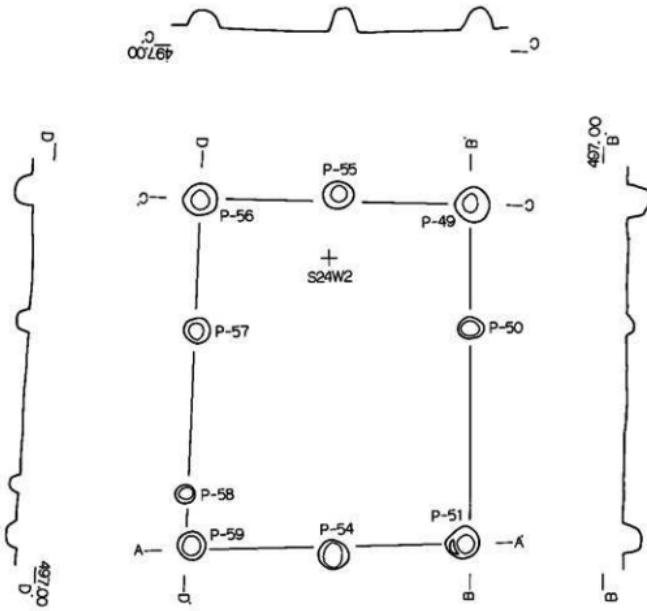
第54図 第57号住居址実測図



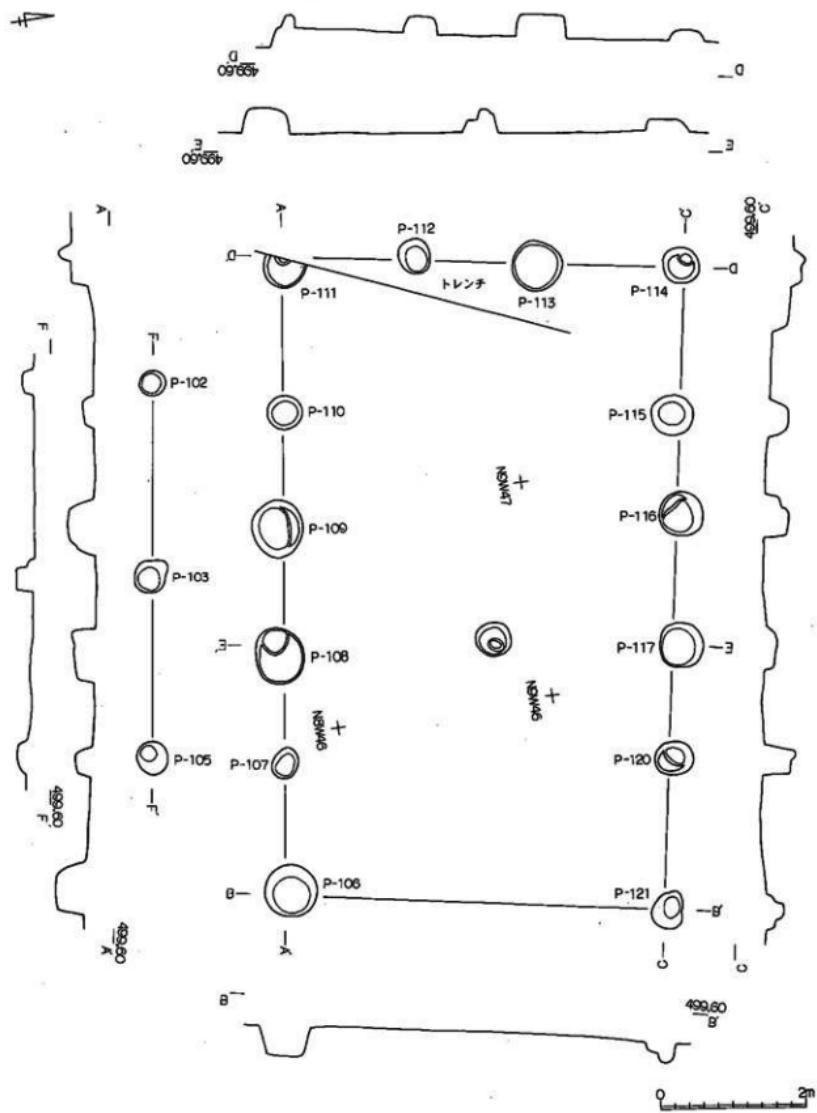
第55図 第58号住居址実測図



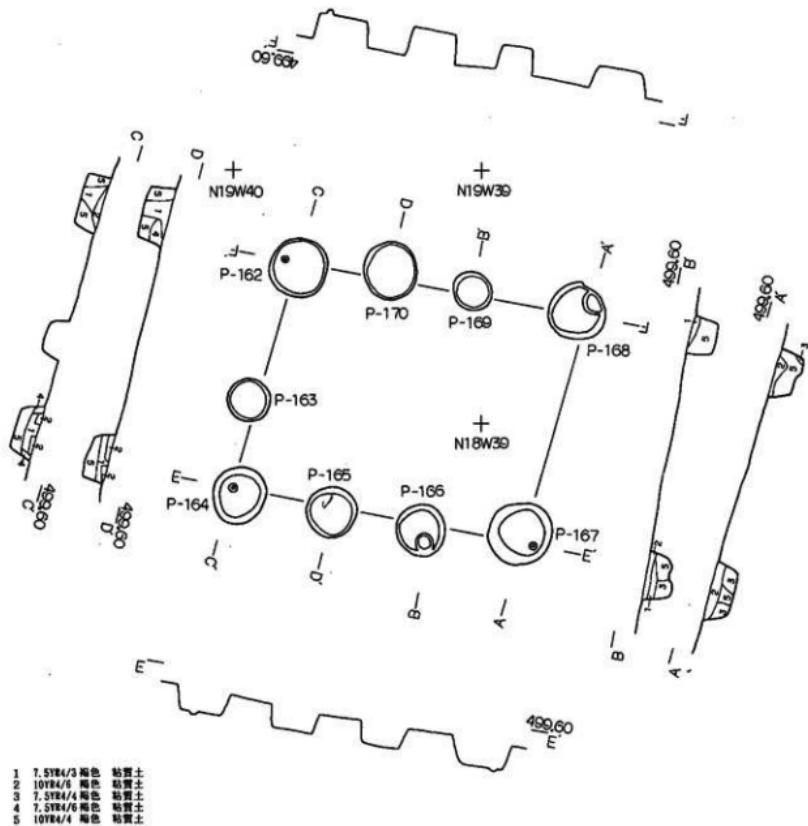
第56図 第59号住居址実測図
第56図 第59号住居址実測図



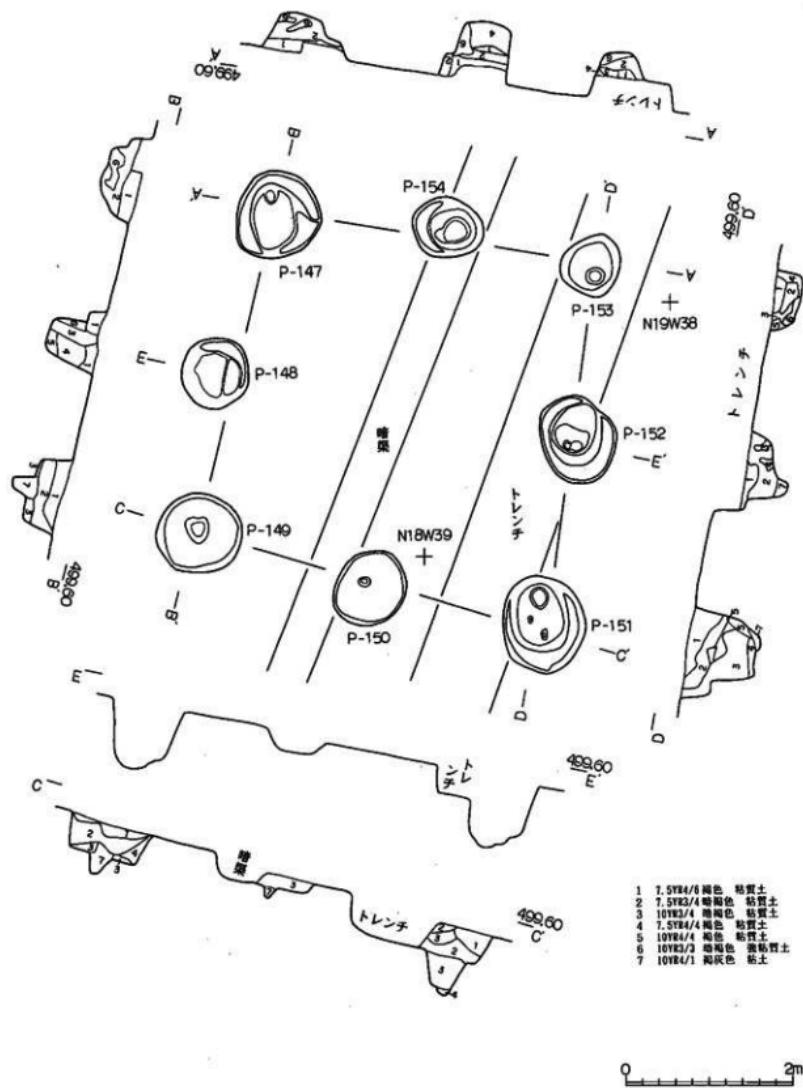
第57図 第1号掘立柱建物址実測図



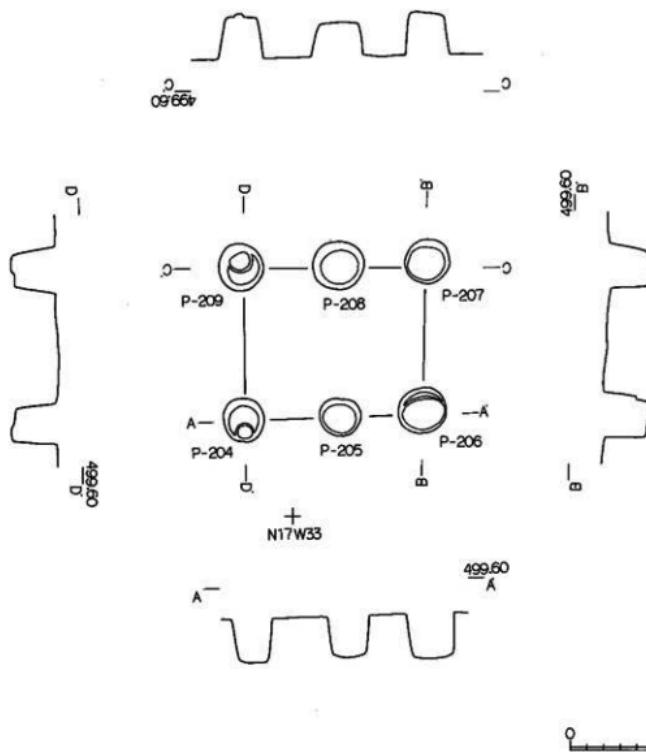
第58図 第2号掘立柱建物址実測図



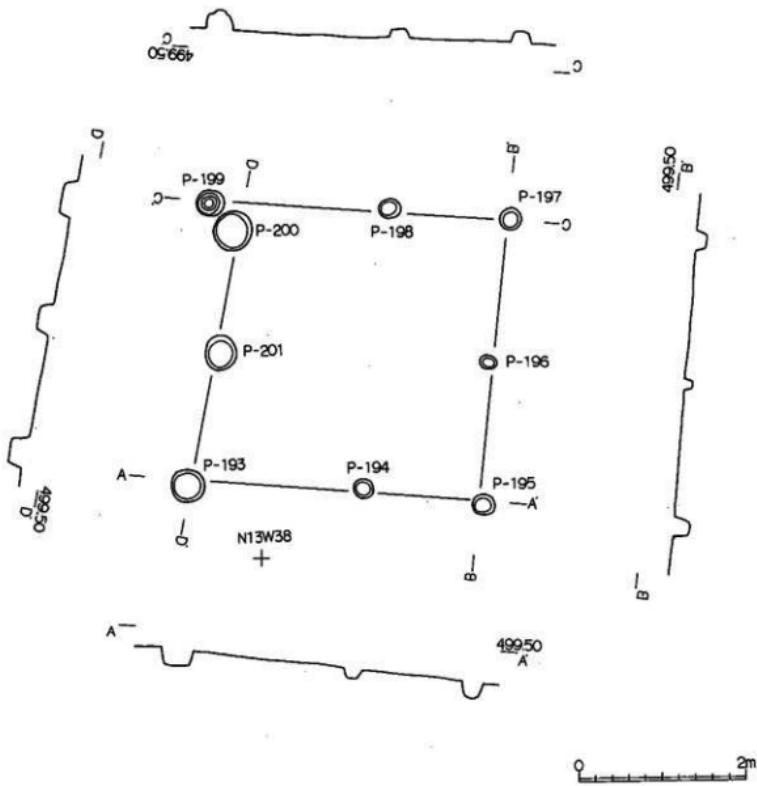
第59図 第3号掘立柱建物址実測図



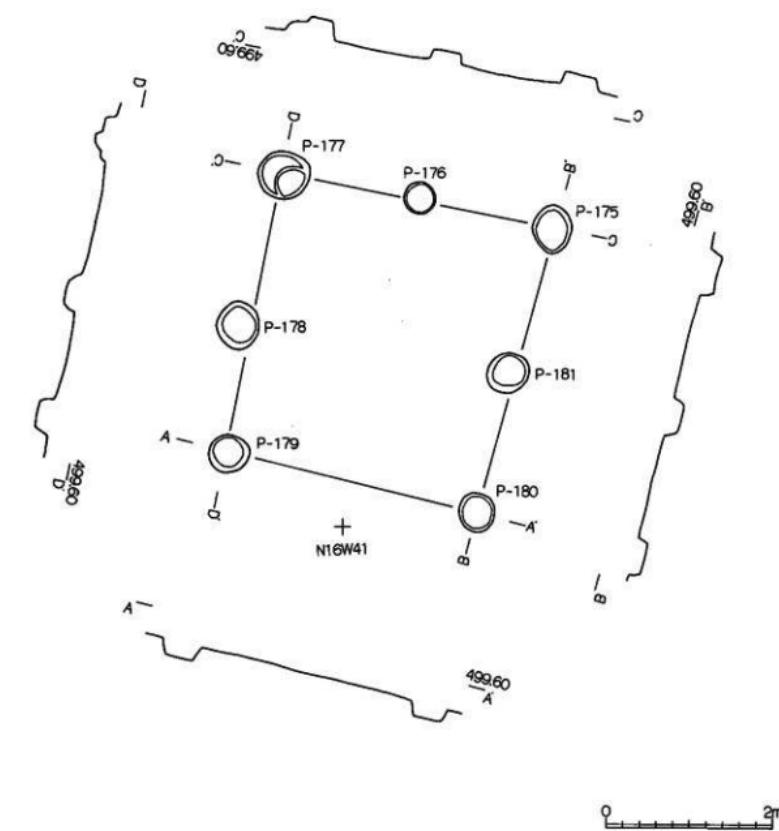
第60図 第4号掘立柱建物址実測図



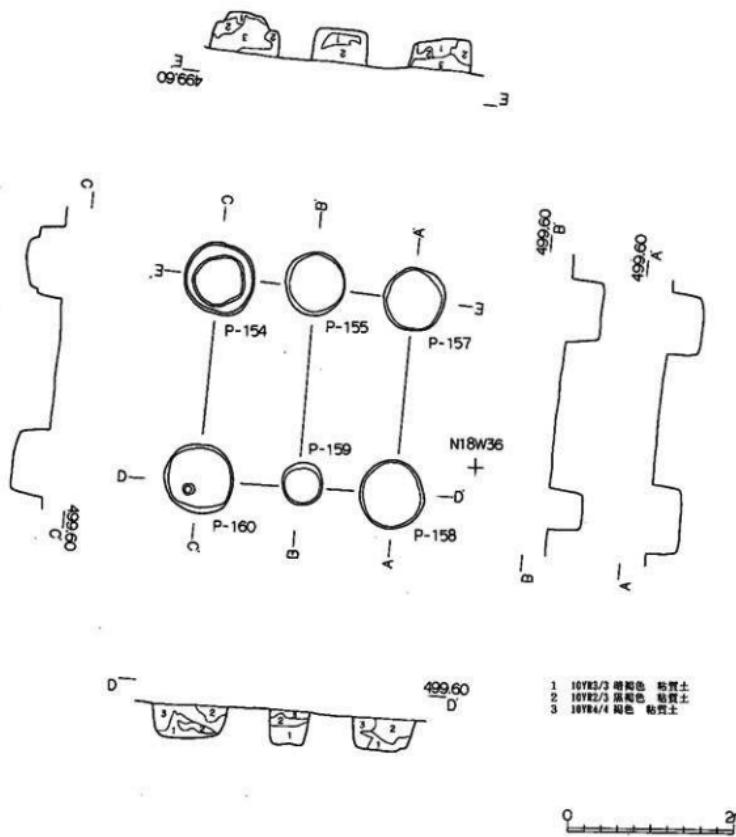
第61図 第5号掘立柱建物址実測図



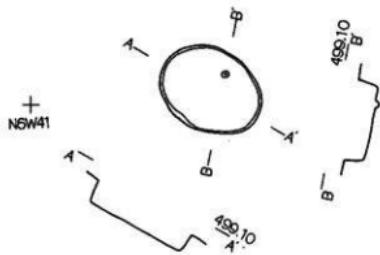
第62図 第6号掘立柱建物址実測図



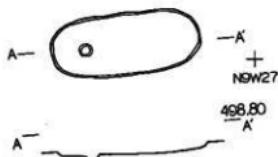
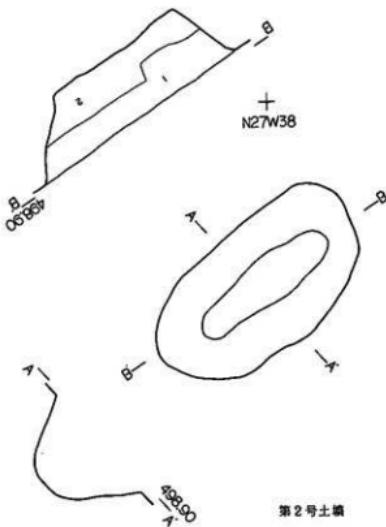
第63図 第7号掘立柱建物址実測図



第64図 第8号掘立柱建物址実測図



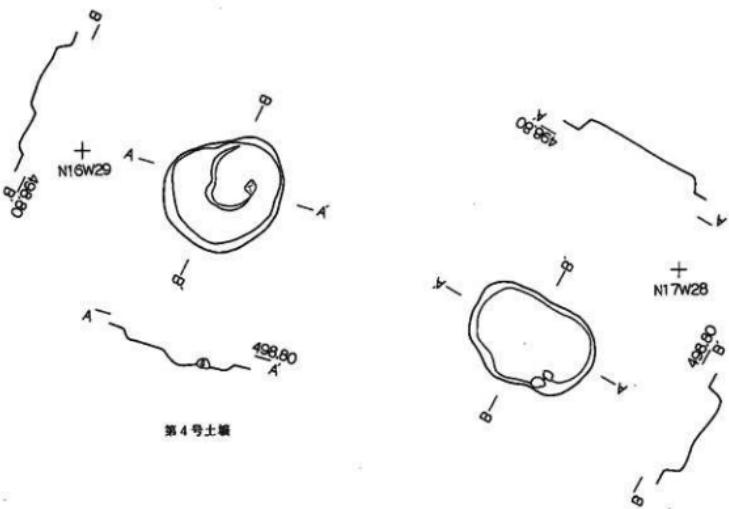
第1号土壤



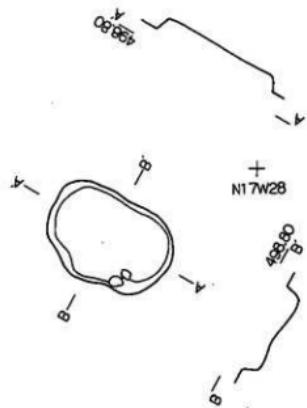
第3号土壤



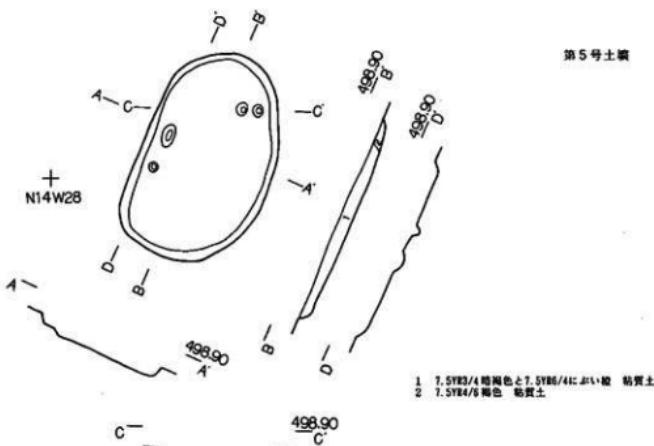
第65図 土壤実測図(1)



第4号土壤



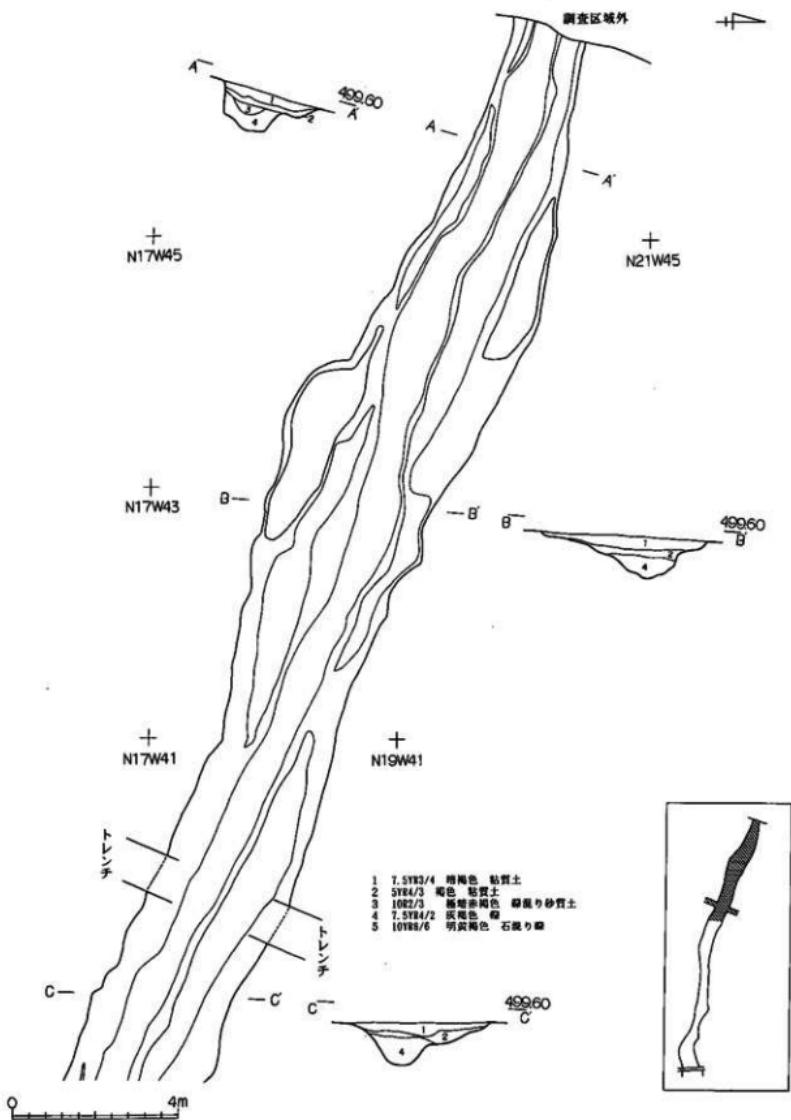
第5号土壤



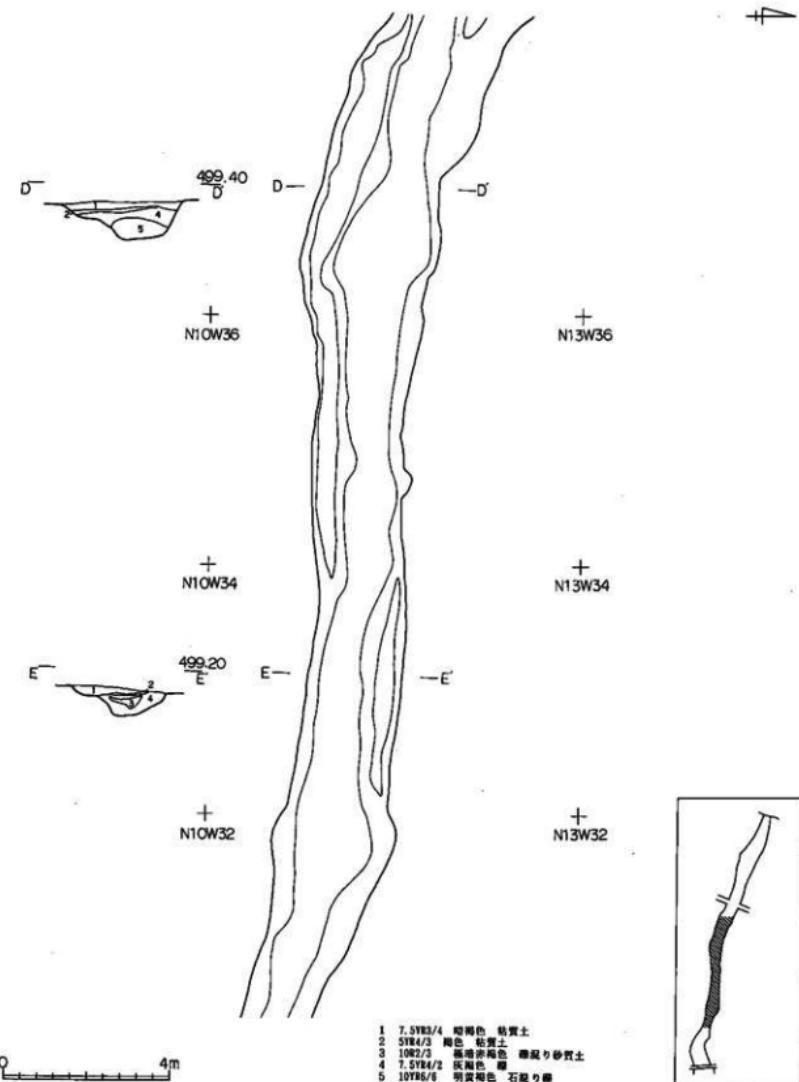
第6号土壤



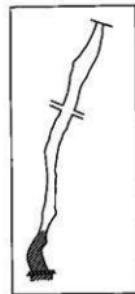
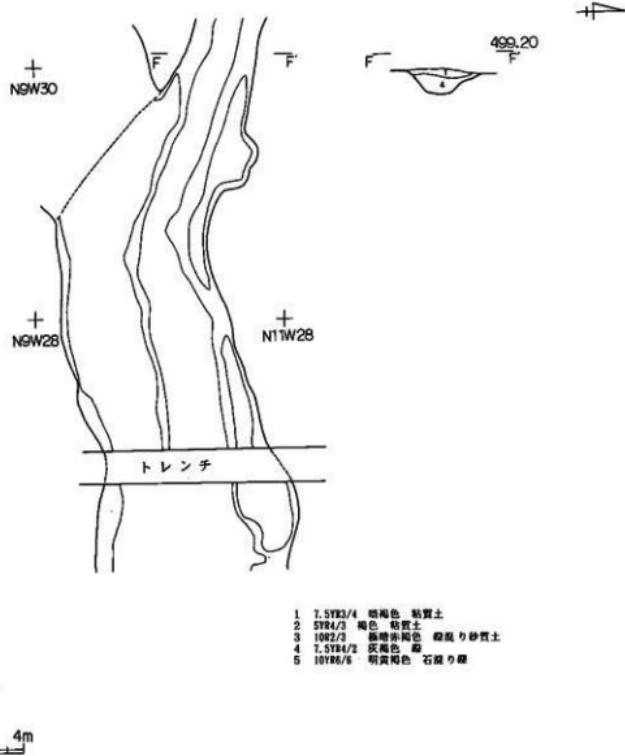
第66図 土壤実測図(2)



第67図 第1号溝址(1)



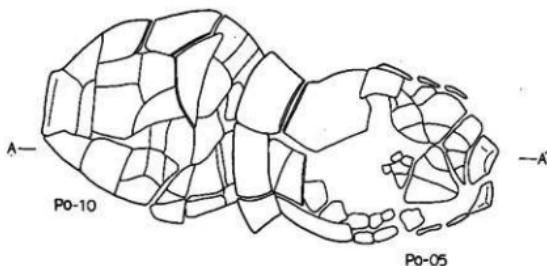
第68図 第1号溝址 (2)



第69図 第1号溝址（3）

X=41257.00
Y=30382.00

+



A—

499.00
A



0 30cm

第70図 Po-05・10出土状況図

第2節 遺構観察表

遺構	S B - 0 1	形 方 位 類似	隅丸方形 N-13°-U 3.3x3.1	壁 高 底 高 底面積	0.23(N)~0.17(E) 496.34~496.39 8.8	<input type="checkbox"/>	位 方 位 類似	北壁や東寄り N-11°-E 0.93x0.90
断面	第 5 図							
柱穴	P1(0.36x0.35x0.20) P2(0.38x0.34x0.18)							
備考	(1) 壁の東、壁際には土器の壺が半分床下に埋設されている。 (2) 壁の遺存状態は概めて良好で、天井石・袖石等がほぼ完存している。 (3) 所属時期：8世紀中頃							

遺構	S B - 0 2	形 方 位 類似	隅丸長方形 N-90°-E ?x3.14	壁 高 底 高 底面積	0.16(S) 496.38~496.45 ?	<input type="checkbox"/>	位 方 位 類似	東壁中央 N-90°-E 0.94x0.90
断面	第 6 図							
柱穴	なし							
備考	(1) 所属時期：不明							

遺構	S B - 0 3	形 方 位 類似	隅丸長方形 N-10°-U (5.1)x(4.3)	壁 高 底 高 底面積	0.12(U)~0.07(N) 496.50~496.54 ?	<input type="checkbox"/>	位 方 位 類似	北壁中央 N-10°-E 0.85x0.92
断面	第 7 図							
柱穴	P1(0.80x0.30x0.06) P2(0.72x0.38x0.06) P3(0.92x0.32x0.06)							
備考	(1) S B - 0 3、0 4 に東南の床と壁の一部を切られる。 (2) 窓戸口に土師器2個体分が出土。1個体は窓の可能性もある。 (3) 西と南に周溝が巡る。 (4) 所属時期：8世紀中頃							

遺構	S B - 0 4	形 方 位 類似	隅丸長方形? N-6°-U 4.02x?	壁 高 底 高 底面積	0.30(E)~ 496.32~496.40 ?	<input type="checkbox"/>	位 方 位 類似	北壁中央 N-8°-U 1.06x0.80
断面	第 8 図							
柱穴	P1(0.92x0.52x0.08)							
備考	(1) S B - 0 5 に南半分の床と壁、東壁の一部を切られ、S B - 0 3 を切る。 (2) 西壁に周溝が巡る。 (3) 所属時期：8世紀後半							

遺構	S B - 0 5	形 方 位 類似	隅丸方形 N-3°-U 4.50x4.40	壁 高 底 高 底面積	0.35(E)~0.08(R) 496.30~496.39 17.5	<input type="checkbox"/>	位 方 位 類似	北壁中央東寄り N-7°-U 0.80x0.85
断面	第 9 図							
柱穴	P1(0.36x0.35x0.24) P2(0.18x0.18x0.06) P3(0.20x0.18x0.11) P4(0.22x0.20x0.12) P5(0.35x0.30x0.08) P6(0.40x0.38x0.10) P7(0.22x0.20x0.08) P8(0.53x0.42x0.12) P9(0.24x0.22x0.13)							
備考	(1) 壁は北壁に造り出し袖はない。天井石が残る。 (2) 東壁と西壁の中央に、対称する形で柱穴がある。 (3) 所属時期：8世紀末～9世紀初頭							

第 2 表 遺構観察表 (1)

遺構	S B - 0 6	形態 方位 規格	周丸方形 S-89°-E 3.9x3.8	壁 床 床面積	高 高 14.2	0.20(E)~0.06(W) 496.50~496.55	竪	位置 方位 規格	東壁中央 N-95°-E 1.0x0.7
柱穴	P1(0.26x0.26x0.10) P2(0.30x0.24x0.08) P3(0.18x0.18x0.08) P4(0.44x0.40x0.18) P5(0.25x0.25x0.08) P6(0.30x0.26x0.13) P7(0.30x0.28x0.06) P8(0.38x0.37x0.15)								
備考	(1) P-26、P-28に南壁の一部を切られる。 (2) 所属時期：不明								

遺構	S B - 0 7	形態 方位 規格	周丸長方形? N-5°-V ?x3.91	壁 床 床面積	高 高 ?	0.18(N)~0.14(E) 496.44~496.54	竪	位置 方位 規格	北壁（東寄り？） N-15°-V 0.80x0.90
柱穴	P1(0.30x0.26x0.13) P2(0.36x0.30x0.07) P3(0.17x0.17x0.15)								
備考	(1) 暗渠排水管に東壁及び床を切られ、西側は調査区境外となる。 (2) 住居址北側、竪の南に頗大の窓が集中して出土する。 (3) 窓の東、住居址北東隅に貯蔵穴(0.80x0.40x0.14)あり。 (4) 所属時期：8世紀末～9世紀前半								

遺構	S B - 0 8	形態 方位 規格	周丸方形 N 3.72x3.70	壁 床 床面積	高 高 10.8	0.10(S)~0.05(V) 496.27~496.35	竪	位置 方位 規格	北壁中央 N-2°-V 1.05x0.75
柱穴	P1(0.40x0.33x0.13) P2(0.48x0.45x0.28)								
備考	(1) 東壁沿いに周縁あり。 (2) 所属時期：7世紀後半								

遺構	S B - 0 9	形態 方位 規格	周丸方形 N-93°-E 3.40x3.10	壁 床 床面積	高 高 9.2	0.14(V)~0.06(S) 496.48~496.55	竪	位置 方位 規格	東壁中央南寄り N-92°-E 0.75x0.80
柱穴	P1(0.32x0.31x0.18)								
備考	(1) 所属時期：不明								

遺構	S B - 1 0	形態 方位 規格	周丸長方形 N-93°-E 3.90x3.30	壁 床 床面積	高 高 10.7	0.26(U)~0.16(N) 496.45~496.50	竪	位置 方位 規格	東壁中央 N-92°-E 1.10x0.65
柱穴	P1(0.48x0.42x0.30)								
備考	(1) 住居址南西角に土坑(1.00x0.85x0.28)あり。 (2) SB-11を切る (3) 所属時期：不明								

第3表 遺構観察表(2)

造筋	S B - 1 1	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-4°-W 4.20x4.00	壁 床 床面積	高 高 16.8	0.16(N)~0.07(W) 496.31~496.40	確	位置 方位 規模	北壁中央 N-1°-U 1.60x1.08
壁版	第 1 5 図								
柱穴	P1(0.24x0.16x0.12) P5(0.16x0.16x0.05)	P2(0.40x0.14x0.12)	P3(0.32x0.29x0.05)	P4(0.28x0.20x0.10)					
備考	(1) SB-10.12に切られ、南壁の大部分を暗渠排水管に切られる。 (2) 住居址東壁から南壁に沿って溝渠あり。 (3) 廻の袖は造りだしとなっている。 (4) 所属時期：8世紀前半								

造筋	S B - 1 2	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-90°-E 3.50x3.32	壁 床 床面積	高 高 10.6	0.30(N)~0.26(E) 496.49~496.42	確	位置 方位 規模	東壁中央 N-100°-E 0.60x0.55
壁版	第 1 6 図								
柱穴	P1(0.40x0.38x0.06)								
備考	(1) SB-11.14を切る。 (2) 所属時期：8世紀末～9世紀初頭								

造筋	S B - 1 3	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-91°-E 3.02x?	壁 床 床面積	高 高 ?	0.26(N)~0.23(S) 496.15~496.10	確	位置 方位 規模	東壁中央南寄り N-104°-E 0.80x0.80
壁版	第 1 7 図								
柱穴	P1(0.16x0.15x0.08) P5(0.28 0.25x0.06)	P2(0.30x0.28x0.06) P6(0.28 0.26x0.07)	P3(0.62 0.40x0.10) P7(0.10x0.10x0.05)	P4(0.18 0.16x0.06)					
備考	(1) 住居址西壁を試掘トレンチで失う。 (2) 所属時期：8世紀後半								

造筋	S B - 1 4	形態 方位 規模	隅丸方形 N-3°-E 3.8x3.7	壁 床 床面積	高 高 12.2	0.20(W)~0.10(E) 496.60~496.54	確	位置 方位 規模	北壁東寄り ?
壁版	第 1 8 図								
柱穴	P1(0.16x0.15x0.12)								
備考	(1) SB-12に窓の縦道部を切られ、西壁を暗渠排水管に切られる。 (2) 窓の東、住居址北東角に貯蔵穴(0.90x0.38x0.10)あり。 (3) 所属時期：7世紀後半？								

造筋	S B - 1 5	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-3°-W 3.50x3.13	壁 床 床面積	高 高 8.5	0.28(S)~0.16(N) 496.50~496.44	確	位置 方位 規模	北壁東寄り N-5°-U 0.80x0.80
壁版	第 1 9 図								
柱穴	なし								
備考	(1) 住居址覆土は砂砾で、油野川の氾濫によるものと思われる。 (2) 所属時期：8世紀前半								

第 4 表 造構観察表 (3)

造構	S B - 1 6	形態 方位 規格	隅丸方形 N-84°-W 3.80x3.80	壁 床 床面積	高 高 14.4	0.11(N)~0.06(S) 496.52~496.40	電	位置 方位 規格	西壁中央 N-89°-W 0.46x1.16
図版	第 2 0 図								
柱穴	なし								
備考	所属時期：8世紀前半								

造構	S B - 1 7	形態 方位 規格	隅丸方形? N-7°-E? 6.4x?	壁 床 床面積	高 高 ?	0.16(N)~0(S) 496.76~496.64	電	位置 方位 規格	? ? ?
図版	第 2 1 図								
柱穴	P1(0.40x0.34x0.14) P2(?)半分調査区域外)								
備考	(1) SB-18を切る。 (2) 西半部分調査区域外 (3) 所属時期：？								

造構	S B - 1 8	形態 方位 規格	隅丸長方形 N-98°-E 4.3x3.6	壁 床 床面積	高 高 15.4	0.20(E)~0.10(W) 496.61~496.54	電	位置 方位 規格	東壁南寄り N-108°-E 0.7x0.9
図版	第 2 2 図								
柱穴	なし								
備考	(1) SB-17、暗渠排水管に切られる。 (2) 窯の燃焼室のレベルは、床面より一段低くなっている。 (3) 所属時期：8世紀末～9世紀初頭？								

造構	S B - 1 9	形態 方位 規格	隅丸方形 N-5°-?/ ?x3.2	壁 床 床面積	高 高 ?	0.08(N)~0.04(S) 496.72~496.65	電	位置 方位 規格	北壁 ? 1.1x?
図版	第 2 3 図								
柱穴	P1(0.22x0.21x0.08) P2(0.26x0.25x0.05) P3(0.23x0.20x0.06)								
備考	(1) 窯がSB-17を切る。 (2) 住居址西側は調査区域外となる。 (3) 床面に浅い周溝がめぐる。 (4) 所属時期：？								

造構	S B - 2 0	形態 方位 規格	隅丸長方形? ? ?	壁 床 床面積	高 高 ?	0.30(N) 496.72	電	位置 方位 規格	? ? ?
図版	第 2 4 図								
柱穴	?								
備考	(1) 住居址の大部分がSB-26・27に切られる。 (2) 所属時期：8世紀末～9世紀初頭								

第 5 表 道構観察表 (4)

追跡	S B - 2 1	彌留 方位 基盤	隅丸長方形? ? 5.3x?	盛 床 高 床面積	0.20(S)~0.17(N) 496.63~496.59 ?	<input type="checkbox"/>	位 方 位 基 盤	?
調査	第 2 5 図					<input checked="" type="checkbox"/>	位 方 位 基 盤	?
柱穴	?							
参考	(1) SB-22を切る。 (2) 住居址の西側大半は調査区域外となる。 (3) 所属時期：8世紀末～9世紀初頭							

追跡	S B - 2 2	彌留 方位 基盤	隅丸方形? ? 4.4x?	盛 床 高 床面積	0.10(S)~0.05(N) 496.67~496.57 ?	<input type="checkbox"/>	位 方 位 基 盤	?
調査	第 2 6 図					<input checked="" type="checkbox"/>	位 方 位 基 盤	?
柱穴	P1(0.54x0.02x0.20) P2(0.75x0.37x0.22)							
参考	(1) SB-21に切られる。 (2) 住居址の西側は調査区域外となる。 (3) 所属時期：?							

追跡	S B - 2 3	彌留 方位 基盤	隅丸方形 N-105°-E 2.9x2.8	盛 床 高 床面積	0.16(E)~0.12(N) 496.60~496.55 6.5	<input type="checkbox"/>	位 方 位 基 盤	東壁中央 N-89°-E 0.9x0.9
調査	第 2 7 図					<input checked="" type="checkbox"/>	位 方 位 基 盤	
柱穴	なし							
参考	(1) SB-32を切る。 (2) 所属時期：8世紀前半							

追跡	S B - 2 4	彌留 方位 基盤	隅丸方形 N-94°-E 3.1x2.7	盛 床 高 床面積	0.18(E)~0.06(N) 496.71~496.57 8.3	<input type="checkbox"/>	位 方 位 基 盤	西壁北寄り N-96°-E 0.76x0.90
調査	第 2 8 図					<input checked="" type="checkbox"/>	位 方 位 基 盤	
柱穴	なし							
参考	(1) 所属時期：8世紀後半							

追跡	S B - 2 5	彌留 方位 基盤	隅丸方形 N 3.74x3.70	盛 床 高 床面積	0.23(S)~0.04(U) 496.67~496.57 ?	<input type="checkbox"/>	位 方 位 基 盤	?
調査	第 2 9 図					<input checked="" type="checkbox"/>	位 方 位 基 盤	
柱穴	なし							
参考	(1) SB-26, 27に切られる。 (2) 所属時期：?							

第 6 表 造構観察表 (5)

遺構	SB-26	形態 方位 規模	隅丸方形 N-96°-E 4.40x3.90	壁 床 床面積	高 高 17.1	0.32(E) 496.44~496.52	?	位置 方位 規模	東壁南寄り N-99°-E 1.00x0.90
柱穴	?								
備考	(1) SB-20、25、27をさる。 (2) 壁内に土師器壺片が散かれるように出土する。 (3) 所属時期：9世紀半ば								

遺構	SB-27	形態 方位 規模	隅丸方形 N-7°-E? ?	壁 床 床面積	高 高 ?	0.25(E)~0.19(W) 496.52~496.48	?	位置 方位 規模	?
柱穴	P1(0.68x0.58x0.17)			P2(0.44x0.41x0.17)					
備考	(1) SB-26に切られる。 (2) 所属時期：8世紀末～9世紀前半								

遺構	SB-28	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-90°-E 3.5x2.6	壁 床 床面積	高 高 8.7	0.05(W)~0(E) 496.72~496.68	?	位置 方位 規模	東壁中央 N-90°-E 0.54x0.60
柱穴	P1(0.46x0.34x0.12)			P2(0.34x0.21x0.16)					
備考	(1) SB-29に南壁を切られる。 (2) 所属時期：？								

遺構	SB-29	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-7°-E 4.8x3.9	壁 床 床面積	高 高 18.6	0.08(W)~0(S) 496.74~496.68	?	位置 方位 規模	?
柱穴	P1(0.22x0.21x0.14)			P2(0.60x0.43x0.15)		P3(0.36x0.34x0.11)		P4(0.34x0.30x0.15)	
備考	(1) SB-28を切る。 (2) 所属時期：？								

遺構	SB-30	形態 方位 規模	隅丸方形 N-16°-W 4.8x4.8	壁 床 床面積	高 高 21	0.22(S)~0.10(W) 496.55~496.46	?	位置 方位 規模	北壁東寄り N-10°-W 0.9x0.6
柱穴	P1(0.50x0.40x0.08)			P2(0.52x0.48x0.18)					
備考	(1) SB-33を切る。 (2) 所属時期：8世紀半ば								

第7表 遺構観察表(6)

遺構	S B - 3 1	形態 方位 規模	隅丸方形 N-99°-E 3.3x3.0	壁 床 床面積	高 高 8.9	0.22(W)~0.11(E) 496.62~496.55	窓	位姿 方位 規模	東壁中央 H-92°-E 0.74x0.86
柱穴	P1(0.18x0.18x0.06)								
備考	(1) 住居址西側を暗渠排水管に切られる。 (2) SB-32を切る。 (3) 所属時期：8世紀半ば～後半								

遺構	S B - 3 2	形態 方位 規模	隅丸方形 N-8°-E 3.58x3.54	壁 床 床面積	高 高 11.0	0.24(N)~0.13(V) 496.32~496.25	窓	位姿 方位 規模	北壁東寄り H-8°-E? 0.4x0.7
柱穴	なし								
備考	(1) SB-23、31に切られるものの、床面は完存する。 (2) SB-23に電を切られ、壇の状態は不明確である。 (3) 所属時期：8世紀前半								

遺構	S B - 3 3	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-87°-W 5.8x4.6	壁 床 床面積	高 高 23.7?	0.12(E)~0.08(N) 496.55~496.50	窓	位姿 方位 規模	?
柱穴	なし								
備考	(1) SB-30に大部分を切られる。 (2) 所属時期：?								

遺構	S B - 4 1	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-5.5°-E 4.8x2.9	壁 床 床面積	高 高 14.4	0.18(W)~0.13(S) 498.70~498.62	窓	位姿 方位 規模	北壁中央 H-5.5°-E 0.84x0.76
柱穴	P1(0.57x0.46x0.29) P2(0.24x0.22x0.29) P3(0.27x0.24x0.12)								
備考	(1) 所属時期：不明								

遺構	S B - 4 2	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-0.1°-E 4.4x3.7	壁 床 床面積	高 高 14.7	0.20(W)~0.06(E) 498.68~498.60	窓	位姿 方位 規模	北壁中央 H-7°-E 1.2x0.9
柱穴	P1(0.26x0.26x0.06) P2(0.32x0.31x0.24) P3(0.25x0.25x0.16) P4(0.44x0.39x0.38) P5(0.47x0.46x0.12) P6(0.26x0.25x0.06)								
備考	(1) 壇の東、住居址北東隅に貯藏穴(0.74x0.60x0.28)がある。 (2) 南と東の壁の一部を暗渠排水に切られる。 (3) 所属時期：7世紀後半								

第 8 表 遺構観察表 (7)

遺構	S B - 4 3	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-29°-E 5.1x4.6	壁 床 床面積	0.26(W)~0.11(S) 498.51~498.45 19.5	■	位置 方位 規模	北壁中央 N-32°-E 0.9x1.0
図版	第 4 0 図							
柱穴	P1(0.43x0.28x0.06) P5(0.38x0.36x0.08) P9(0.34x0.33x0.08)	P2(0.50x0.40x0.12) P6(0.22x0.12x0.20)	P3(0.43x0.40x0.18) P7(0.68x0.53x0.10)	P4(0.22x0.20x0.06) P8(0.34x0.32x0.12)				
備考	(1) 窓の残存状況は著しく悪い。 (2) 所属時期：7世紀後半							

遺構	S B - 4 4	形態 方位 規模	隅丸方形 N-33°-E 5.5x5.3	壁 床 床面積	0.25(E)~0.08(S) 498.40~498.32 26.4	■	位置 方位 規模	北壁中央 N-32°-E 2.5x0.8
図版	第 4 1 図							
柱穴	P1(0.30x0.28x0.18) P5(0.48x0.40x0.38)	P2(0.44x0.40x0.38) P6(0.28x0.28x0.32)	P3(0.44x0.37x0.14) P7(0.50x0.43x0.32)	P4(0.68x0.50x0.09)				
備考	(1) 南壁際と東壁側に周溝が巡る。 (2) 住居址北東角を試掘トレンチで切る。 (3) 所属時期：7世紀後半							

遺構	S B - 4 5	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-26°-E 4.6x3.6	壁 床 床面積	0.22(N)~0.13(S) 498.50~498.40 14.2	■	位置 方位 規模	北壁中央 N-24°-E 2.4x0.75
図版	第 4 2 図							
柱穴	P1(0.57x0.48x0.17)	P2(0.23x0.18x0.12)	P3(0.57x0.51x0.19)	P4(0.40x0.37x0.12)				
備考	(1) 窓焚口に瓶石が据えられる。 (2) 所属時期：不明							

遺構	S B - 4 6	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-0.5°-E 3.5x3.3	壁 床 床面積	0.32(S)~0.14(E) 499.39~499.24 8.4	■	位置 方位 規模	北壁中央 N-0.5°-W 0.42x1.02
図版	第 4 3 図							
柱穴	P1(0.53x0.50x0.08)	P2(0.12x0.11x0.06)	P3(0.62x0.39x0.09)					
備考	(1) 覆土から炭化物が多量に出土する。 (2) 床面中央から織物石が集中して出土する。 (3) 所属時期：5世紀後半～6世紀							

遺構	S B - 4 7	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-85°-E 7x2.9	壁 床 床面積	0.10(S) 499.30~499.22 ?	■	位置 方位 規模	東壁中央 ? ?
図版	第 4 4 図							
柱穴	P1(0.22x0.21x0.13)	P2(0.22x0.21x0.10)	P3(0.34x0.32x0.08)	P4(0.18x0.18x0.06)				
備考	(1) 住居址西側を試掘トレンチに切られる。 (2) 施土が東壁際に残り、窓の跡と思われるが、不明確である。 (3) 所属時期：不明							

第 9 表 遺構観察表 (8)

追跡	S B - 4 8	形 態 方 位 規 似	圓丸方形? ? ?	壁 高 底 高 底面 面	0.07(NE)~0.06(SU) 499.15~499.20 ?	□	位 置 方 位 規 似	?	
面版	第 4 5 圖								
注穴	P1(0.38x0.34x0.30)								
参考	(1) 住居址の大部分は調査区域外となる。 (2) 所属時期: 7世紀後半								

追跡	S B - 4 9	形 態 方 位 規 似	圓丸方形 N 6.2x5.8	壁 高 底 高 底面 面	0.24(U)~0.18(E) 499.28~499.08 36.0	□	位 置 方 位 規 似	北壁中央 N-6.5'-U 2.2x0.8	
面版	第 4 6 圖								
注穴	P1(0.54x0.52x0.11) P2(0.52x0.50x0.12) P3(0.38x0.34x0.11) P4(0.50x0.42x0.09) P5(0.29x0.26x0.09) P6(0.62x0.56x0.09) P7(0.34x0.29x0.07)								
参考	(1) 東壁面から銀鏡が出土する。 (2) 窓内に土師器皿が2個体出土する。 (3) SB-50を切る。 (4) 所属時期: 7世紀後半~8世紀前半								

追跡	S B - 5 0	形 態 方 位 規 似	圓丸方形? N-7'-E 3.4x?	壁 高 底 高 底面 面	0.18(E)~0.05(S) 499.22~499.11 ?	□	位 置 方 位 規 似	北壁 N-6'-E 1.6x0.6	
面版	第 4 7 圖								
注穴	?								
参考	(1) SB-49に切られる。 (2) 住居址西側は調査区域外となる。 (3) 所属時期: 不明								

追跡	S B - 5 1	形 態 方 位 規 似	圓丸長方形 N-4'-U 5.0x4.2	壁 高 底 高 底面 面	0.30(S)~0.18(U) 498.98~498.90 19.5	□	位 置 方 位 規 似	北壁中央西寄り N-7'-U 0.82x0.70	
面版	第 4 8 圖								
注穴	P1(0.38x0.33x0.11) P2(0.38x0.32x0.11) P3(0.34x0.32x0.10) P4(0.30x0.26x0.12) P5(0.26x0.24x0.10)								
参考	(1) 西壁面に僅かに周溝がある。 (2) 所属時期: 7世紀後半								

追跡	S B - 5 2	形 態 方 位 規 似	圓丸長方形 N-4'-E 4.9x3.40	壁 高 底 高 底面 面	0.31(N)~0.17(U) 498.92~498.85 13.9	□	位 置 方 位 規 似	北壁中央 N-19'-E 0.7x0.7	
面版	第 4 9 圖								
注穴	P1(0.39x0.32x0.20) P2(0.56x0.50x0.22) P3(0.32x0.32x0.18)								
参考	(1) SB-53を切る (2) 所属時期: 7世紀後半~8世紀前半								

第10表 造構體察表(9)

遺構	SB-53	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-5°-E 4.36x3.50	壁 床 床面積	高 高 ?	0.24(S)~0.14(N) 498.65~498.53 ?	?	位置 方位 規模	?
図版	第50図								
柱穴	なし								
備考	(1) SB-52に切られる。 (2) 所属時期:不明								

遺構	SB-54	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-82°-W 5.28x4.36	壁 床 床面積	高 高 ?	0.24(S)~0.18(W) 498.83~498.82 20.7	?	位置 方位 規模	?
図版	第51図								
柱穴	なし								
備考	(1) 検出のプランが不明確で、サブトレンチを入れて、SB-55に切られていると判断して彫り上げたが、あるいはSB-55の抜張、もしくは壁際のベッド状遺構に相当する可能性もある。 (2) 所属時期:不明								

遺構	SB-55	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-11°-E 5.2x3.5	壁 床 床面積	高 高 ?	0.38(W)~0.30(E) 498.85~498.78 14.36	?	位置 方位 規模	北壁中央 N-10°-E 1.7x0.6
図版	第52図								
柱穴	P1(0.38x0.38x0.38) P2(0.36x0.35x0.12)								
備考	(1) SB-54 遺構観察表の備考(1)を参照されたい。 (2) 床面から歌骨出土 (3) 所属時期: 7世紀後半								

遺構	SB-56	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-14°-E 5.04x4.56	壁 床 床面積	高 高 ?	0.42(S)~0.22(N) 498.70~498.20 21.5	?	位置 方位 規模	北壁東寄り N-15°-E 1.5x0.43
図版	第53図								
柱穴	P1(0.20x0.18x0.11) P2(0.55x0.52x0.32) P5(0.44x0.34x0.18) P6(0.46x0.44x0.16)					P3(0.28x0.27x0.16) P4(0.28x0.27x0.16)			
備考	(1) 所属時期: 7世紀後半								

遺構	SB-57	形態 方位 規模	隅丸方形 ?	壁 床 床面積	高 高 ?	0.14(NW)~0.08(NE) 498.31~498.25 ?	?	位置 方位 規模	?
図版	第54図								
柱穴	P1(0.59x0.56x0.31) P2(0.52x0.48x0.17)					P3(0.29x0.27x0.41)			

(1) 所属時期:不明

第11表 遺構観察表(10)

遺構	S B - 5 8	形態 方位 基盤	隅丸方形 N-4°-E 4.5×4.1	壁 床 床面積	高 高 17.2	0.13(N)-0.06(S) 498.80-498.65	位 置 方位 基盤	北壁中央 N-23°-E 0.90×0.60
柱穴	なし							
備考	(1) 所属時期：不明							

遺構	S B - 5 9	形態 方位 基盤	隅丸方形 N-13°-E 5.2×5.0	壁 床 床面積	高 高 22.6	0.36(S)-0.20(N) 498.40-498.26	位 置 方位 基盤	北壁中央 N-12°-E 1.56×0.85
柱穴	P1(0.35×0.33×0.25) P5(0.32×0.30×0.20)		P2(0.38×0.38×0.16) P6(0.44×0.24×0.12)		P3(0.20×0.20×0.10) P7(0.50×0.47×0.25)		P4(0.37×0.34×0.18)	
備考	所属時期：7世紀後半							

遺構	S T - 0 1	形態	第 5 7 図	形態	側柱式(4×2間)	方 位	N-2°-E	基 盤	4.64×3.64
柱穴	P-59(0.36×0.34×0.18) P-49(0.42×0.39×0.37) P-50(0.33×0.27×0.08)		P-54(0.38×0.36×0.10) P-55(0.38×0.32×0.27) P-58(0.25×0.22×0.13)		P-51(0.40×0.36×0.24) P-56(0.42×0.37×0.20)				
備考	底付か？								

遺構	S T - 0 2	形態	第 5 8 図	形態	側柱式(6×2間)	方 位	N-10°-E	基 盤	9.30×7.70
柱穴	P-102(0.36×0.34×0.18) P-106(0.72×0.71×0.40) P-109(0.80×0.71×0.47) P-112(0.47×0.44×0.25) P-115(0.58×0.54×0.24) P-118(0.50×0.47×0.32)		P-103(0.54×0.42×0.24) P-107(0.42×0.34×0.22) P-110(0.49×0.45×0.15) P-113(0.68×0.67×0.33) P-116(0.62×0.60×0.34) P-120(0.54×0.45×0.44)		P-105(0.44×0.42×0.12) P-108(0.75×0.64×0.30) P-111(? ×0.58×0.40) P-114(0.52×0.48×0.15) P-117(0.62×0.60×0.17) P-121(0.50×0.44×0.37)				
備考									

遺構	S T - 0 3	形態	第 5 9 図	形態	側柱式(3×2間)	方 位	N-15°-E	基 盤	4.08×3.50
柱穴	P-162(0.71×0.70×0.36) P-165(0.62×0.60×0.26) P-168(0.68×0.64×0.27)		P-163(0.53×0.51×0.24) P-166(0.62×0.59×0.28) P-169(0.48×0.45×0.29)		P-164(0.69×0.64×0.32) P-167(0.78×0.72×0.32) P-170(0.70×0.64×0.34)				
備考									

第 12 表 遺構観察表 (11)

造構	S T - 0 4	図版	第 6 0 図	形態	側柱式(2×2間)	方位	N-12°-E	規模	5.30×5.10
柱穴	P-147(1.04×1.02×0.46) P-148(0.84×0.82×0.63) P-149(1.03×0.96×0.63) P-150(0.93×0.84×0.35) P-151(1.20×1.02×0.88) P-152(1.04×0.92×0.50) P-153(0.74×0.73×0.32) P-154(0.88×0.62×0.70)								
備考									

造構	S T - 0 5	図版	第 6 1 図	形態	側柱式(2×1間)	方位	N	規模	2.25×1.93
柱穴	P-204(0.53×0.49×0.51) P-205(0.51×0.44×0.49) P-206(0.58×0.52×0.52) P-207(0.54×0.51×0.48) P-208(0.63×0.56×0.37) P-209(0.59×0.55×0.52)								
備考									

造構	S T - 0 6	図版	第 6 2 図	形態	側柱式(2×2間)	方位	N-11°-E	規模	3.66×3.56
柱穴	P-193(0.41×0.40×0.20) P-194(0.25×0.22×0.13) P-195(0.27×0.24×0.20) P-196(0.20×0.16×0.10) P-197(0.26×0.25×0.15) P-198(0.26×0.23×0.10) P-199(0.32×0.30×0.23) P-200(0.45×0.44×0.14) P-201(0.40×0.36×0.16)								
備考									

造構	S T - 0 7	図版	第 6 3 図	形態	側柱式(2×2間)	方位	N-12°-E	規模	3.88×3.86
柱穴	P-175(0.57×0.49×0.16) P-176(0.37×0.36×0.12) P-177(0.64×0.58×0.24) P-178(0.56×0.52×0.15) P-179(0.48×0.45×0.20) P-180(0.46×0.43×0.18) P-181(0.52×0.48×0.16)								
備考									

造構	S T - 0 8	図版	第 6 4 図	形態	側柱式(2×1間)	方位	N-10°-E	規模	3.14×3.10
柱穴	P-154(0.89×0.83×0.47) P-155(0.74×0.72×0.40) P-157(0.74×0.72×0.40) P-158(0.82×0.78×0.38) P-159(0.51×0.46×0.41) P-160(0.87×0.82×0.39)								
備考									

造構	SK - 0 1	SK - 0 2	SK - 0 3	SK - 0 4	SK - 0 5	SK - 0 6	
図版	第 6 5 図	第 6 5 図	第 6 5 図	第 6 6 図	第 6 6 図	第 6 6 図	
平面形態	梢円形	梢円形	梢円形	円形	梢円形	梢円形	
断面形態	たらい状	舟底状	たらい状	たらい状	たらい状	たらい状	
規 長径 短径 深さ	1. 2 8 0. 9 8 0. 2 3	2. 8 8 1. 5 0 0. 8 4	1. 8 1 0. 7 4 0. 0 7	?	1. 5 8 1. 2 6 1. 4 8	2. 6 0 1. 6 0 0. 2 2	1. 6 0 0. 1 7

第 13 表 造構観察表 (12)



1 A地区全体写真（北から。写真奥丘陵裾を浦野川が流れる）



2 A地区（写真中央）B地区（写真右）全体写真（東から。写真右奥に子檀嶺岳）



3 B地区全体写真（東から。写真右奥に子檀嶺岳）



4 B地区全体写真（西から。写真右奥手前に川西丘陵、その奥に小牧山塊）



5 SB-01躰出土状況
(南から)



6 SB-01躰
(南から)



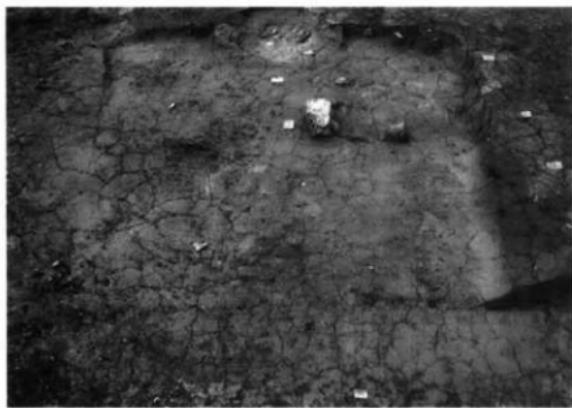
7 SB-01躰
(南から)

P
L
4

8 SB-01堆(天井石壁去)
(南から)



9 SB-02完掘状況
(西から)



10 SB-03
(SB-04, 05に割られる)
(南から)

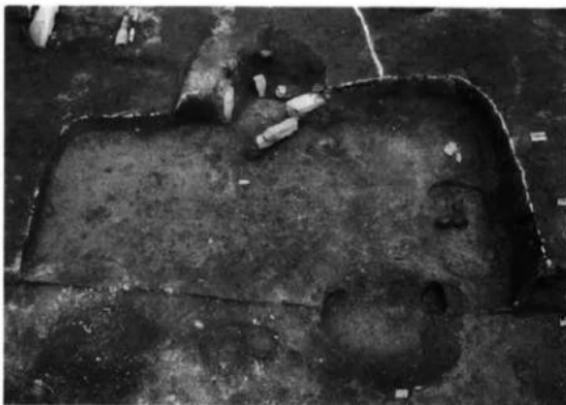




11 SB-03竪(盤上状況)
(南から)



12 SB-03竪完掘
(南から)



13 SB-04完掘状況
(SB-05E跡地)
(南から)

14 SB-04竪
(南から)



15 SB-05櫛出土状況
(南から)



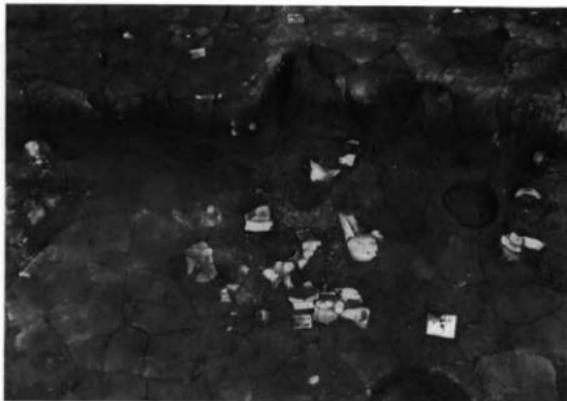
16 SB-05竪
(南から)



P
L
7



17 SB-06
(西から)



18 SB-06竪
(西から)



19 SB-07出土状況
(南から)

P
L
8

20 SB-07癡
(南から)



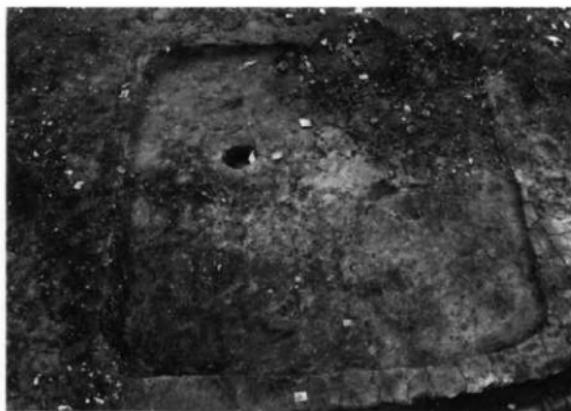
21 SB-08
(南から)



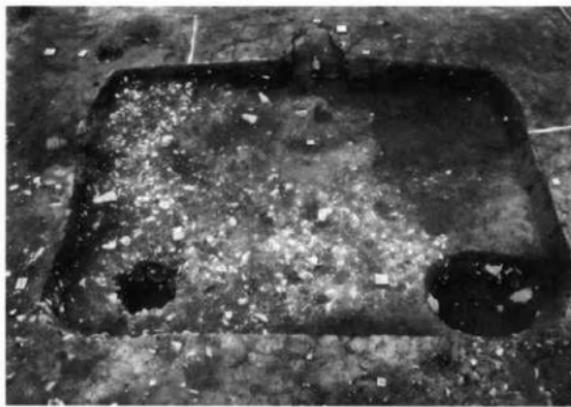
22 SB-08癡
(南から)



P
L
9



23 SB-09
(西から)



24 SB-10(SB-11を覗む)
(西から)



25 SB-10窓
(西から)

26 SB-11
(SB-10に割れる)
(南から)



27 SB-11窓
(南から)



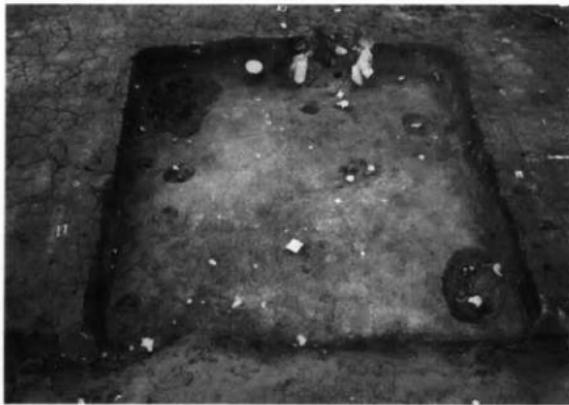
28 SB-12(SB-11を割る)
(西から)



P
L
11



29 SB-12裏
(手錠トレンチ)
(西から)



30 SB-13
(西から)



31 SB-13裏
(西から)

P
L
12

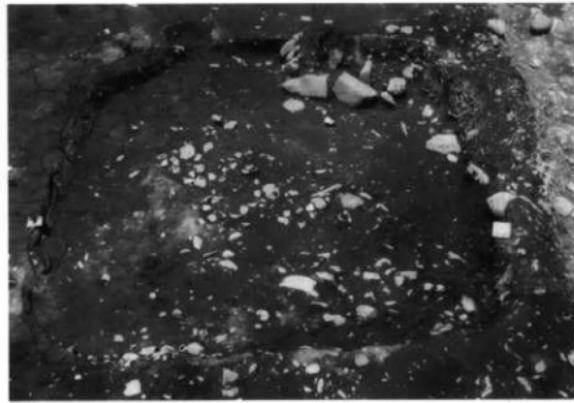
32 SB-14
(西壁側は暗渠構造)
(南から)



33 SB-15礫出土状況
(南から)



34 SB-15完掘
(南から)



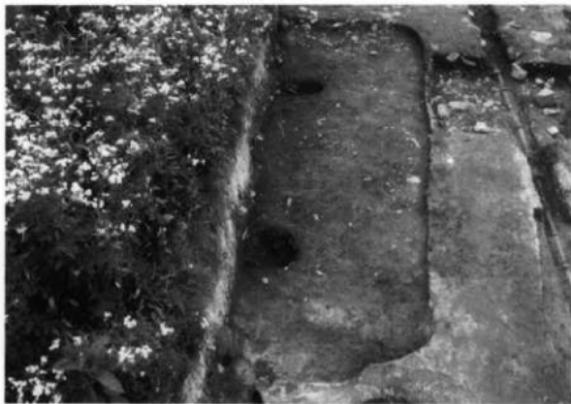
P
L
13



35 SB-16
(東から)



36 SB-16電
(東から)



37 SB-17(SB-18を替)
(南から)

38 SB-18(手前をSB-17に、
中央を標量標本に切られる)
(西から)



39 SB-18竪
(西から)



40 SB-19
(南から)





41 SB-19
(南から)



42 SB-21(SB-22を割る)
(南から)



43 SB-23(SB-32を割る)
(西から)

44 SB-23竈
(西から)



45 SB-24
(東から)



46 SB-24竈
(東から)





47 SB-26, 27(裏壁の手前)
壁から剥落したSB-26のブラン
(西から)

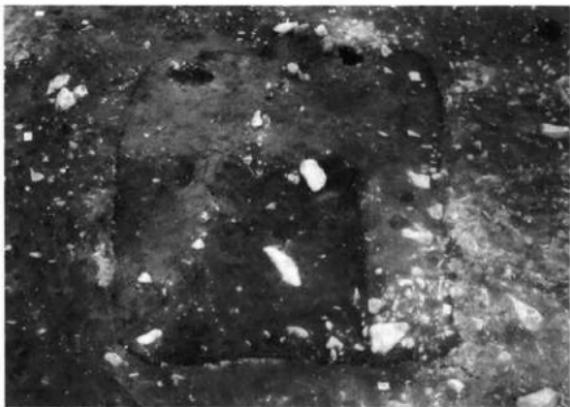


48 SB-26壁
(土砂が撒いたように土上)
(西から)

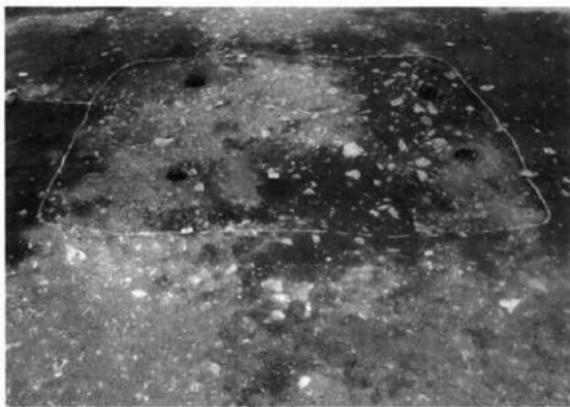


49 SB-26壁完掘
(西から)

50 SB-28
(西から)

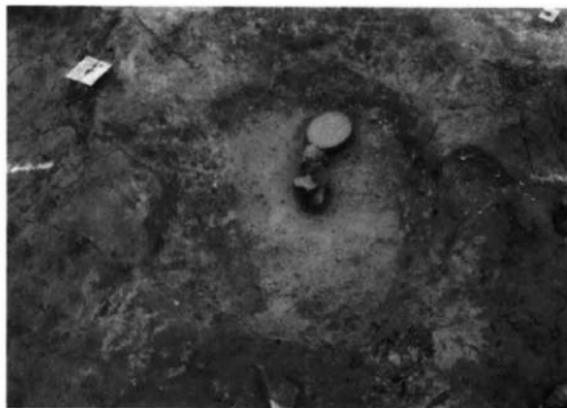


51 SB-29
(西から)



52 SB-30(SB-33を覗む)
(南東から)





53 SB-30 磚
(南東から)



54 SB-31 (SB-32を仰
面壁に據れる)
(西から)



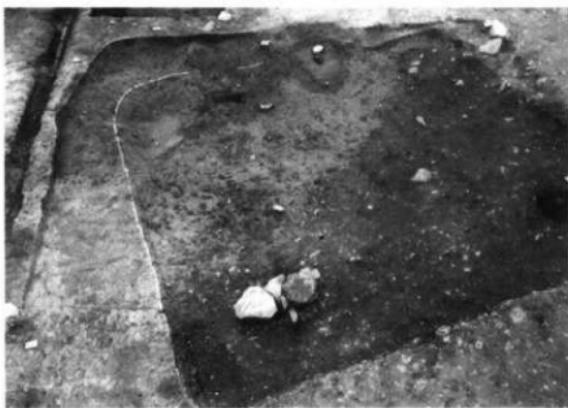
55 SB-31 磚
(西から)

P
L
20

56 SB-32
(SB-23, 31に割れる)
(南から)



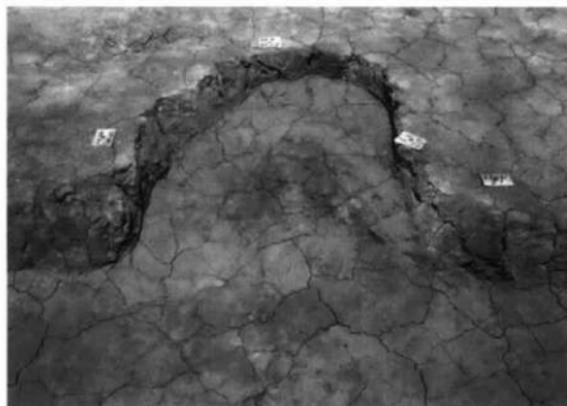
57 SB-33
(SB-31に割れる)
(南から)



58 SB-41
(南から)



P
L
21



59 SB-41廻
(南から)



60 SB-42
(南から)



61 SB-42廻
(南から)

P
L
22



62 SB-43
(南から)

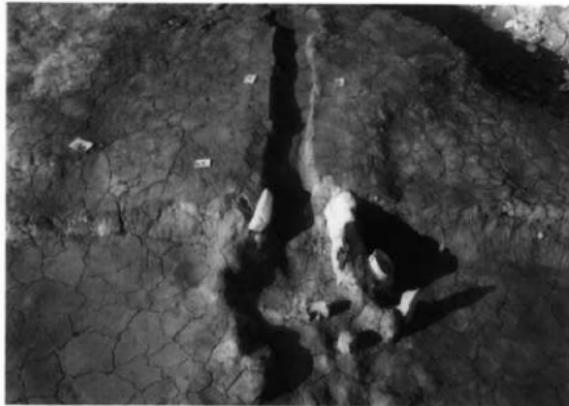


63 SB-43窓
(南から)

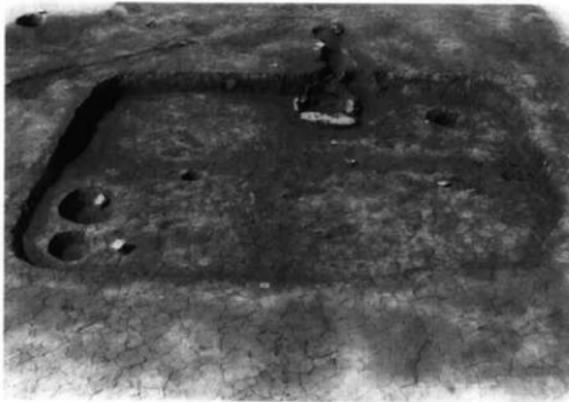


64 SB-44
(南から)

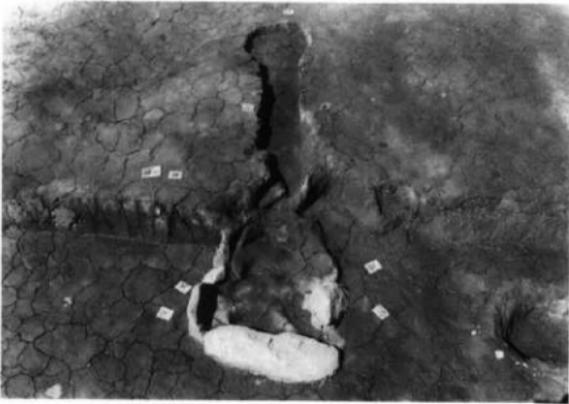
P
L
23



65 SB-44電
(南から)



66 SB-45
(南から)

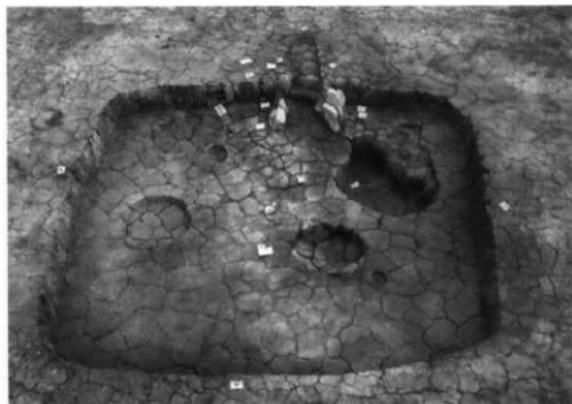


67 SB-45電(類似點)
(南から)

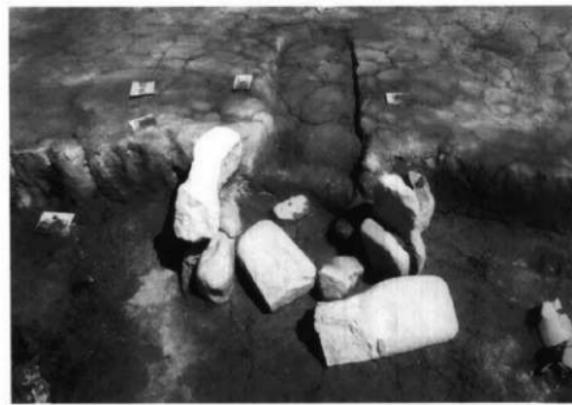
68 SB-46(蒙化材・覆土上段) (南から)



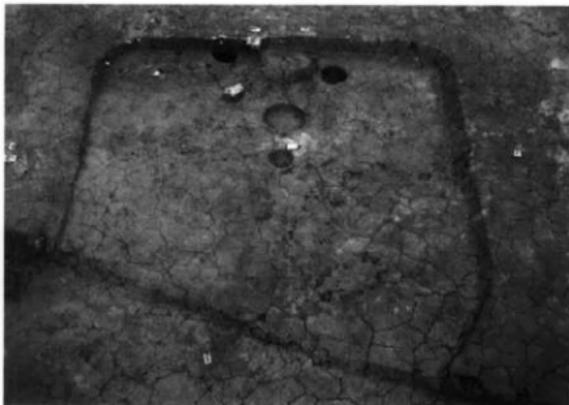
69 SB-46完掘 (南から)



70 SB-46発 (南から)



P
L
25



71 SB-47(手掘れトレンチ)
(西から)



72 SB-49
(南から)



73 SB-49甕 (甕出土)
(南から)

P
L
26

74 SB-49竪完掘
(南から)



75 SB-50
(南から)



76 SB-50竪
(南から)



P
L
27



77 SB-51
(南から)



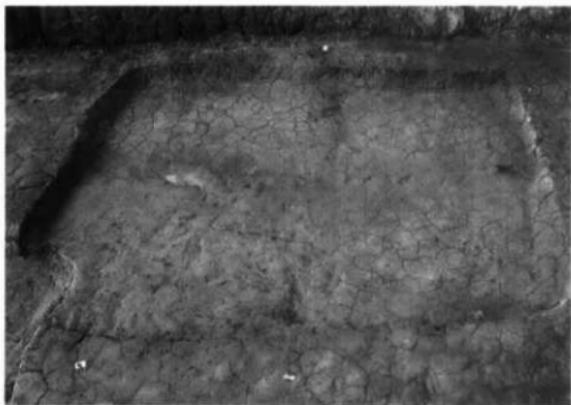
78 SB-51 置
(南から)



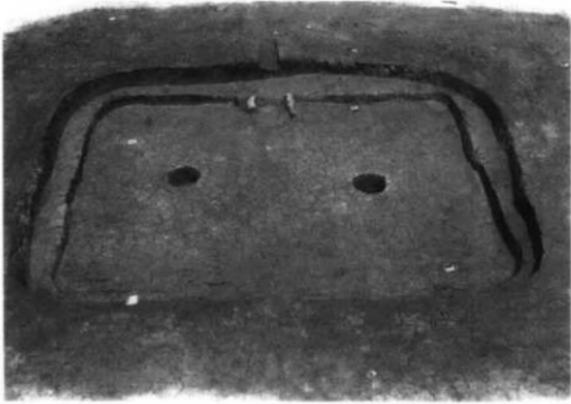
79 SB-52
(南から)

P
L
28

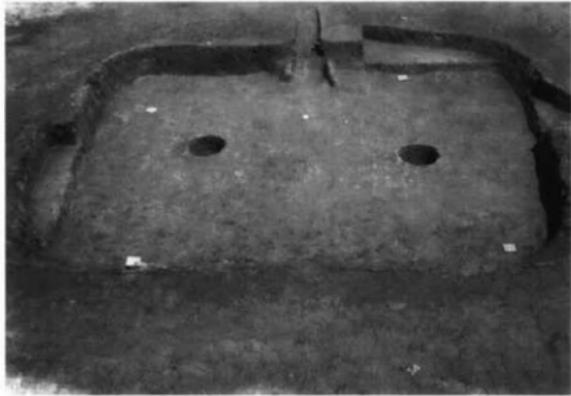
80 SB-53
(南から)



81 SB-54(内側のプラン=SB
-55に替わる)
(南から)



82 SB-55(SB-54を替える)
(南から)





83 SB-55龜
(南から)



84 SB-55獸骨出土
(南から)



85 SB-55獸骨出土
(南から)

P
L
30

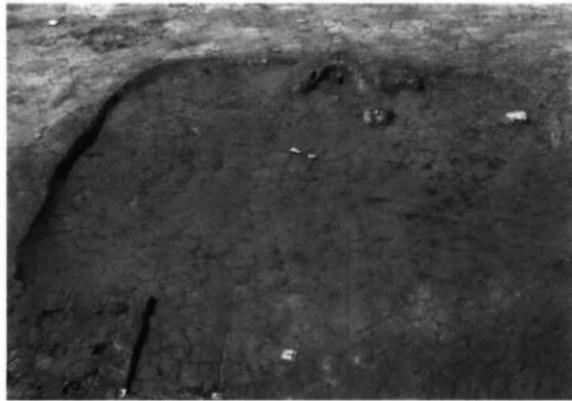
86 SB-56
(南から)



87 SB-56窓
(南から)



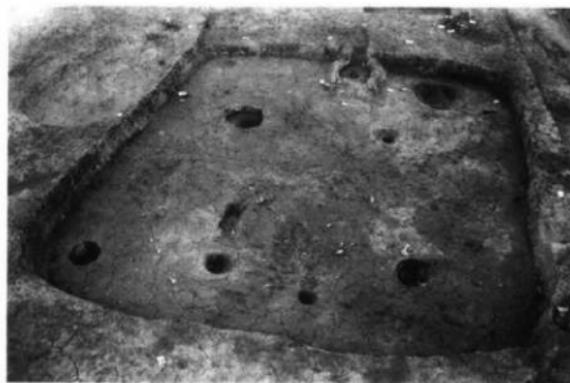
88 SB-58
(南から)



P
L
31



89 SB-58竪
(南から)



90 SB-59
(南から)



91 SB-59竪
(南から)

P
L
32

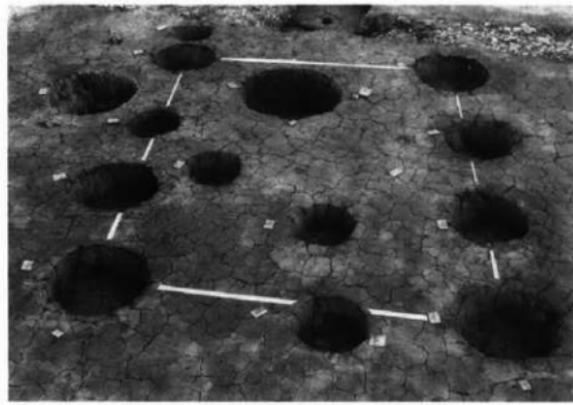
92 ST-01
(南から)



93 ST-02
(西から)



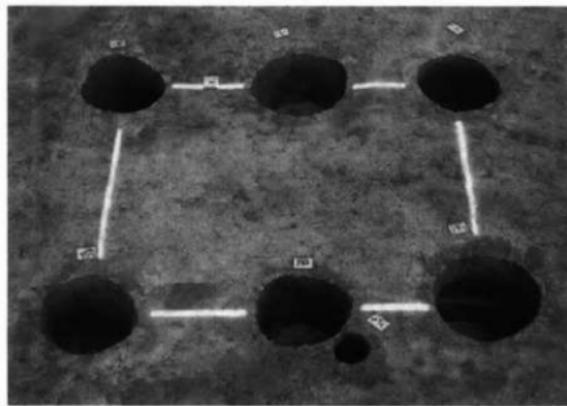
94 ST-03
(西から)



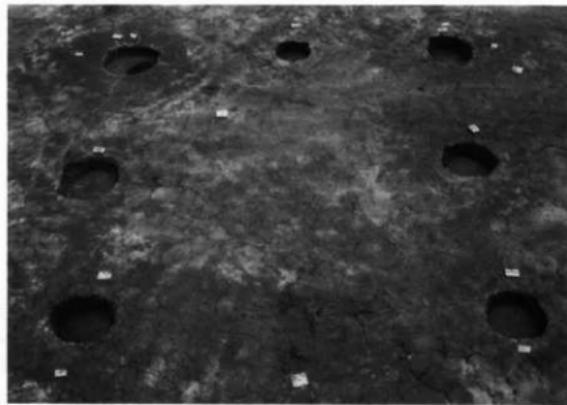
P
L
33



95 ST-04
(北から)



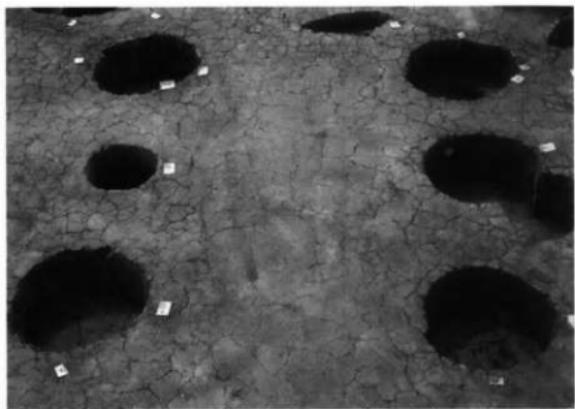
96 ST-05
(南から)



97 ST-07
(南から)

P
L
34

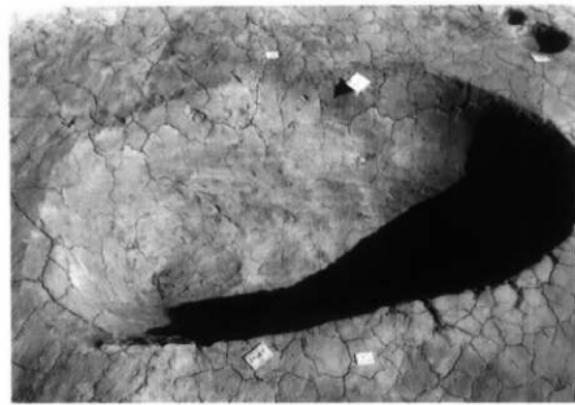
98 ST-08
(東から)

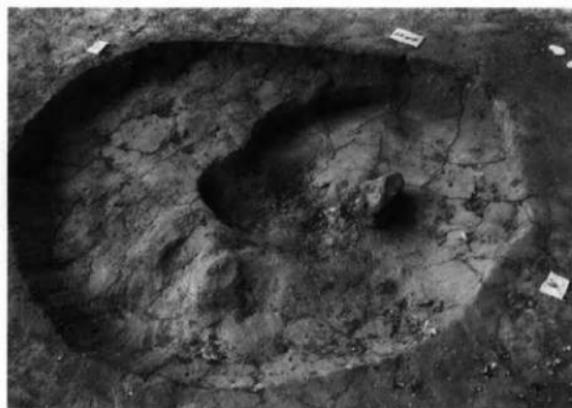


99 SK-01
(南から)

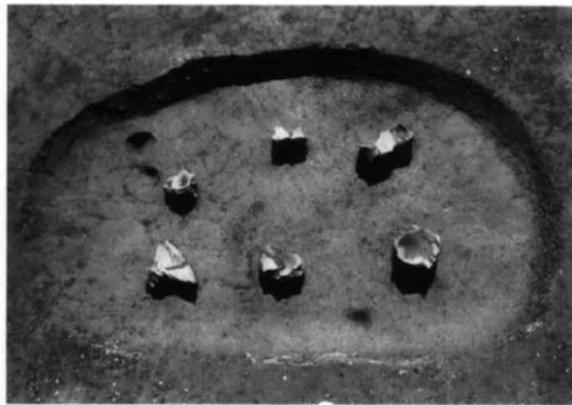


100 SK-02
(北から)





101 SK-04
(南から)



102 SK-06土器出土
(西から)



103 SD-01セクション

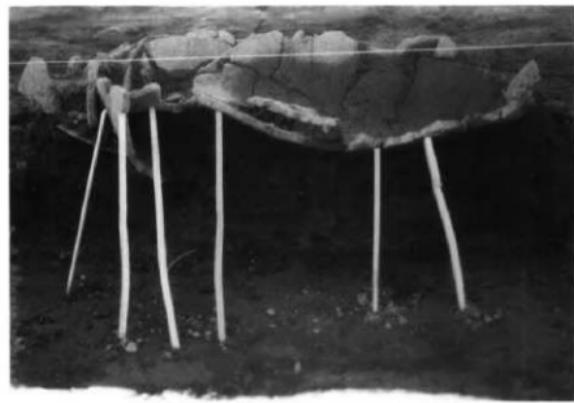
104 Po-01半切
(東から)



105 Po-01下部
(東から)



106 Po-02半切
(北から)





107 Po-05(右), 10(左)
(南から)

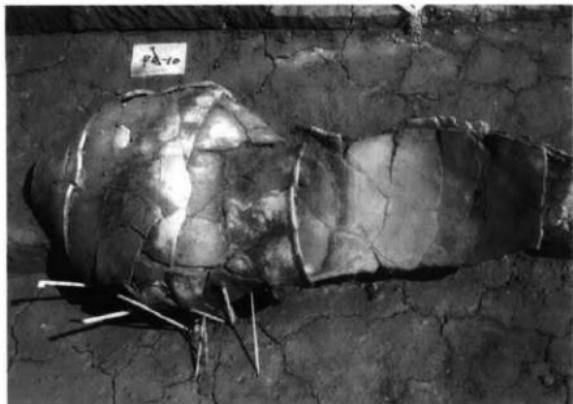


108 Po-05(左), 10(右)
(北から)



109 Po-05(左), 10(右)
(西から)

110 Po-05(右), 10(左)
(南から)



111 Po-16(右), 17(中),
18(左)
(南東から)



112 作業員の皆さん





113 SB-01須恵器・蓋



116 SB-02須恵器・蓋



114 SB-01須恵器・坏(蓋無缺切)



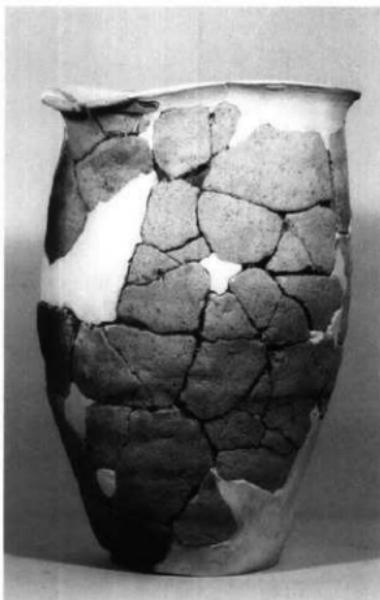
117 SB-02須恵器・坏(蓋無缺切)



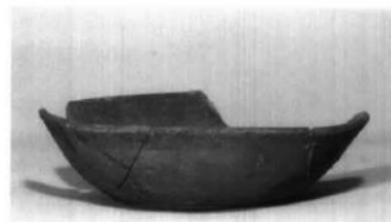
115 SB-01土師器・壺(縦縫・縦の割れ)



118 SB-03土師器・壺(瓶?)



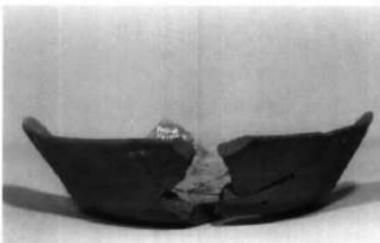
119 SB-03土師器・甕



122 SB-05須恵器・坏(須恵器・坏)



123 SB-06須恵器・坏(須恵器・坏)



120 SB-04須恵器・坏(須恵器・坏)



124 SB-07須恵器・坏(須恵器・坏)



121 SB-04土師器・甕



125 SB-07須恵器・坏(須恵器・坏)



126 SB-07須恵器・壺



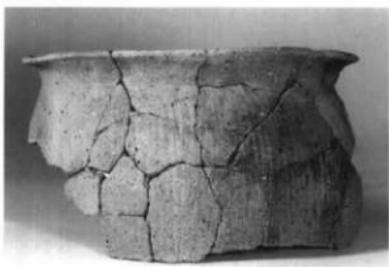
130 SB-08須恵器・壺(埴輪縫)



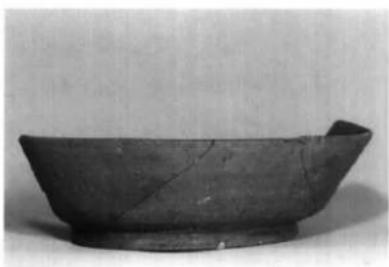
127 SB-07須恵器・壺



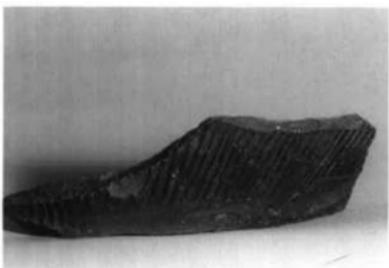
131 SB-11須恵器・壺(埴輪縫・未縫)



128 SB-07土師器・壺(埴輪毛状工具の縫跡で)



132 SB-11須恵器・壺(埴輪縫切)



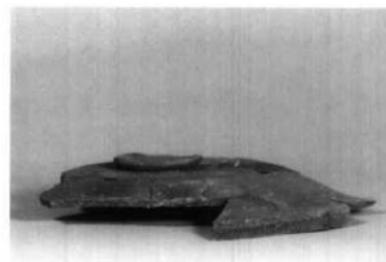
129 SB-07須恵器・壺(埴輪縫)



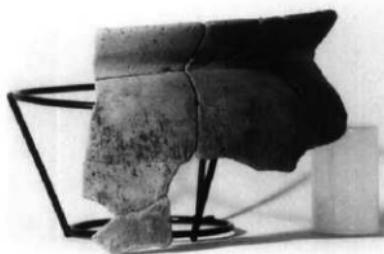
133 SB-12土師器・壺(埴輪縫・内縫)



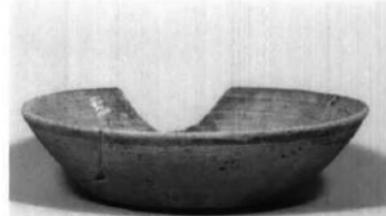
134 SB-12須恵器・壺(底面輪郭)



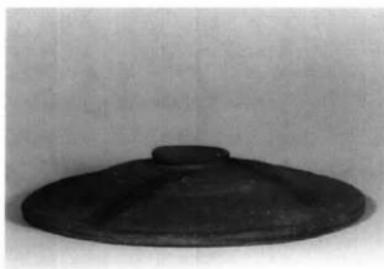
138 SB-13須恵器・蓋



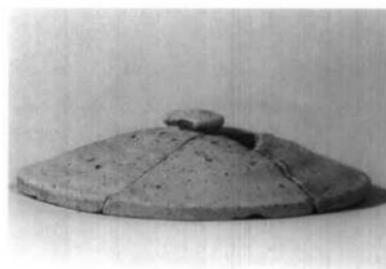
135 SB-12土師器・壺(底面輪郭)



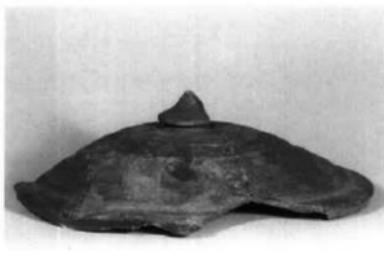
139 SB-14須恵器・壺(底面輪郭)



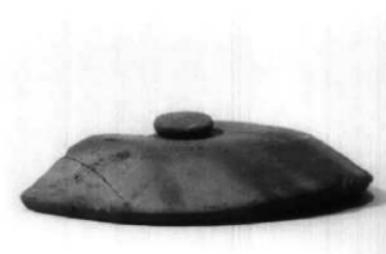
136 SB-13須恵器・蓋



140 SB-15須恵器・蓋



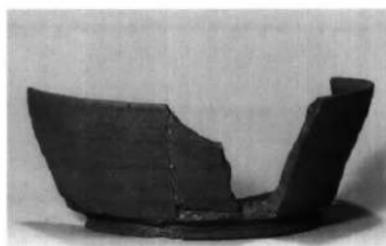
137 SB-13須恵器・蓋



141 SB-15須恵器・蓋(並み大きい)



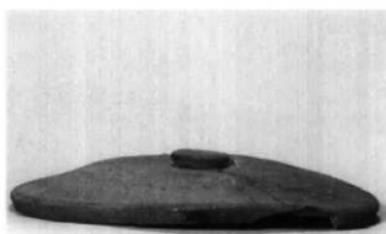
142 SB-15須恵器・蓋(天翻板縫)



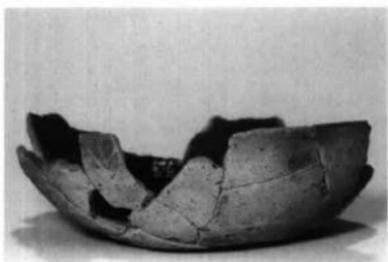
146 SB-15須恵器・坏(天翻板縫)



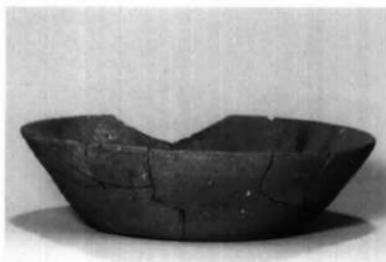
143 SB-15須恵器・坏(腹底・火燐あり)



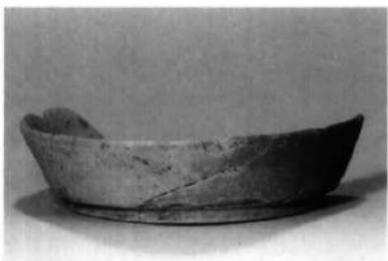
147 SB-16須恵器・蓋



144 SB-15土師器・坏(底盤剥離・内面藍色處理)



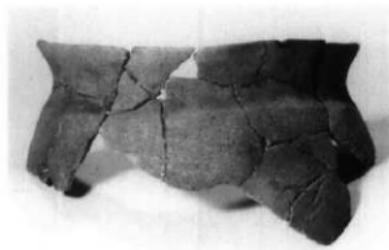
148 SB-16須恵器・坏(天翻板縫)



145 SB-15須恵器・坏(天翻板縫)



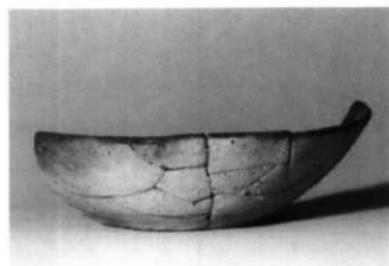
149 SB-18土師器・壺(脚部)



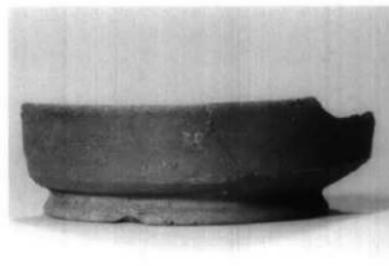
150 SB-18土師器・甕



154 SB-24須恵器・甕



151 SB-20土師器・坏(直腹板承切・内面墨色處理)



155 SB-26須恵器・坏(直腹板承切)



152 SB-21須恵器・坏(直腹板承切・端)



156 SB-30須恵器・蓋(163點隙・端)



153 SB-22土師器・甕



157 SB-30土師器・坏(直腹板承切・内面墨色處理)



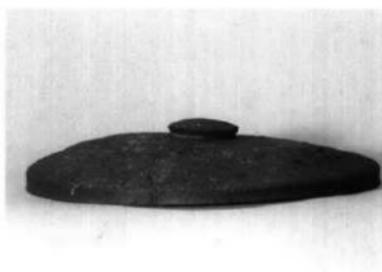
158 SB-30須恵器・坏



162 SB-30須恵器・甕(特調)



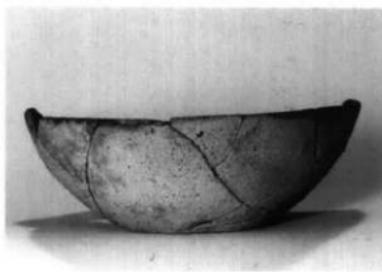
159 SB-30土師器・坏? (内面墨色處理)



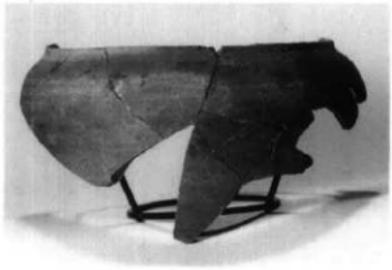
163 SB-31須恵器・蓋(156點雕・附)



160 SB-30土師器・高坏(軸彫刻の跡)



164 SB-32土師器・坏(底部土塗切・内面墨色處理)



161 SB-30須恵器・壺



165 SB-32須恵器・坏(底部土塗切)



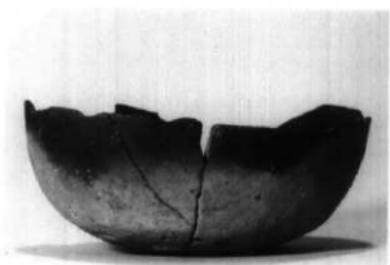
166 SB-42土師器・壺(爐)



169 SB-48須恵器・高壺(3脚炉)



167 SB-42土師器・壺(爐)



170 SB-49土師器・壺(爐・内面黒色)



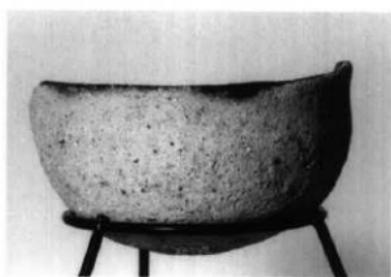
168 SB-44土師器・壺(爐)



171 SB-49土師器・壺



172 SB-49土師器・壺



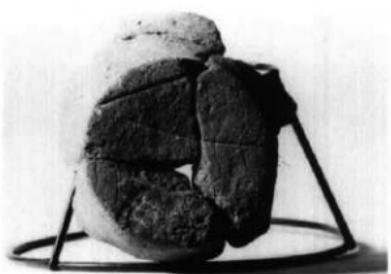
174 SB-51土師器・壺(丸底・青褐色刷)



175 SB-51土師器・壺



173 SB-49土師器・壺



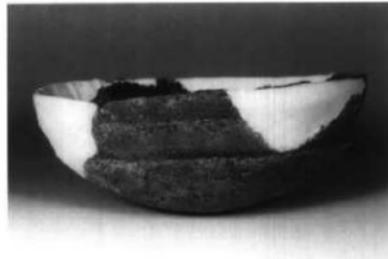
176 SB-51土師器・壺(粗粒體)



177 SB-52須恵器・蓋



178 SB-52須恵器・坏



182 SB-57土師器・坏（丸底）



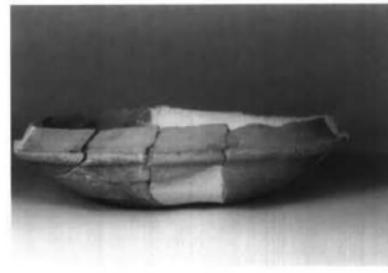
179 SB-52須恵器・瓶



183 SB-59須恵器・蓋(蓋あわせ)



180 SB-52須恵器・瓶（同上）



184 SB-59須恵器・坏



181 SB-52 土師器・坏（丸底・内黒）



185 SB-59須恵器・蓋



186 SD-01土師器・壺



189 Po-08弥生土器・壺(縫紋)



187 SD-01須恵器・壺(粘土)



190 Po-12弥生土器・鉢(縫紋)



188 SK-06弥生土器・高杯(縫紋)



191 Po-05弥生土器・壺(縫紋・波紋・雲格)



192 Po-10弥生土器・壺(縹紋・波紋・點)



193 Po-13弥生土器・壺



194 95.4.27調査風景(A区社員・遺構検査)



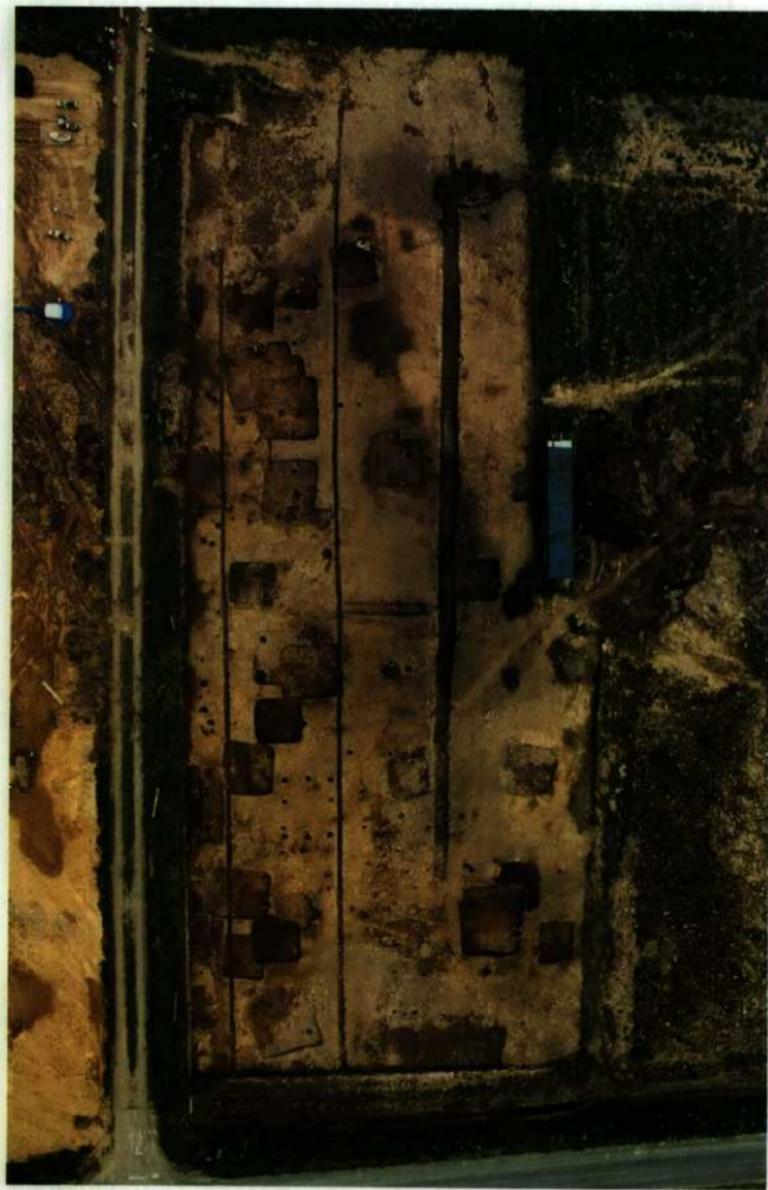
195 95.5.26調査風景(B区社員・遺構検査)



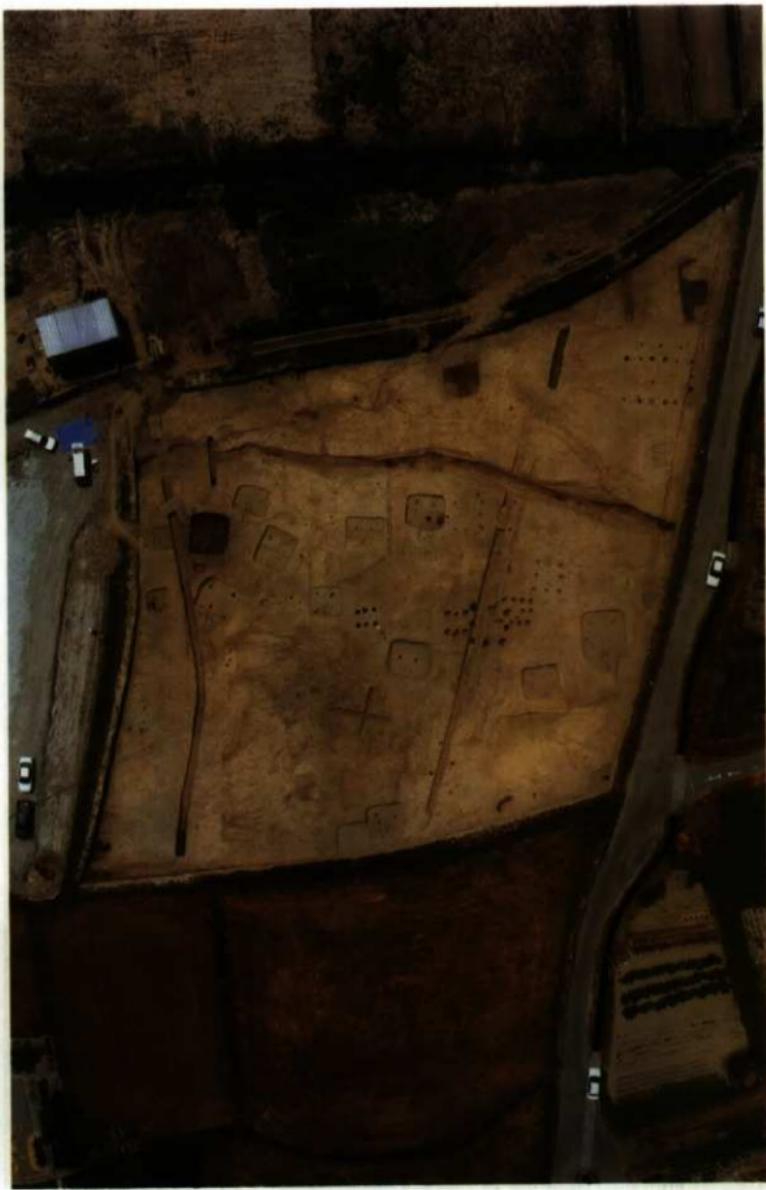
196 95.6.26雨天・土器洗い



197 95.8.7 現地調査最終盤



198 A地区全体写真（写真下が南）



199 B 地区全体写真（写真下が北）

報告書抄録

書名（ふりがな）	藤之木遺跡（ふじのきいせき）
シリーズ名	上田市文化財調査報告書
シリーズ番号	第57集
編著者名	中沢篤士
編集機関	上田市教育委員会
所在地	●386 長野県上田市天神二丁目4番74号
発行年月日	1996年3月31日
所収遺跡名（ふりがな）	藤之木遺跡
所在地	上田市大字浦野字湯道
コード（市町村・遺跡番号）	20203・380
北緯・東経（°'")	36° 23' 30" + 138° 09' 45"
調査期間	1995・4・17~8・12
調査面積	6,500m ²
調査原因	浦里住宅団地造成事業

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
藤之木遺跡	集落跡	古墳 奈良 平安	堅穴住居址 掘立柱建物跡 土壙 溝址	弥生土器 土師器・須恵器 人骨・獸骨 環珠・ガラス小玉	

上田市文化財調査報告書第57集
藤之木遺跡
 - 藤之木遺跡発掘調査概報 -

発行 1996年3月31日
 編集 上田市教育委員会
 印刷 有限会社 竹内印刷所

